

# Intel Unite<sup>®</sup> V4.0 ソリューション構築ガイド

---

# 目次

---

Intel Unite® ソリューションのマニュアル .....	1
Intel Unite® ソリューションをお使いになる前に.....	1
マニュアルの表記 .....	1
<b>Intel Unite ソリューションの概要 .....</b>	<b>2</b>
<b>インストール .....</b>	<b>3</b>
エンタープライズ・サーバーのインストール.....	3
● コンピューター名を設定する .....	3
● IP アドレスを固定する .....	5
● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を有効にする ..	8
● ドメインのセットアップ .....	13
● DNS の設定 .....	19
● DHCP サーバーの設定 .....	22
● 自己証明を作成する .....	33
● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を構成する ...	38
● SQL サーバーのインストール .....	41
● URL Rewrite のインストール .....	55
● Intel Unite エンタープライズ・サーバーのインストール.....	56
● 正常にインストールされたことを確認する (Microsoft SQL Server) .....	62
● 正常にインストールされたことを確認する (MySQL Server) .....	63
● DNS TXT レコードの設定 .....	65
● 電子メールサーバーの設定 .....	68
● Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成 .....	70
Unite ハブ、クライアント用の各構成の作成 .....	72
● パッケージファイルのセットアップ .....	72
● ハブ、クライアント構成の作成・割り当て .....	75
Unite ハブのインストール.....	80
● ハブ PC のセットアップ.....	80
● 証明書のインストール.....	81
● Intel Unite ハブ アプリケーションのインストール .....	91
● ファイアウォールの設定 .....	93
● Intel Unite アプリケーション (ハブ) の自動ペアリング .....	97
Unite クライアントのインストール .....	99
● 証明書のインストール.....	99
● Unite クライアントのインストール.....	99


# Intel Unite® ソリューションのマニュアル

本書では、Intel Unite ソリューションの導入手順を、画面入りで説明しています。  
本書のほかに、ダウンロードサイトに次のマニュアルが用意されています。用途に応じてご活用ください。

- ・ Intel Unite ソリューション V4.0 エンタープライズ導入ガイド.pdf
- ・ Intel Unite ソリューション V4.0 ユーザーガイド.pdf

## Intel Unite® ソリューションをお使いになる前に

Intel Unite®ソリューションをご使用中に省電力モードにならないよう、ハブ PC となる本装置（ESPRIMO Q956/MRE）を次のように設定してください。本書の手順の中でも説明しています。

**1** （スタート）→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。

**2** 「バランス」の「プラン設定の変更」をクリックします。

次のように設定します。

- ・ ディスプレイの電源を切る：適用しない
- ・ コンピューターをスリープ状態にする：適用しない

**3** 「変更の保存」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

## マニュアルの表記

このマニュアルの内容は、2019 年 6 月現在のものです。

### ■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種や環境によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

### ■ 製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Intel Unite®	Intel Unite

### ■ 商標および著作権について

インテル、Intel および Intel Unite は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

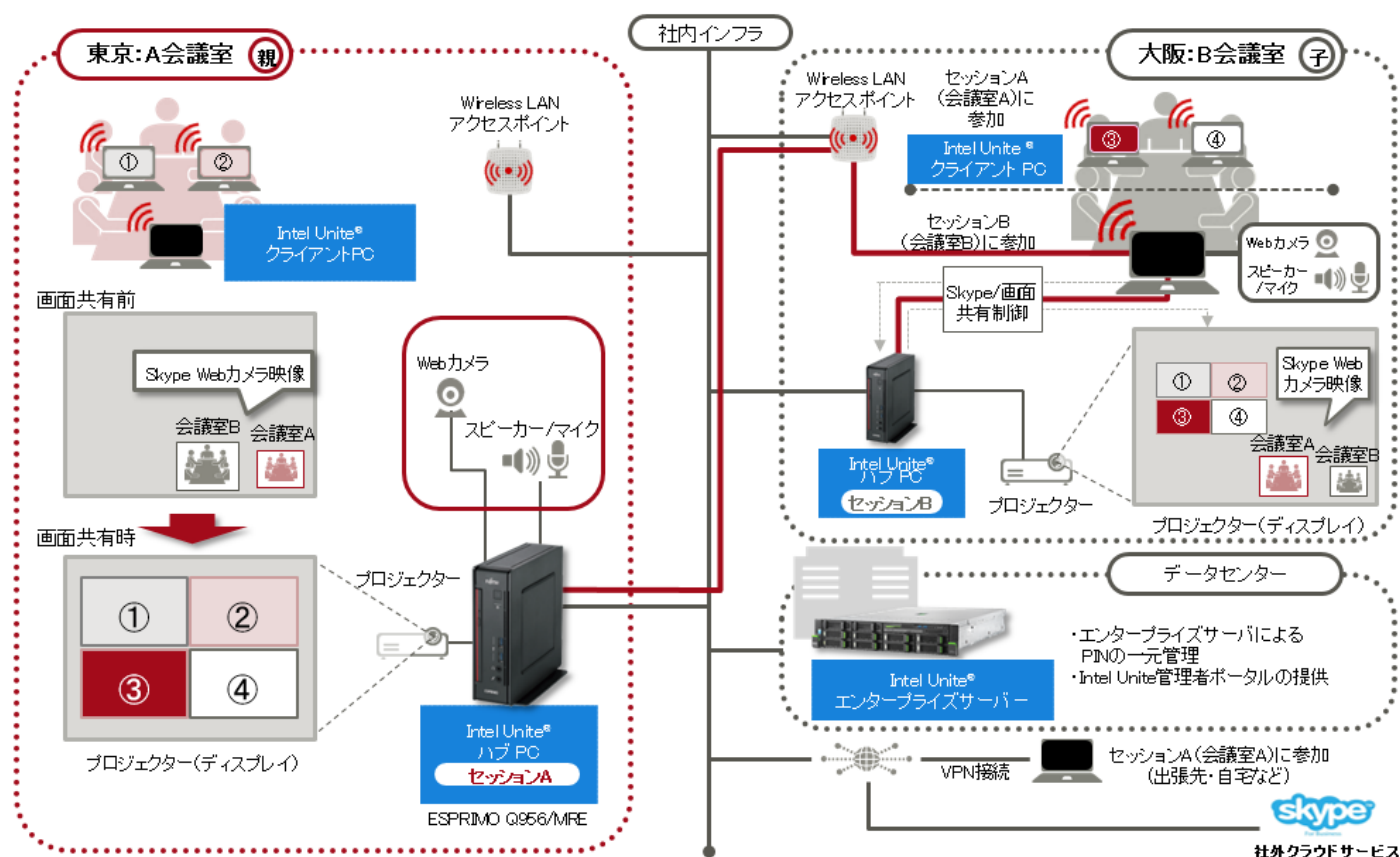
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2019

# Intel Unite ソリューションの概要

複数の会議室や別のオフィスなどから資料を共有し、オンライン会議を行うことができます。Microsoft Windows Server 2012 R2 以降、Microsoft SQL Server 2012 SP4 以降または MySQL 5.7 以降が稼働する Web サーバーが必要になります。

遠隔地とのオンライン会議を行う場合、別途音声会議システム等を利用する必要があります。次の図は、Skype for Business プラグインを利用し、Skype 会議と連携する場合の構成例になります。



## 重要 (Important)

- Intel Unite V4.0 よりスモールビジネスモードは廃止されました。



# インストール

次の順序でインストールを実施します。

- ・ エンタープライズ・サーバーのインストール
- ・ Unite ハブのインストール
- ・ Unite クライアントのインストール

本書では、操作手順を中心に説明しています。システム要件や注意事項などは、『Intel Unite ソリューション V4.0 エンタープライズ導入ガイド.pdf』をご覧ください。


## 重要

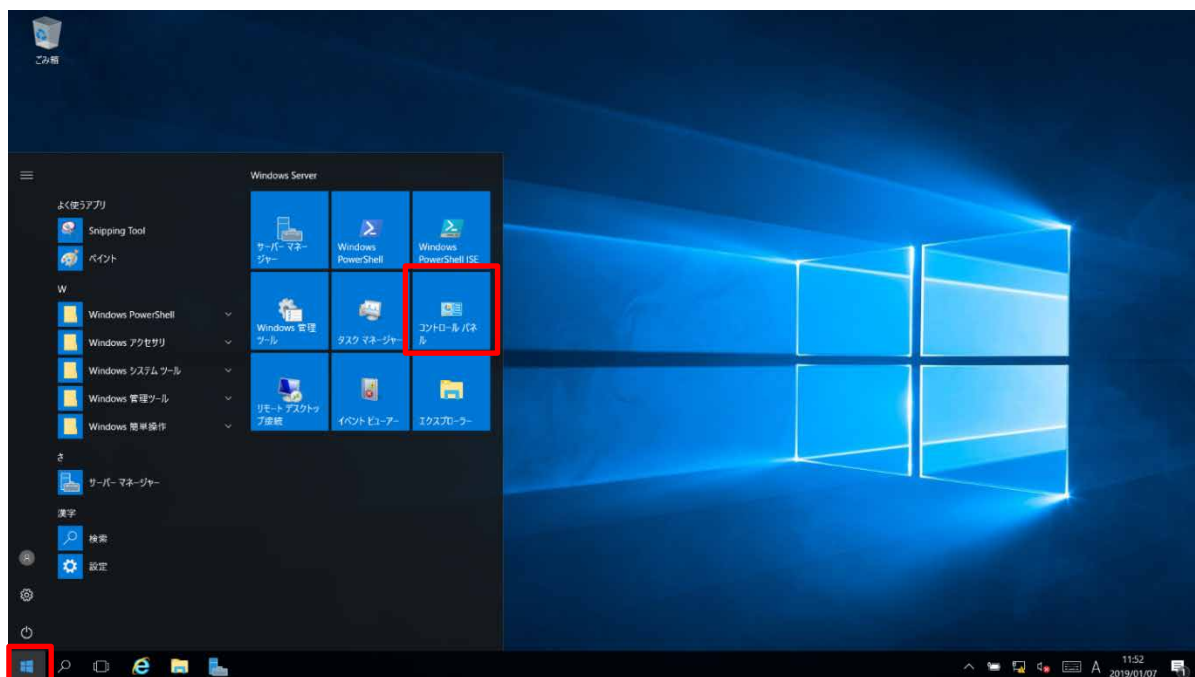
- ・ 本書の手順で使用しているサーバー名やドメイン名などは説明のための一例です。お使いの環境に合わせて変更してください。そのまま入力した場合、正しく動作しません。
- ・ お使いの環境により必要な設定が異なります。環境に合わせて設定してください。

## エンタープライズ・サーバーのインストール

ここでは、Windows Server 2016 での設定を例に、インストールの手順を説明します。

### ● コンピューター名を設定する

- 1  (スタート) → 「コントロール パネル」の順にクリックします。



「コントロールパネル」が開きます。

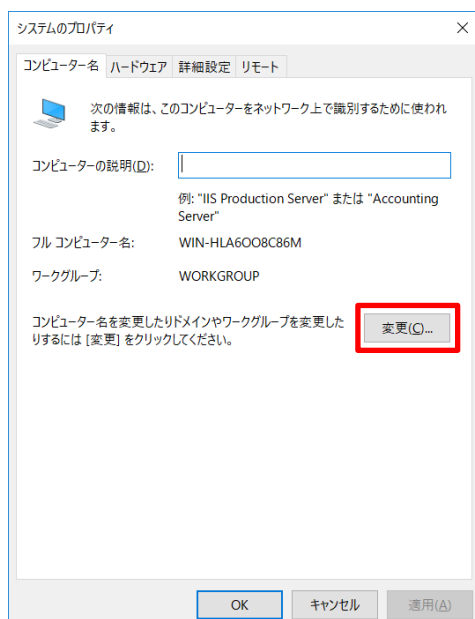
## 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。



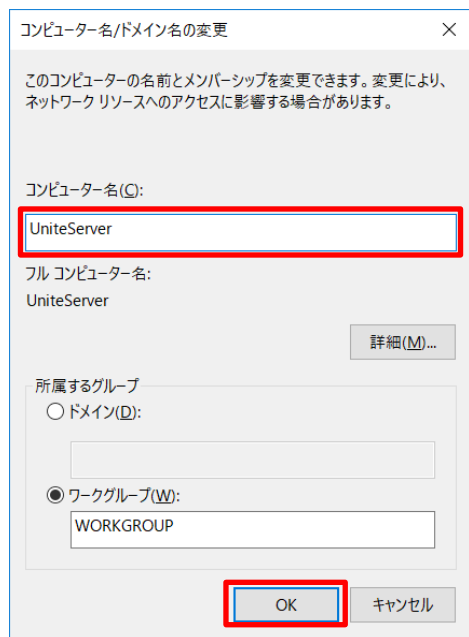
## 3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「設定の変更」をクリックします。



## 4 「変更」をクリックします。




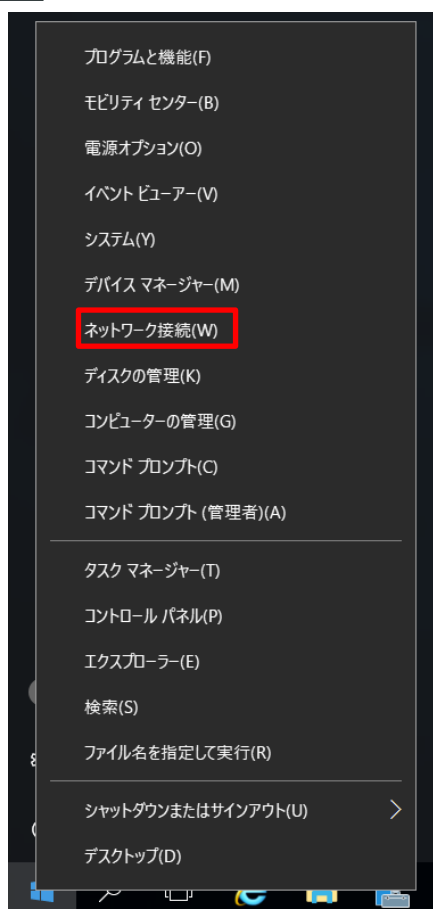
- 5 「コンピューター名」に、エンタープライズ・サーバー用の名前を入力（例：UniteServer）し、「OK」をクリックします。



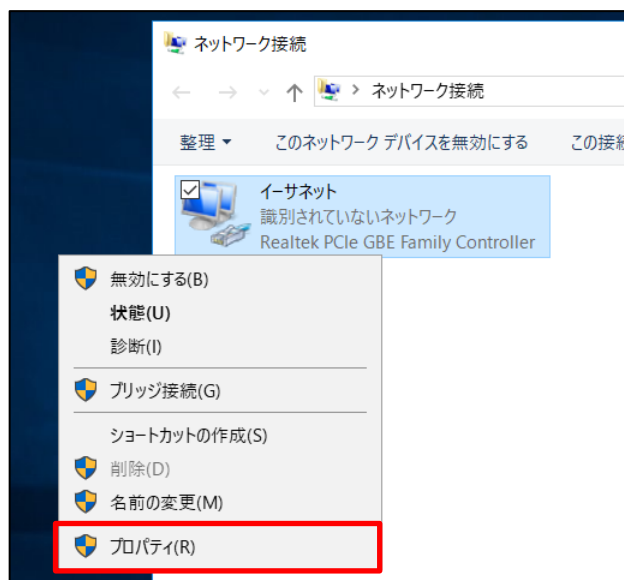
- 6 再起動を要求されますので、「システムのプロパティ」を閉じ、再起動を実行します。

## ● IP アドレスを固定する

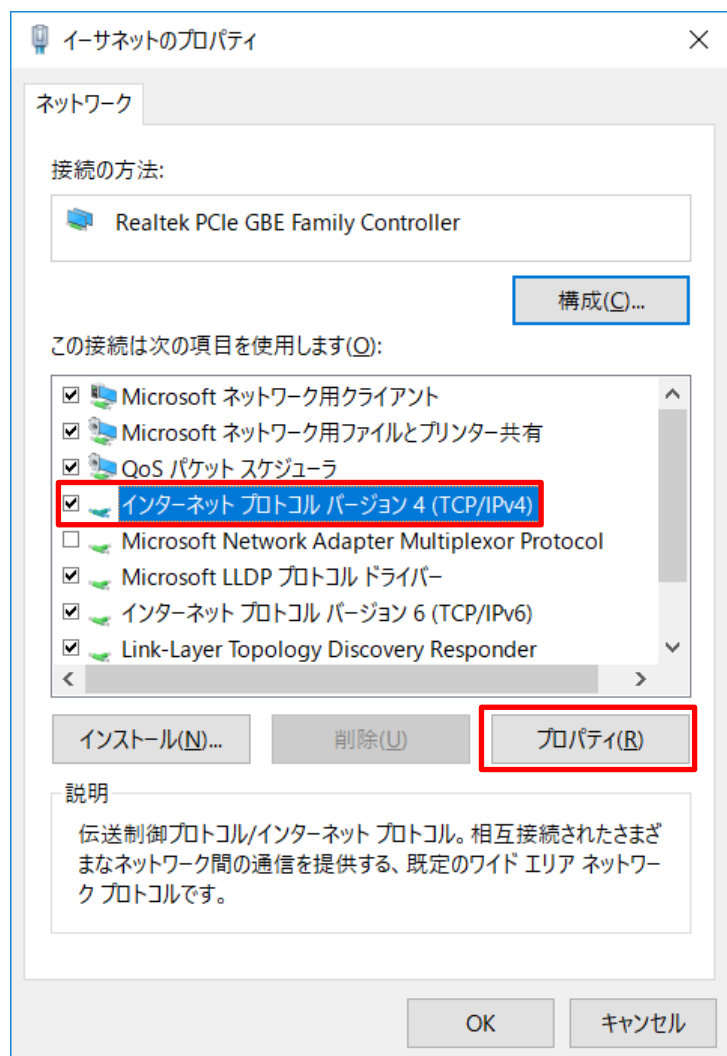
- 1  (スタート) を右クリックし、「ネットワーク接続」をクリックします。



2 使用するネットワークデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



3 「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



- 4 「次の IP アドレスを使う」にチェックを付け、IP アドレス、サブネットマスクを設定（例：192.168.1.101、255.255.255.0）し、「OK」をクリックします。

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

☐ IP アドレスを自動的に取得する(O)

☒ 次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 1 . 101

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

☐ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

☒ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): . . .


代替 DNS サーバー(A): . . .

☐ 終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

## ● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を有効にする

1  (スタート) → 「サーバー マネージャー」の順にクリックします。

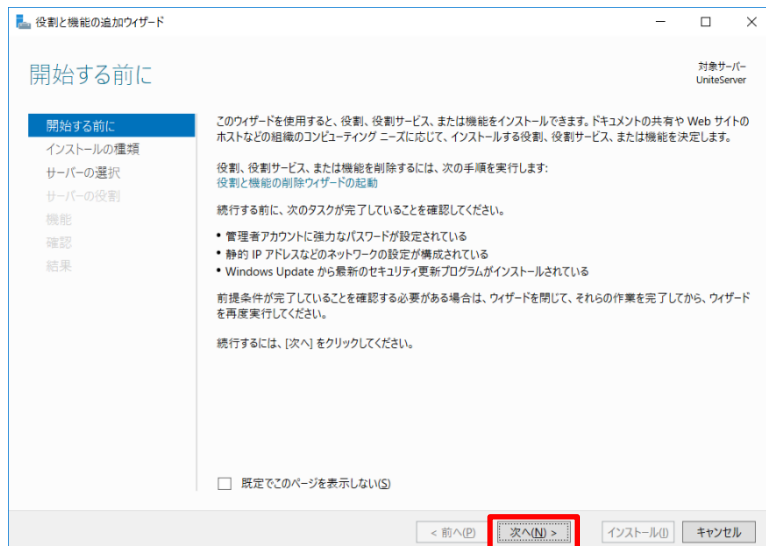


2 「役割と機能の追加」をクリックします。



「役割と機能の追加ウィザード（開始する前に）」が表示されます。

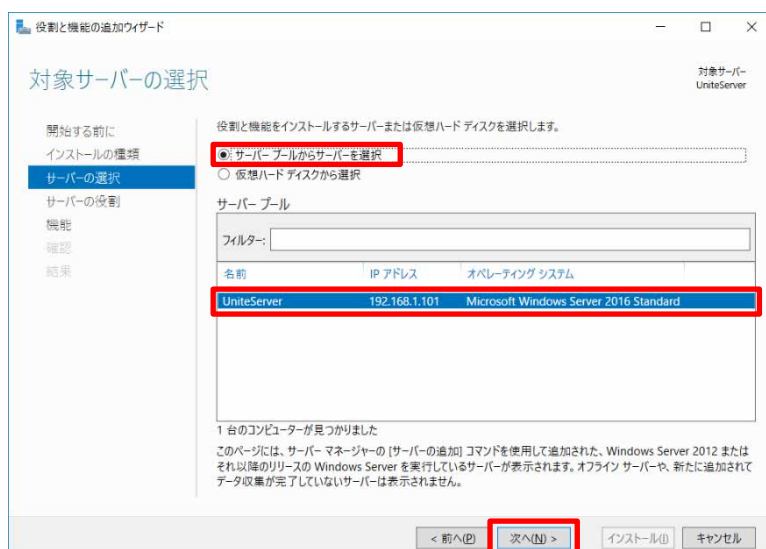
### 3 「開始する前に」画面で「次へ」をクリックします。



### 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。

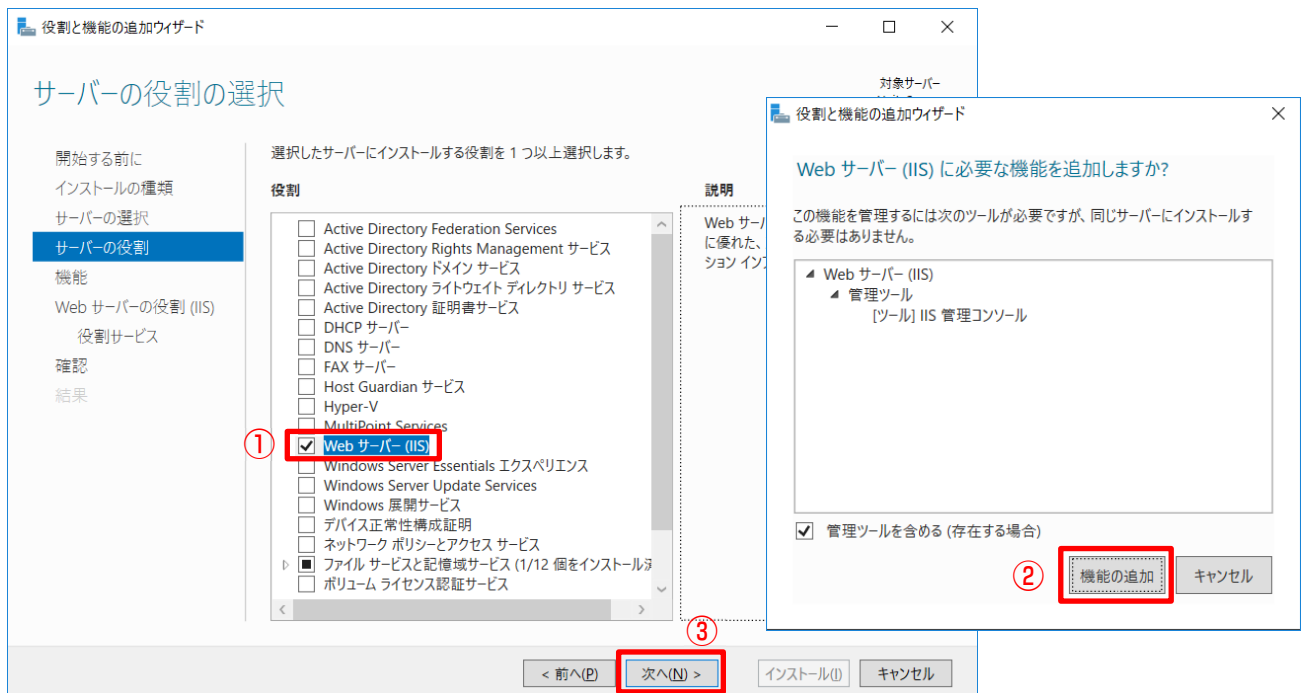


### 5 「サーバープールからサーバーを選択」を選択し、サーバープールの欄からサーバーをクリックして「次へ」をクリックします。



## 6 次の操作をします。

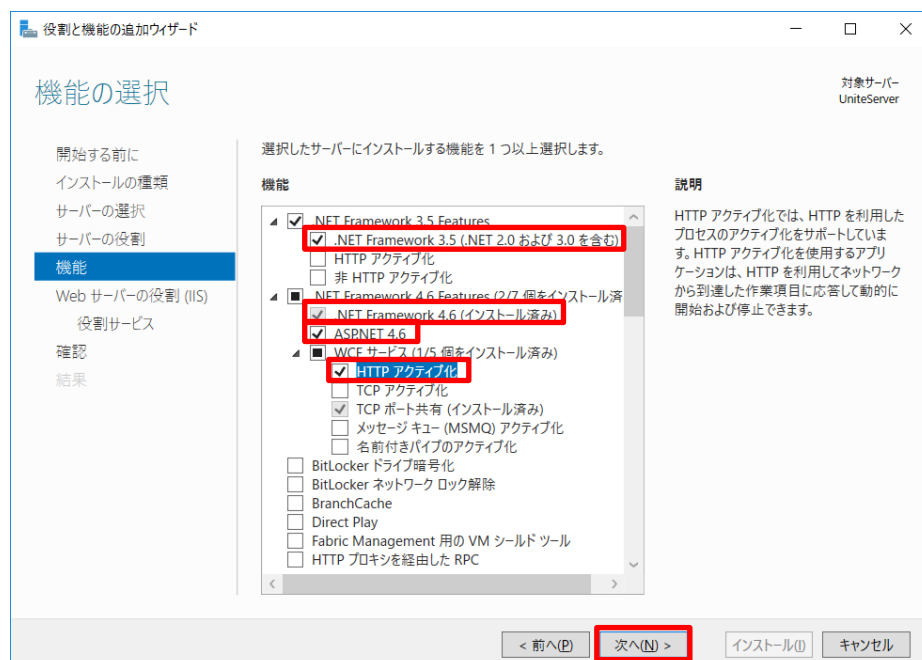
- ① 「Web サーバー (IIS)」 をクリックします。
- ② 「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら、「機能の追加」をクリックします。
- ③ 「サーバーの役割の選択」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。



## 7 次の項目を選択し、「次へ」をクリックします。

- .NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)
- .NET Framework 4.6
- ASP.NET 4.6
- HTTP アクティブ化 (WCF サービス下)

項目選択時に「役割と機能の追加ウィザード」が表示された場合は、「機能の追加」をクリックします（インストール済みのものは操作不要です）。



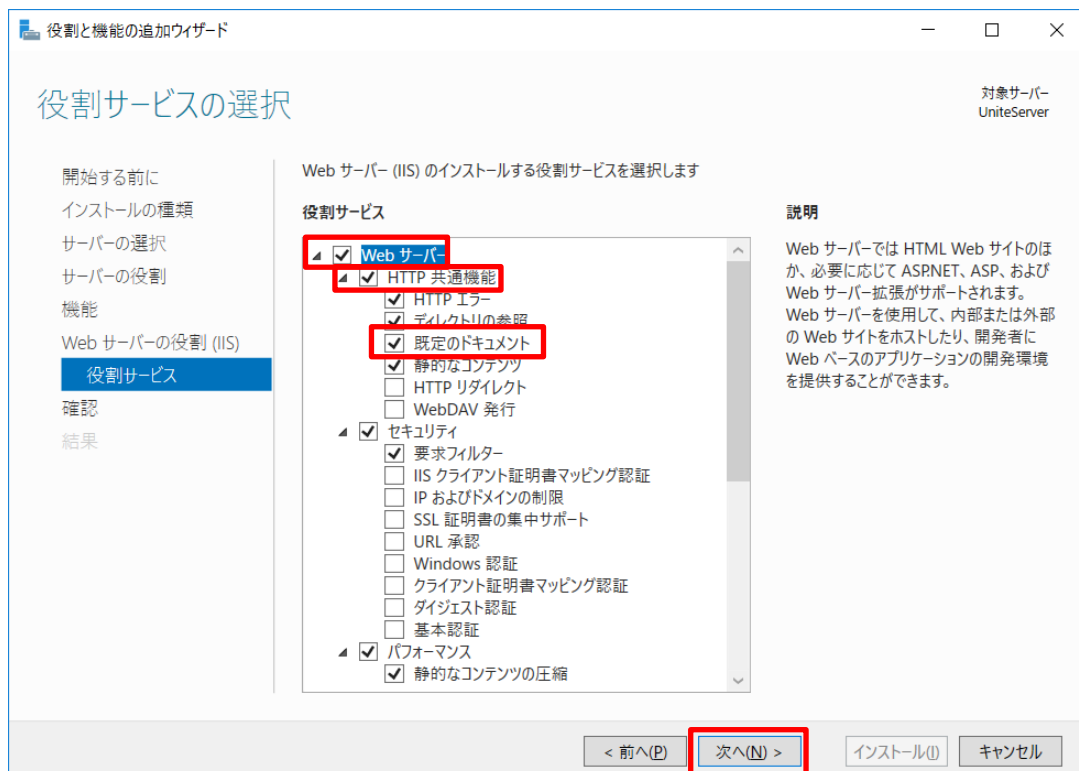


## 8 「Web サーバーの役割 (IIS)」画面で「次へ」をクリックします。



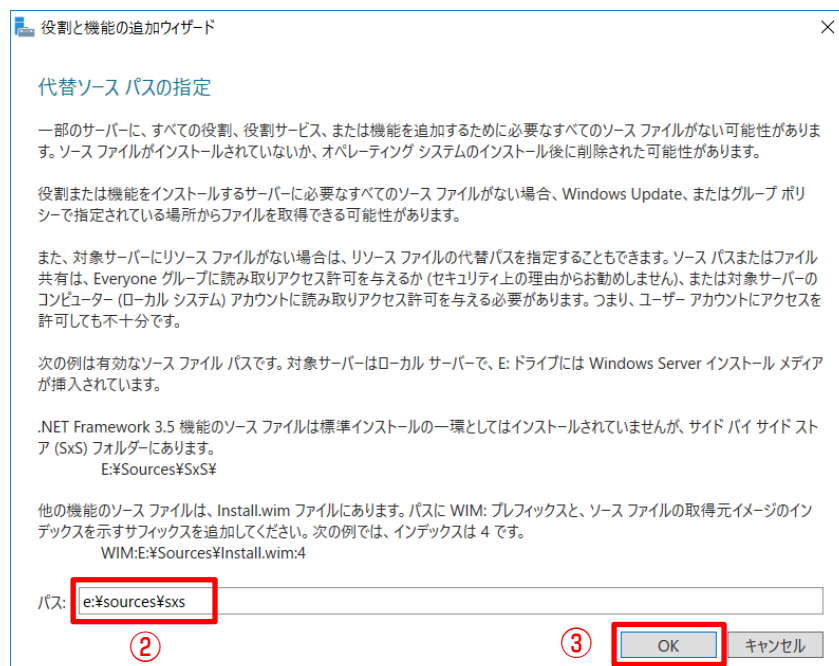
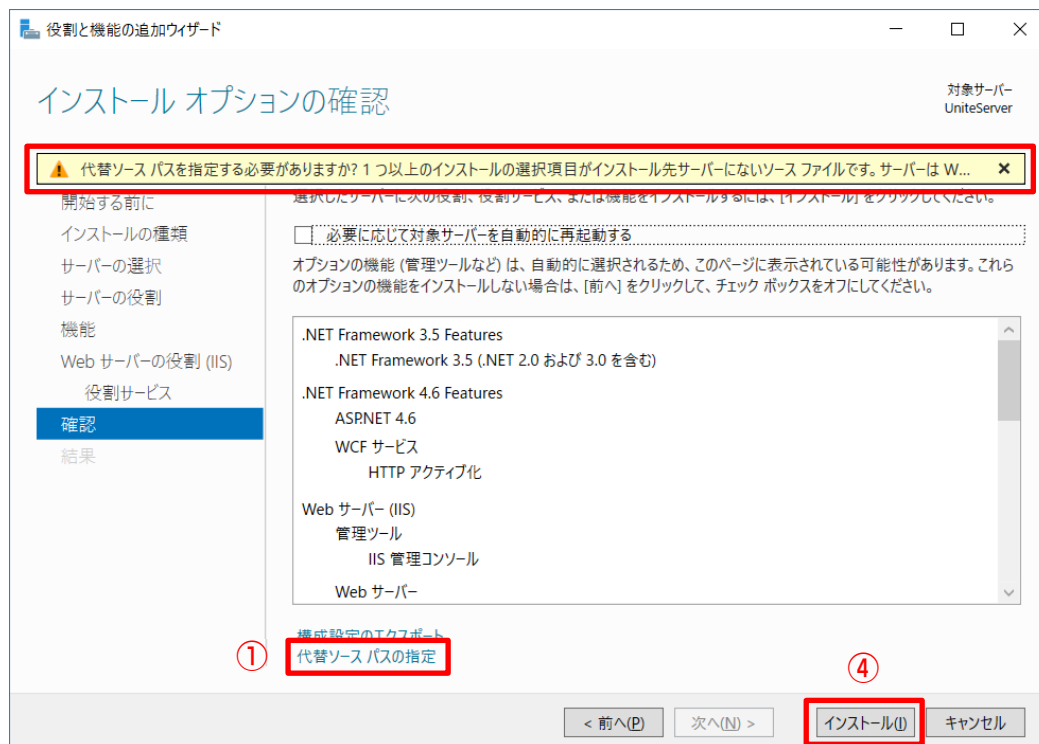
## 9 次の項目を選択し、「次へ」をクリックします。

- Web サーバー
- HTTP 共通機能
- 既定のドキュメント



**10** Windows Update へのアクセスができない環境では「代替ソースパスを指定する必要がありますか?」と表示される場合があります。この場合は、次の操作を行います。


- ① 「代替ソース パスの指定」をクリックします。
- ② 「代替ソース パスの指定」画面の「パス」に Windows Server OS のインストールメディア上の「e:\sources\sxs」を指定します。(e:の部分は、メディアがセットされたドライブ名に変更します。)
- ③ 「OK」をクリックします。
- ④ 「インストール」をクリックします。

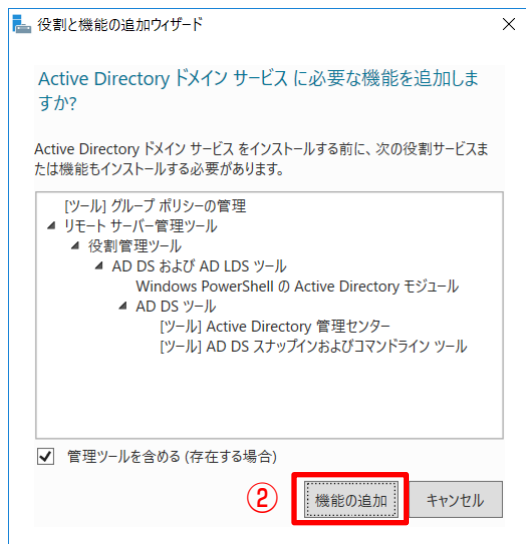
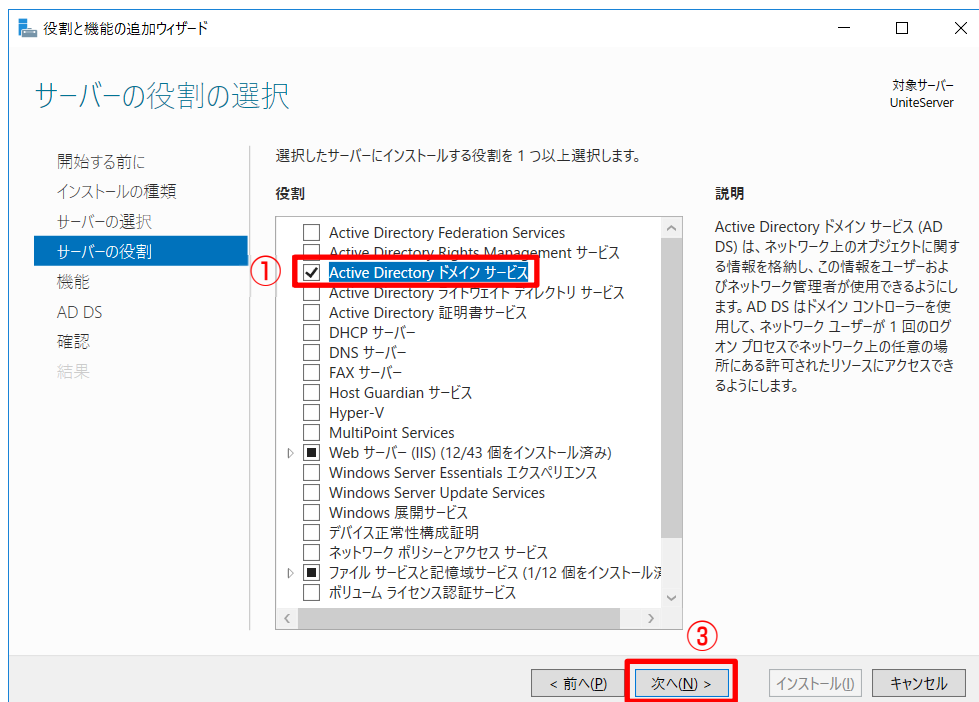


機能のインストールが実行されます。

**11** インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

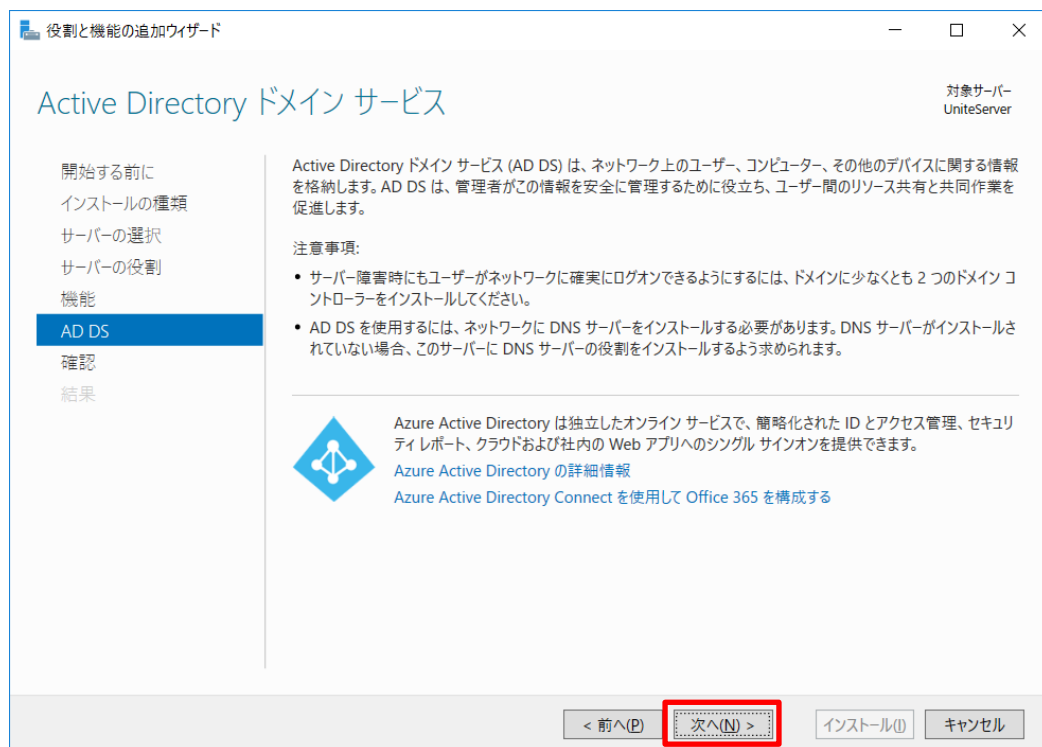
## ● ドメインのセットアップ

- 1  (スタート) → 「サーバー マネージャー」の順にクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」を選択し、サーバープールの欄からサーバーをクリックして「次へ」をクリックします。
- 6 次の操作を行います。
  - ① 「Active Directory ドメイン サービス」をクリックします。
  - ② 「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら、「機能の追加」をクリックします。
  - ③ 「サーバーの役割の選択」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。

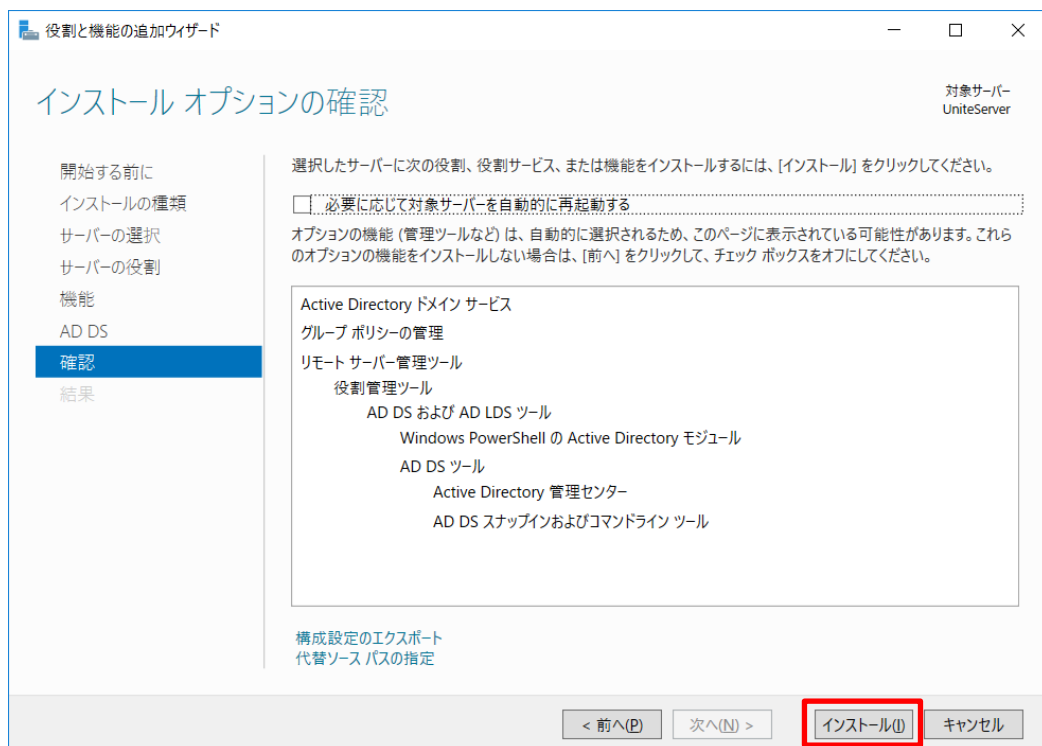


7 「機能の選択」画面で「次へ」をクリックします。

8 「Active Directory ドメイン サービス」画面で「次へ」をクリックします。



9 「インストール」をクリックします。



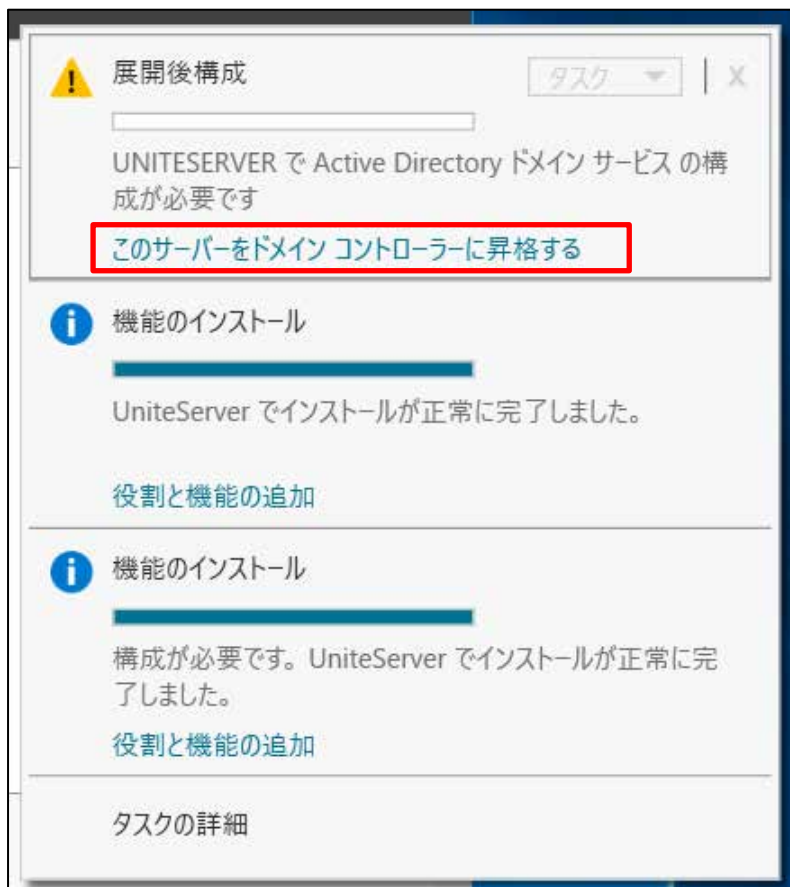
機能のインストールが始まります。

10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

**11**「サーバー マネージャー」の通知領域（ウィンドウ右上）のマークをクリックします。

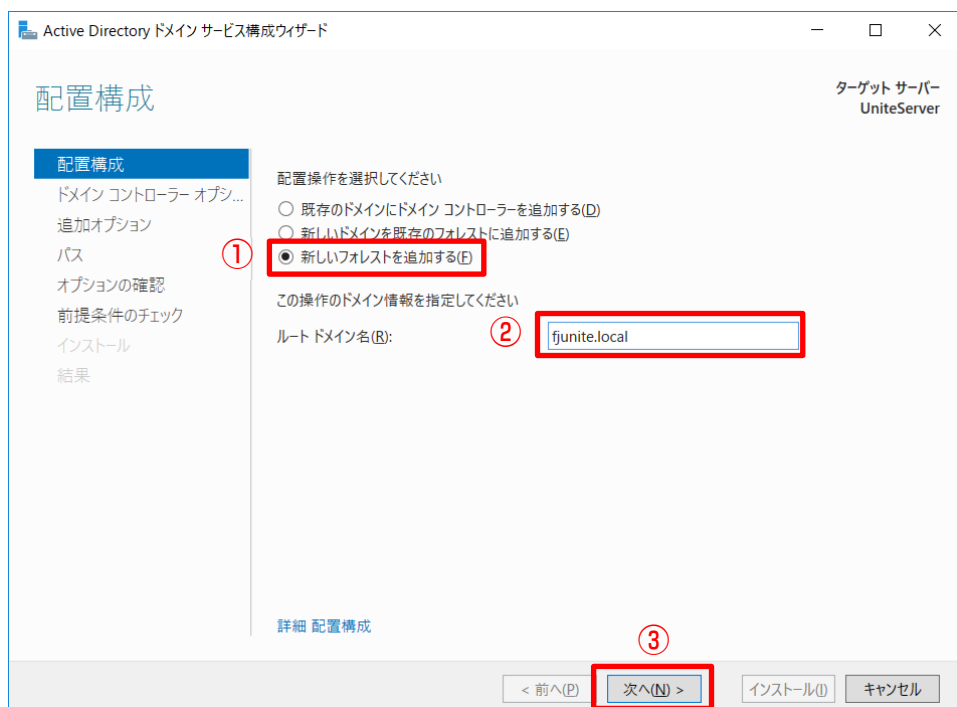


**12**表示された画面の「展開後構成」にある「このサーバーをドメイン コントローラーに昇格する」をクリックします。



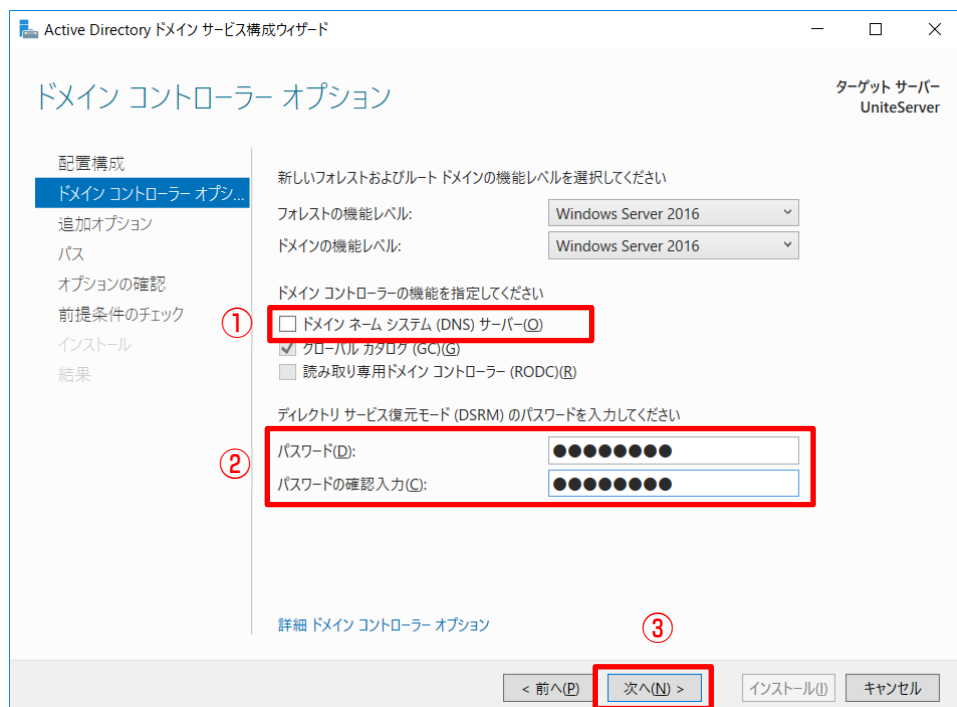
### 13 「Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード」が表示されたら次の操作を行います。

- ① 「新しいフォレストを追加する」を選択します。
- ② ルートドメイン名を設定（例：fjunite.local）します。
- ③ 「次へ」をクリックします。



### 14 次の操作を行います。

- ① 「ドメイン ネーム システム (DNS) サーバー」のチェックを外します。
- ② 「ディレクトリ サービス復元モード (DSRM) のパスワード」を設定します。
- ③ 「次へ」をクリックします。



ディレクトリ サービス復元モードのパスワードは、Active Directory データベースをバックアップから復元する際に、システムをディレクトリ サービス復元モードで起動するために使用します。パスワードの設定は、管理者が行ってください。

**15** 「NetBIOS ドメイン名」が手順 12 で設定したドメイン名になっていることを確認（例：FJUNITE）し、「次へ」をクリックします。

Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード

追加オプション

ターゲット サーバー  
UniteServer

配置構成  
ドメイン コントローラー オプシ...  
**追加オプション**  
パス  
オプションの確認  
前提条件のチェック  
インストール  
結果

ドメインに割り当てられている NetBIOS 名を検証し、必要に応じて変更してください

NetBIOS ドメイン名: FJUNITE

[詳細 追加オプション](#)

< 前へ(P)   **次へ(N) >**   インストール(I)   キャンセル

**16** 「次へ」をクリックします。

Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード

パス

ターゲット サーバー  
UniteServer

配置構成  
ドメイン コントローラー オプシ...  
追加オプション  
**パス**  
オプションの確認  
前提条件のチェック  
インストール  
結果

AD DS データベース、ログ ファイル、および SYSVOL の場所を指定してください

データベースのフォルダー(D): C:\Windows\NTDS ...

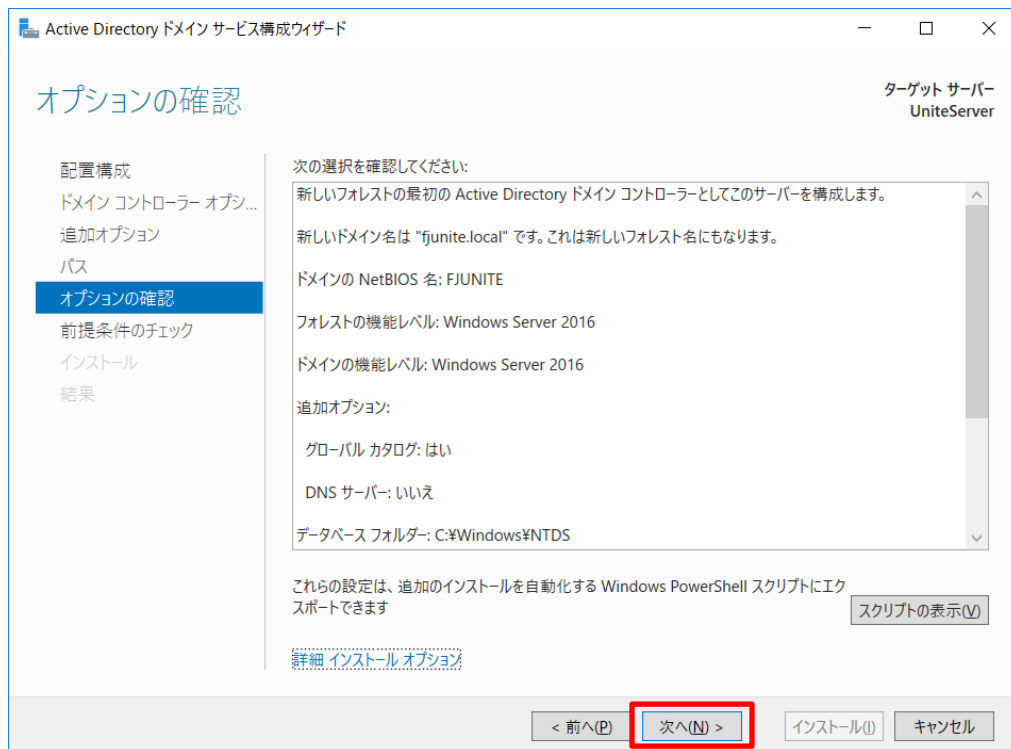
ログ ファイルのフォルダー(L): C:\Windows\NTDS ...

SYSVOL フォルダー(Y): C:\Windows\SYSVOL ...

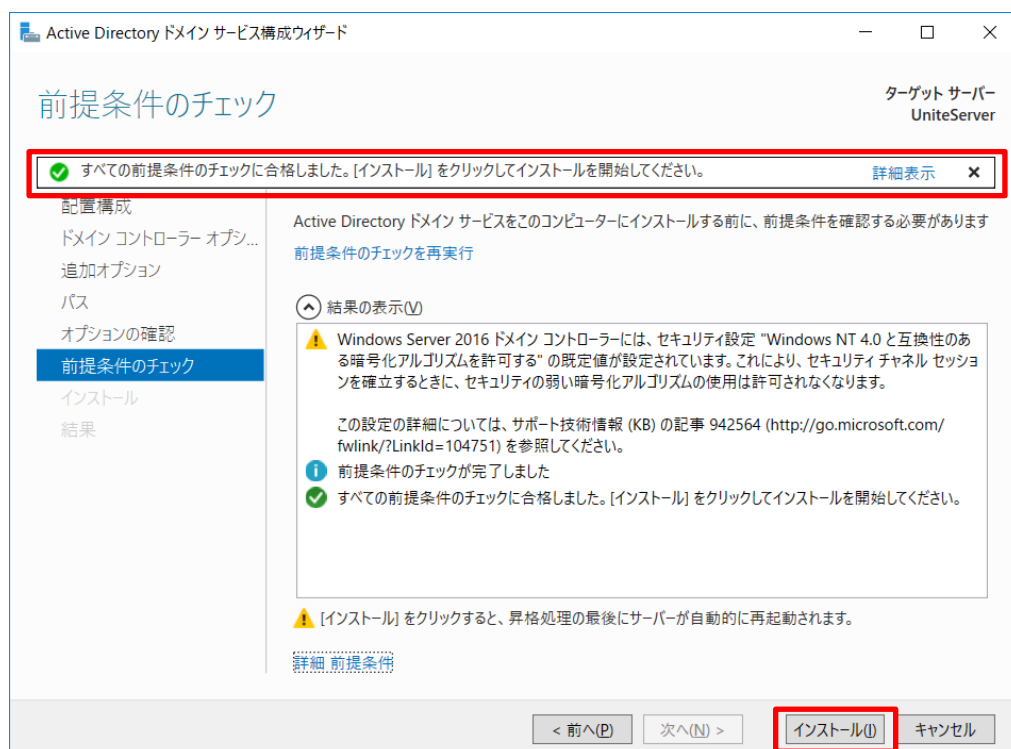
[詳細 Active Directory のパス](#)

< 前へ(P)   **次へ(N) >**   インストール(I)   キャンセル

## 17 「オプションの確認」で表示された内容を確認し、「次へ」をクリックします。




## 18 前提条件のチェックに合格すると「すべての前提条件のチェックに合格しました」と表示され、「インストール」が有効になります。「インストール」をクリックします。

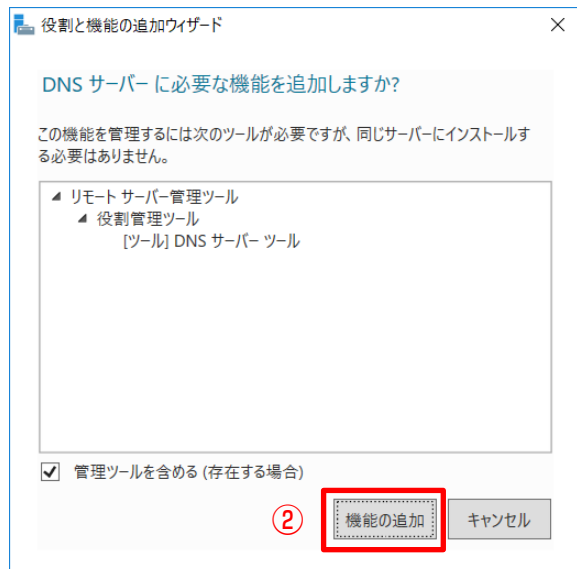
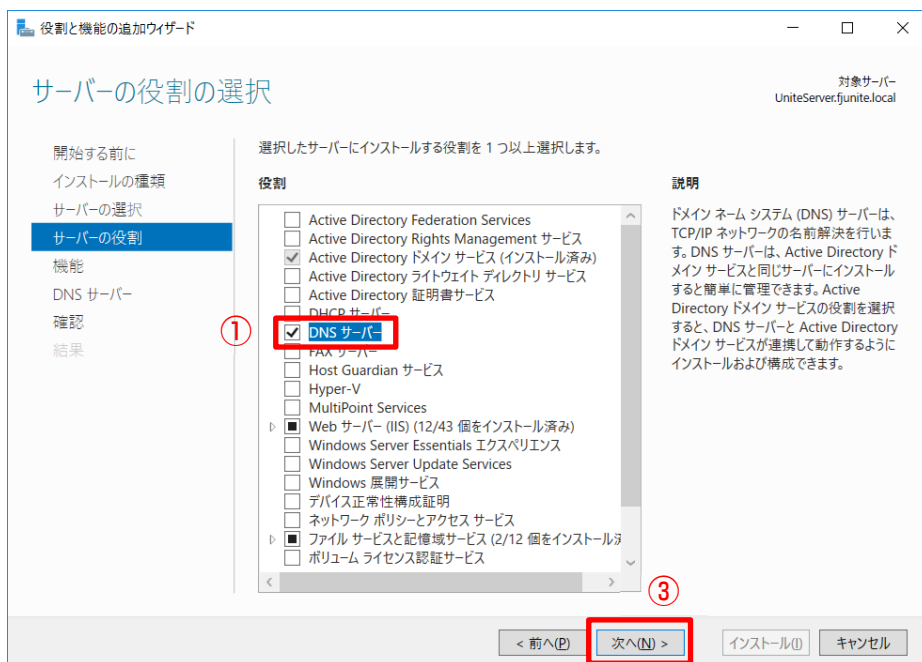


インストールが開始します（システムが自動的に再起動されます）。

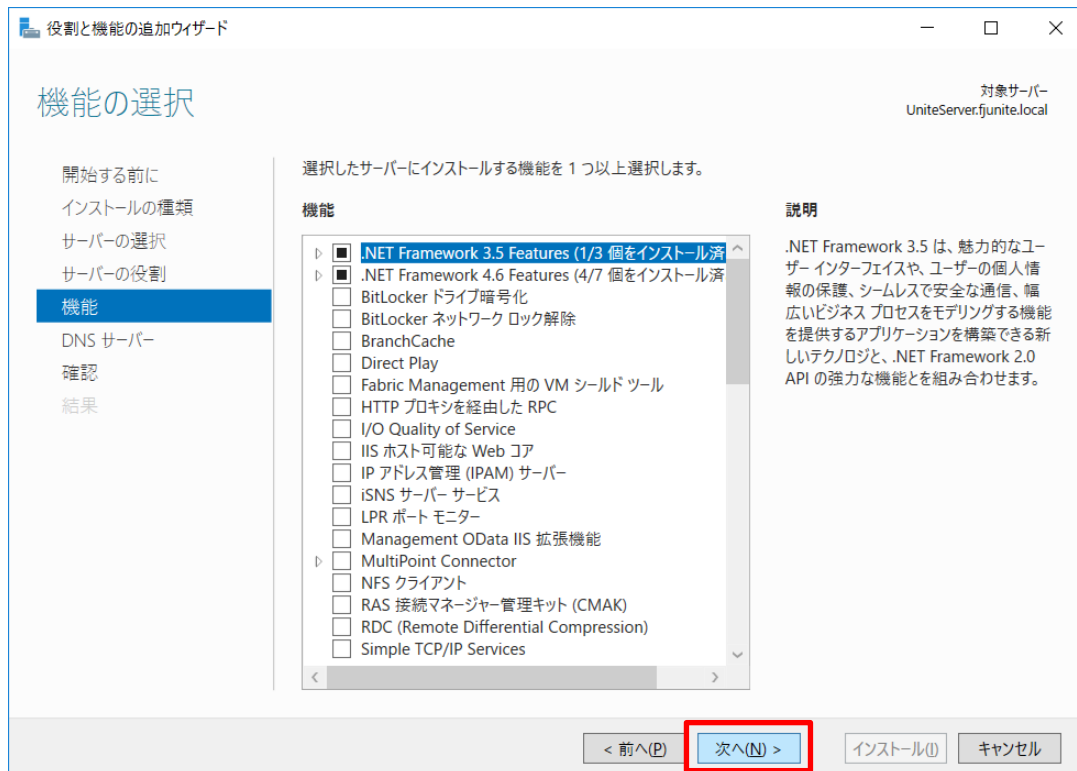


## ● DNS の設定

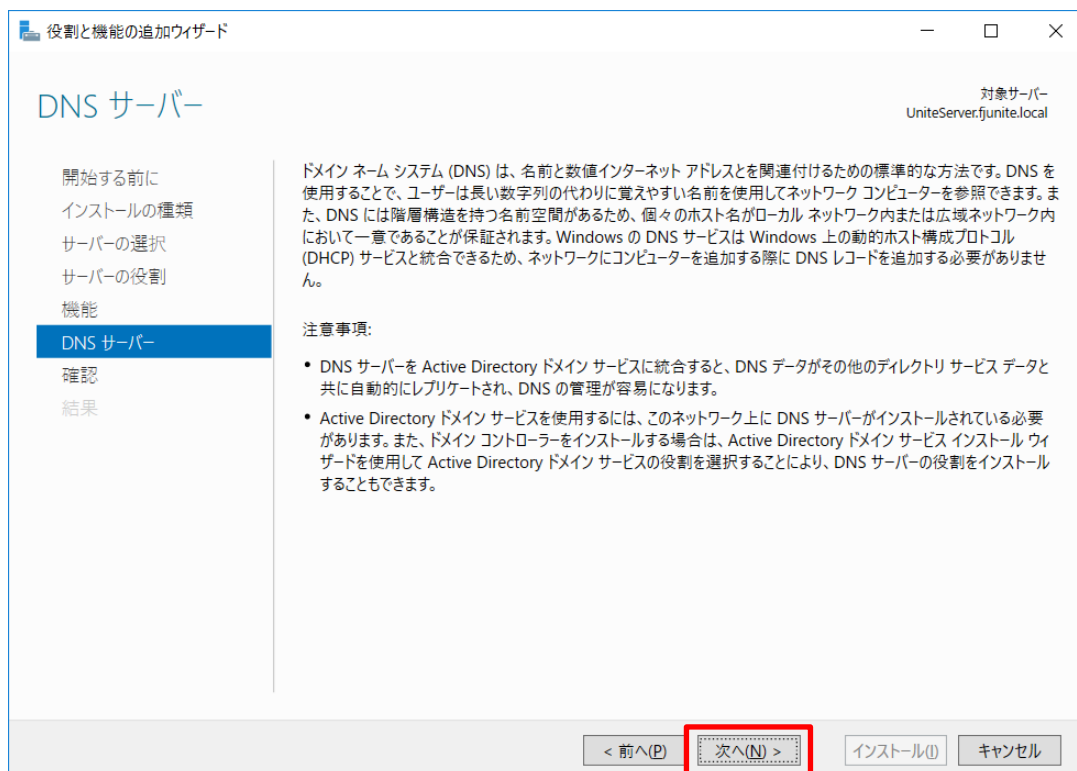
- 1  (スタート) → 「サーバー マネージャー」の順にクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」を選択し、サーバープールの欄からサーバーをクリックして「次へ」をクリックします。
- 6 次の操作をします。
  - ① 「DNS サーバー」をクリックします。
  - ② 「役割と機能の追加ウィザード」で「機能の追加」をクリックします。
  - ③ 「サーバーの役割の選択」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。



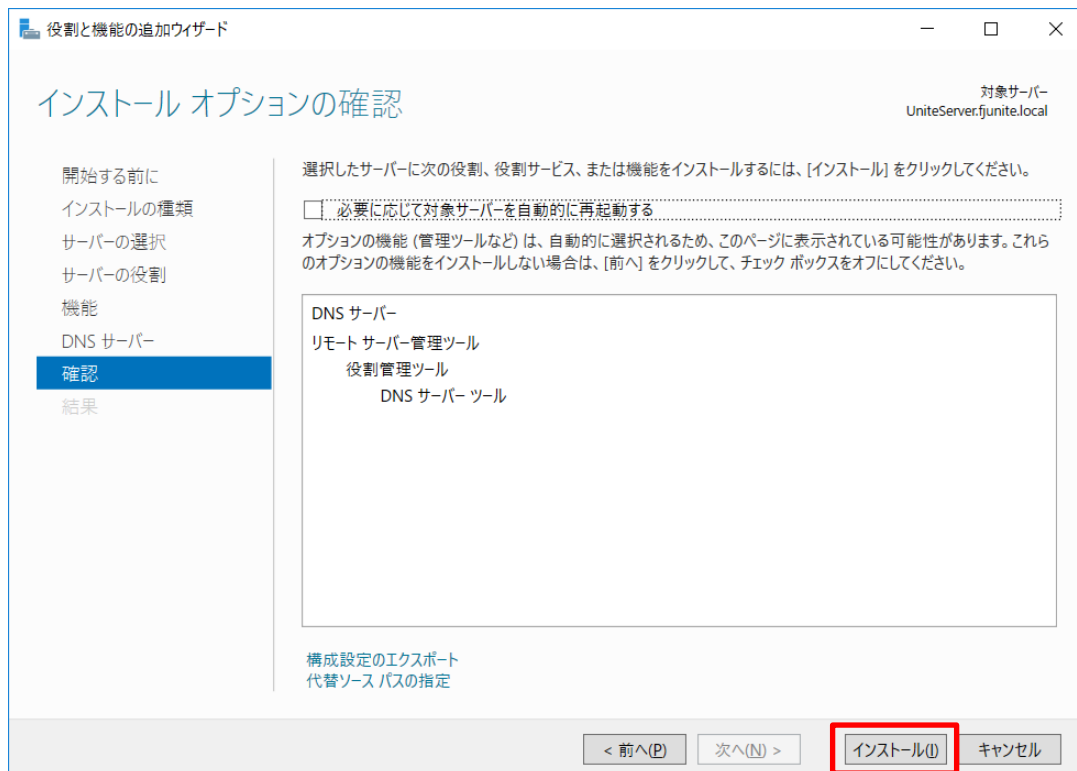
## 7 「次へ」をクリックします。



## 8 「DNS サーバー」画面で「次へ」をクリックします。




## 9 「インストール」をクリックします。

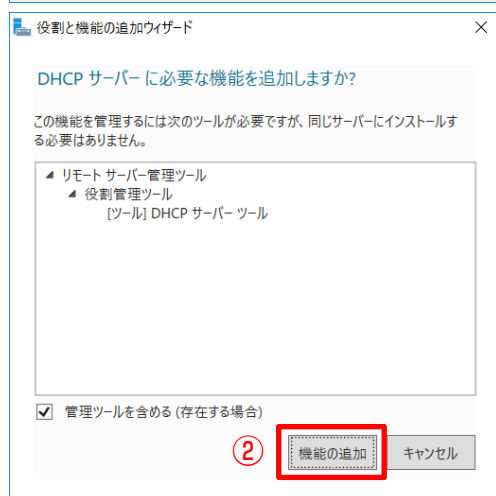
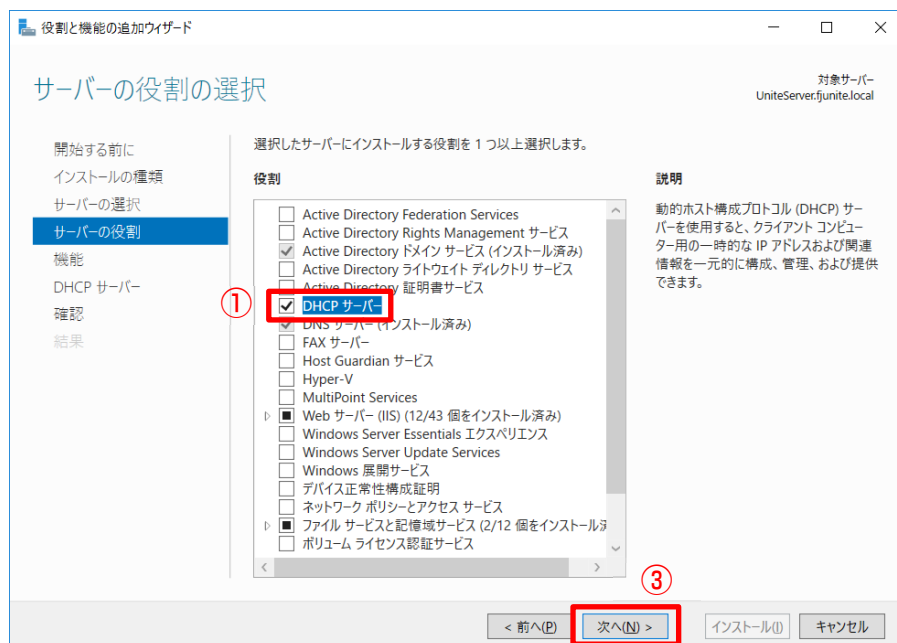


機能のインストールが始まります。

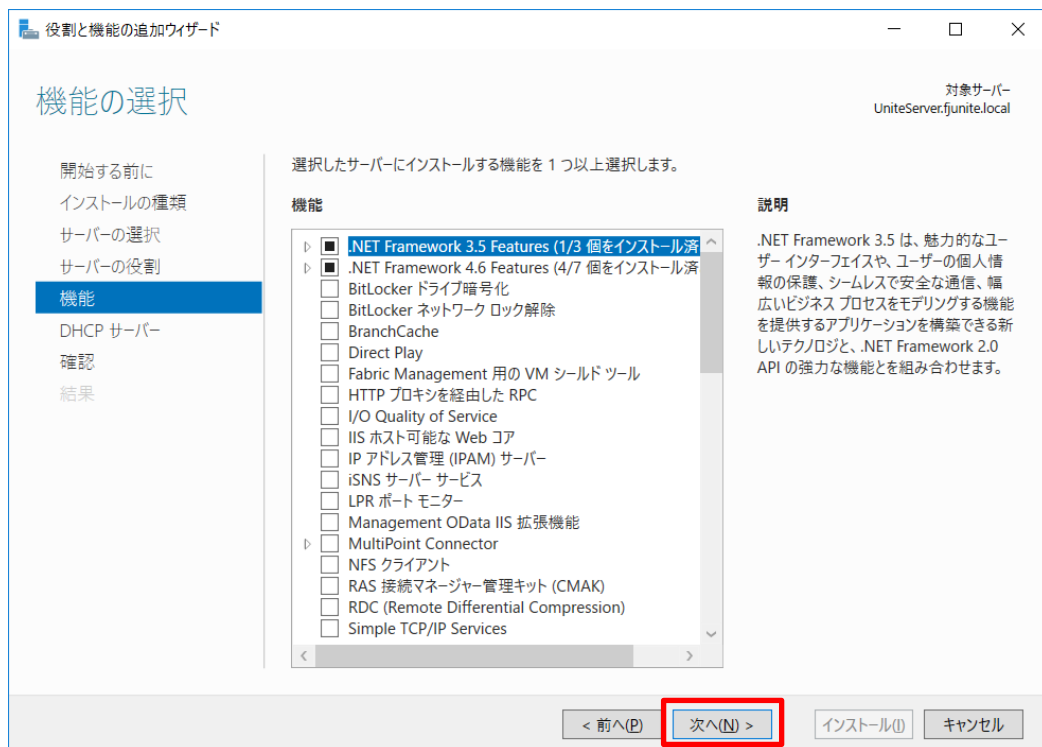
## 10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

## ● DHCP サーバーの設定

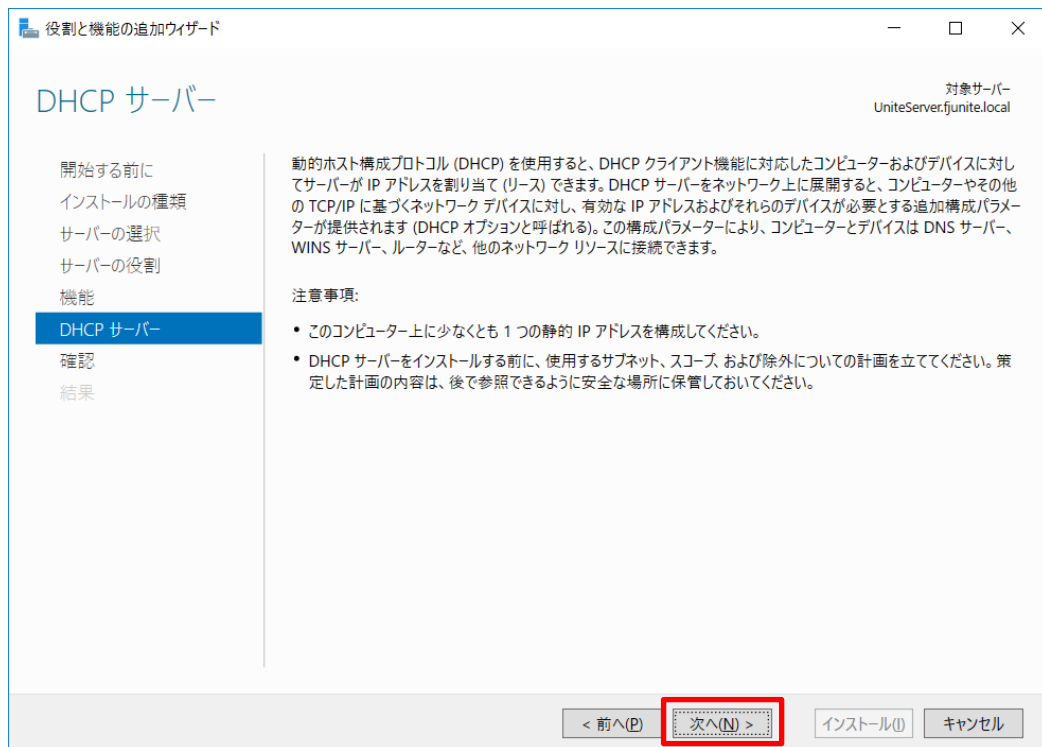
- 1  (スタート) → 「サーバー マネージャー」の順にクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」を選択し、サーバープールの欄からサーバーをクリックして「次へ」をクリックします。
- 6 次の操作を行います。
  - ① 「DHCP サーバー」をクリックします。
  - ② 「役割と機能の追加ウィザード」で「機能の追加」をクリックします。
  - ③ 「サーバーの役割の選択」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。



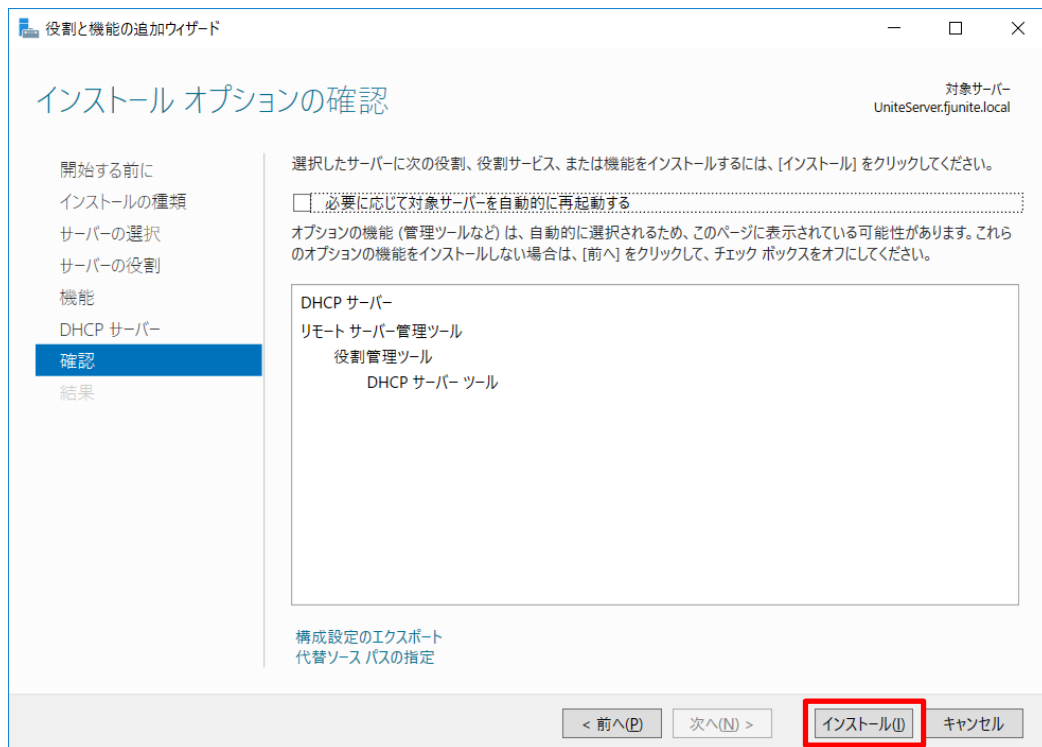
## 7 「次へ」をクリックします。



## 8 「DHCP サーバー」画面で「次へ」をクリックします。



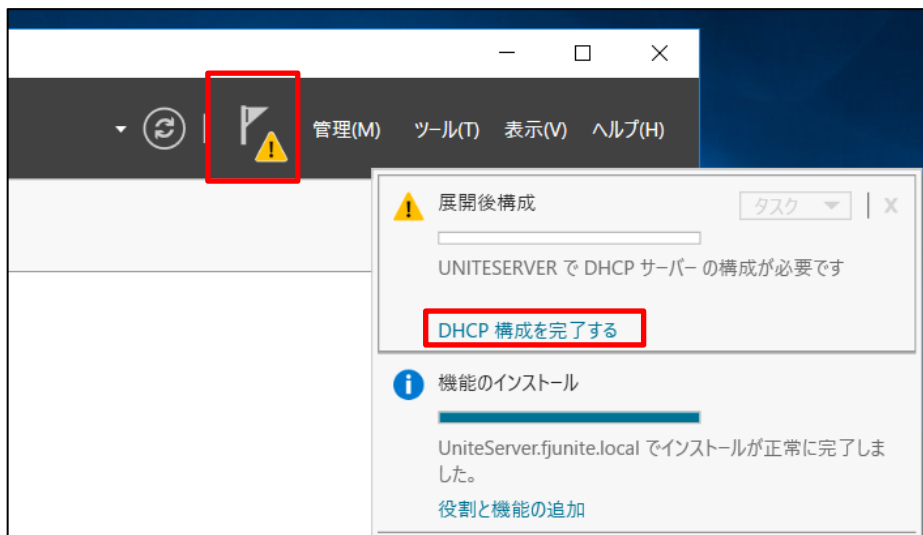
## 9 「インストール」をクリックします。



機能のインストールが始まります。

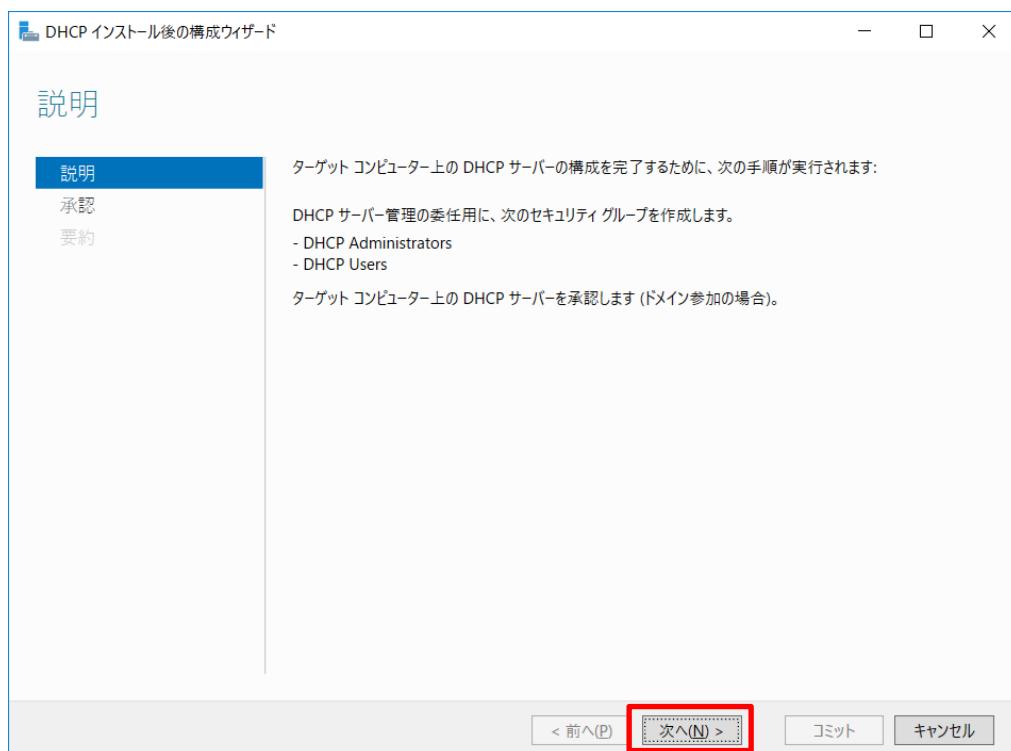
## 10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

## 11 「サーバー マネージャー」の通知領域（ウィンドウ右上）のマークをクリックし、表示されたポップアップの「展開後構成」にある「DHCP 構成を完了する」をクリックします。

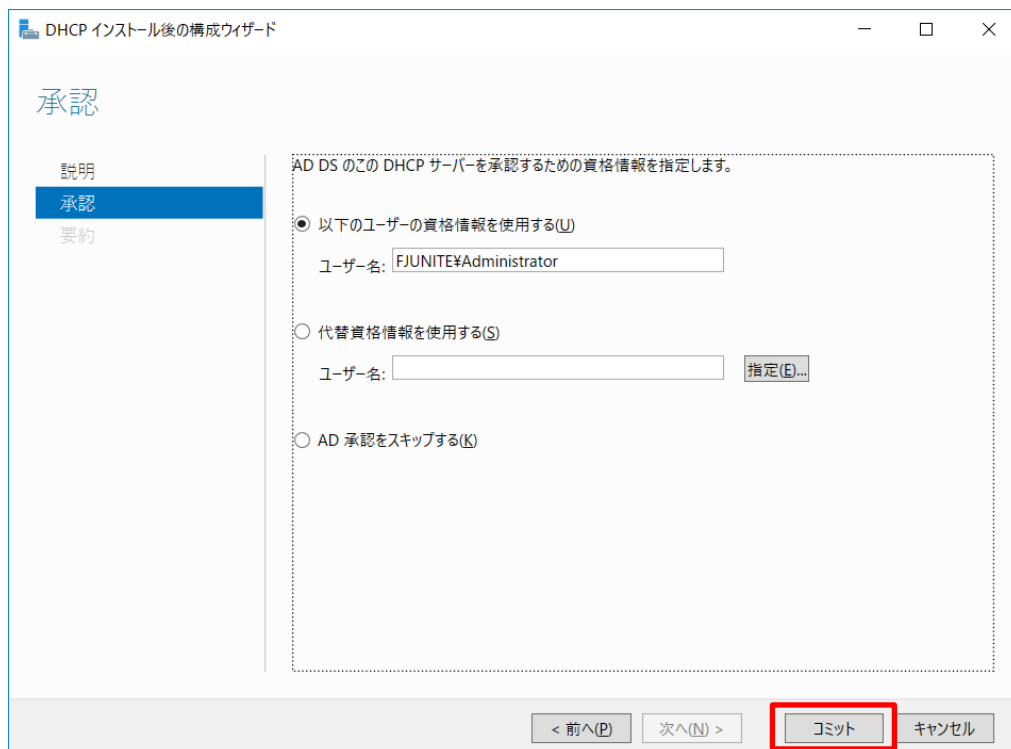


「DHCP インストール後の構成ウィザード」が表示されます。

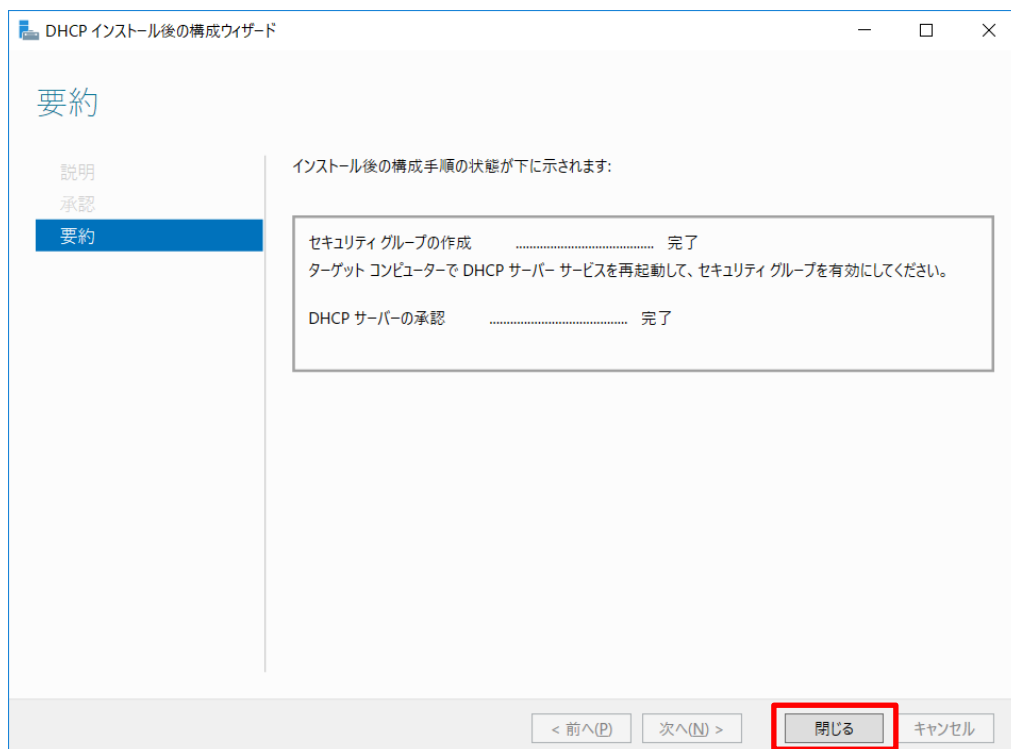
## 12 「次へ」をクリックします。



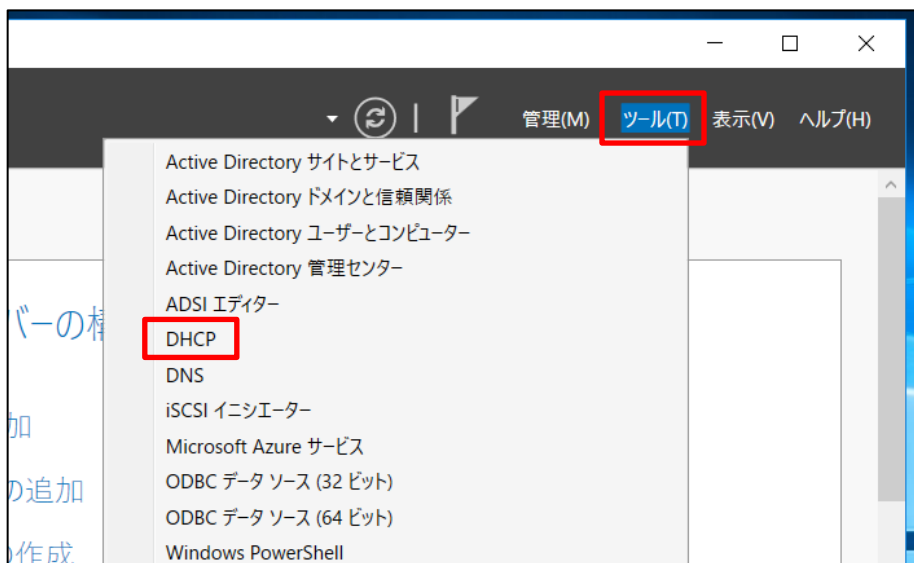
## 13 「コミット」をクリックします。



## 14 「閉じる」をクリックします。



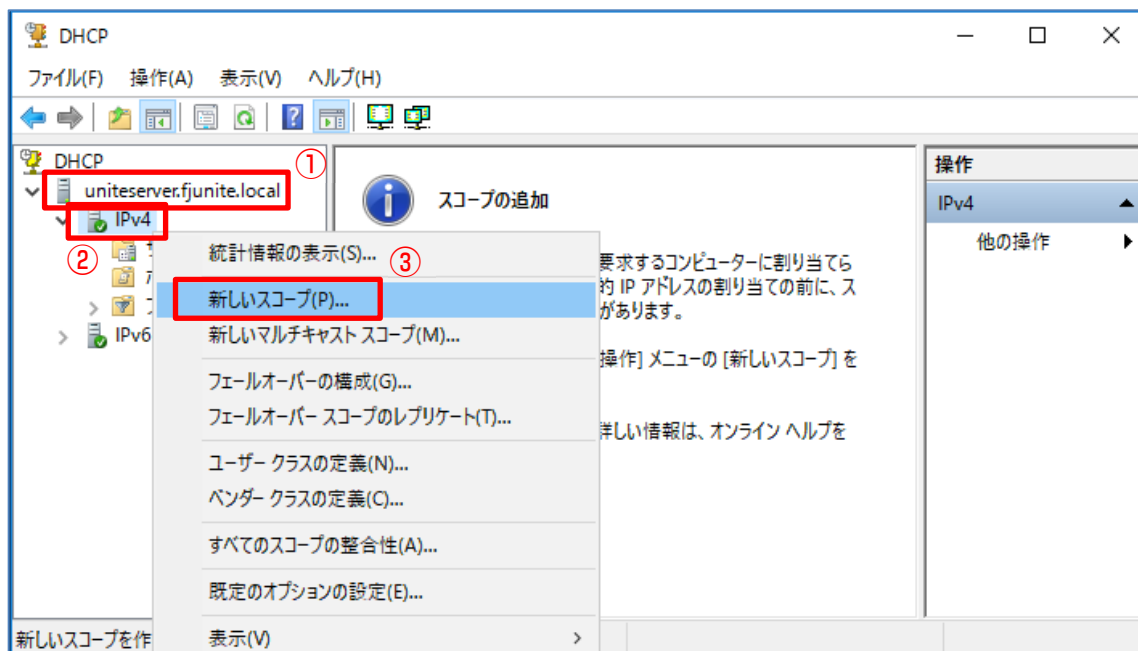
## 15 サーバー マネージャーの「ツール」→「DHCP」の順にクリックします。





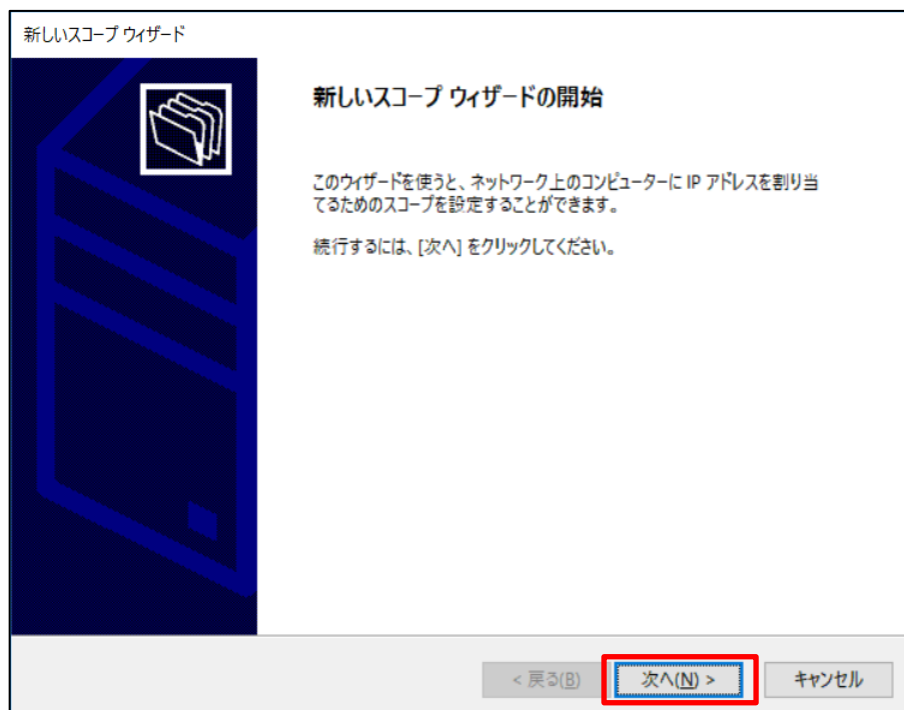
## 16 次の操作を行います。

- ① 左枠のサーバー名をクリック（例：uniteserver.fjunite.local）します。
- ② 「IPv4」を右クリックします。
- ③ 「新しいスコープ」をクリックします。



「新しいスコープ ウィザードの開始」が表示されます。

## 17 「次へ」をクリックします。



**18** 「名前」と「説明」を任意に設定（例：名前「UniteDHCP」、説明「Scope for Unite」）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープウィザード

スコープ名  
識別するためのスコープ名を指定する必要があります。説明も追加することができます。

このスコープの名前と説明を入力してください。この情報を入力することで、ネットワークでこのスコープがどのように使用されるかをすばやく判断することができます。

名前(A): UniteDHCP

説明(D): Scope for Unite

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

**19** IPアドレスの範囲を設定し、「次へ」をクリックします。

（設定例）

- 開始 IP アドレス：192.168.1.11
- 終了 IP アドレス：192.168.1.100
- 長さ：24
- サブネット：255.255.255.0

新しいスコープウィザード

IP アドレスの範囲  
連続した IP アドレスのセットを識別して、スコープアドレスの範囲を定義します。

DHCP サーバーの構成設定  
スコープが割り当てるアドレスの範囲を指定してください。

開始 IP アドレス(S): 192 . 168 . 1 . 11

終了 IP アドレス(E): 192 . 168 . 1 . 100

DHCP クライアントに伝達する構成設定

長さ(L): 24

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

**20** 必要に応じて除外範囲を設定（ここでの例は未設定）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープウィザード

**除外と遅延の追加**  
除外とは、サーバーから割り当てられないアドレスまたはアドレスの範囲のことです。遅延とは、サーバーが DHCP OFFER メッセージの送信を遅延させる時間のことです。

除外する IP アドレスの範囲を入力してください。特定のアドレスのみを除外する場合は [開始 IP アドレス] のみ指定してください。

開始 IP アドレス(S):      終了 IP アドレス(E):      追加(A)

除外するアドレスの範囲(R):      削除(D)

サブネット遅延 (ミリ秒)(L):  
0

< 戻る(B)      **次へ(N) >**      キャンセル

**21** 必要に応じてリース期間を変更（ここでの例は未変更）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープウィザード

**リース期間**  
リース期間は、クライアントがこのスコープからの IP アドレスをどのくらいの期間使用できるかを示します。

リース期間は、通常コンピュータが物理的に同じネットワークに接続している時間の平均です。ポータブルコンピュータやダイヤルアップを主体とするモバイル ネットワークの場合は、リース期間を短くすると便利です。同様に、固定された場所で使用されているデスクトップ コンピューターを主体とする固定ネットワークの場合は、リース期間を長くすることをお勧めします。

このサーバーから割り当てられたときのスコープのリース期間を設定してください。

期間:

日(D):      時間(H):      分(M):  
8      0      0

< 戻る(B)      **次へ(N) >**      キャンセル

## 22 「今すぐオプションを構成する」を選択し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープウィザード

**DHCP オプションの構成**  
クライアントがスコープを使用する前に、一般的な DHCP オプションを構成する必要があります。

クライアントがアドレスを取得すると、ルーターの IP アドレス (デフォルトゲートウェイ)、DNS サーバー、そのスコープ用の WINS 設定などの DHCP オプションが与えられます。

ここで選択するこのスコープ用の設定は、このサーバーの [サーバー オプション] フォルダーで構成した設定よりも優先されます。

このスコープの DHCP オプションを今すぐ構成しますか?

☒ **今すぐオプションを構成する(Y)**

☐ 後でオプションを構成する(Q)

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

## 23 必要に応じて使用しているルーターの IP アドレスを設定（ここでの例は未設定）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープウィザード

**ルーター (デフォルトゲートウェイ)**  
このスコープが割り当てるルーターまたはデフォルトゲートウェイを指定することができます。

クライアントが使用するルーターの IP アドレスを追加するには、そのアドレスを下に入力してください。

IP アドレス(P):

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

## 24 次の設定を行い、「次へ」をクリックします。

- 親ドメイン：P.16 手順 13 で入力した「ルートドメイン名」（例：fjunite.local）
- サーバー名：P.5 手順 5 で入力した「コンピューター名」（例：UniteServer）
- IP アドレス：P.7 手順 4 で入力した「IP アドレス」（例：192.168.1.101 （設定済みであれば、そのままにする。））

新しいスコープ ウィザード

**ドメイン名および DNS サーバー**  
ドメイン ネーム システム (DNS) は、ネットワーク上のクライアントが使用するドメイン名のマップや翻訳を行います。

ネットワーク上のクライアントコンピューターが DNS 名の解決のために使う親ドメインを指定することができます。

親ドメイン(M):

ネットワーク上の DNS サーバーを使用するようにスコープクライアントを構成するには、それらのサーバーの IP アドレスを入力してください。

サーバー名(S):  IP アドレス(P):

解決(E) 追加(D) 削除(R) 上へ(U) 下へ(D)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

## 25 必要に応じて設定（ここでの例は未設定）を行い、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**WINS サーバー**  
Windows を実行しているコンピューターは、WINS サーバーを使って NetBIOS コンピューター名を IP アドレスに変換することができます。

ここにサーバー IP アドレスを入力すると、Windows クライアントはブロードキャストを使って登録し NetBIOS 名を解決する前に WINS を照会できるようになります。

サーバー名(S):  IP アドレス(P):

解決(E) 追加(D) 削除(R) 上へ(U) 下へ(D)

Windows DHCP クライアントの動作を変更するには、[スコープ オプション] でオプション 046 と WINS/NBT ノードの種類を変更してください。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

## 26 「今すぐアクティブにする」を選択し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

スコープのアクティブ化  
クライアントは、スコープがアクティブになっている場合のみ、アドレス リースを取得できます。

このスコープを今すぐアクティブにしますか？

☒ 今すぐアクティブにする(Y)

☐ 後でアクティブにする(O)

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

「新しいスコープ ウィザードの完了」が表示されます。

## 27 「完了」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**新しいスコープ ウィザードの完了**

新しいスコープ ウィザードが完了しました。

このスコープに対して高可用性を提供するには、スコープを右クリックし、[フェールオーバーの構成] をクリックして、新しく追加されたスコープにフェールオーバーを構成します。

このウィザードを閉じるには、[完了] をクリックしてください。

< 戻る(B)   **完了**   キャンセル

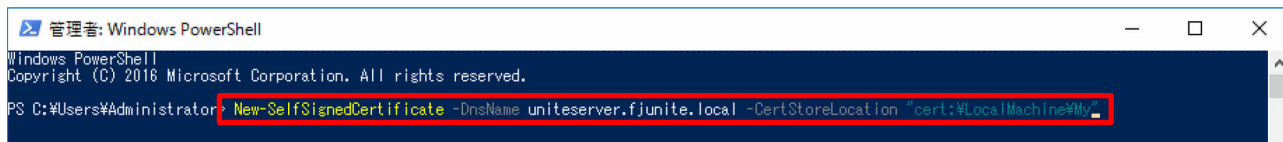
## ● 自己証明を作成する

1  (スタート) → 「Windows PowerShell」 の順にクリックし、「Windows PowerShell」 を管理者権限で起動します。

2 次のコマンドを入力し、実行します。

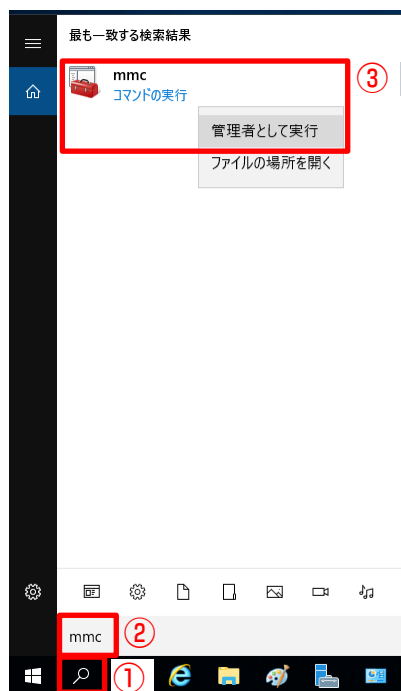
```
New-SelfSignedCertificate -DnsName <コンピューター名> -CertStoreLocation  
"cert:¥LocalMachine¥My"
```

(例 : New-SelfSignedCertificate -DnsName uniteserver.fjunit.local -CertStoreLocation  
"cert:¥LocalMachine¥My")

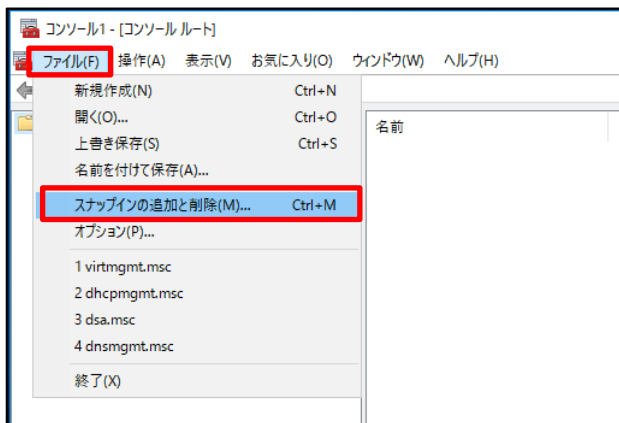


3 次の操作を行います。

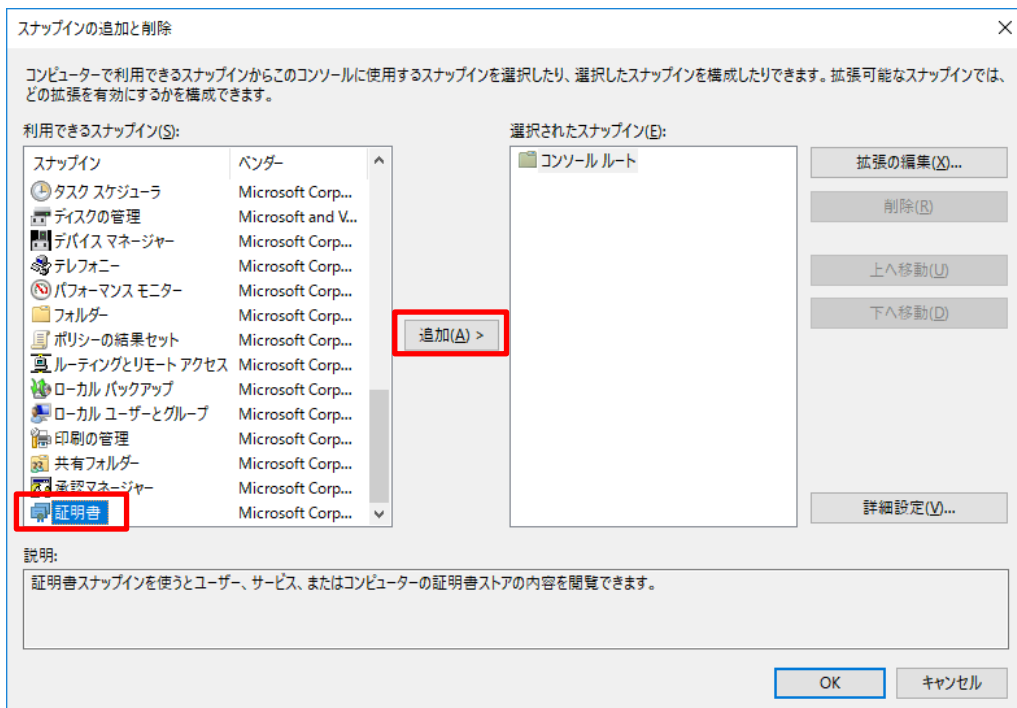
- ① Windows タスクバーの「検索」アイコンをクリックします。
- ② 「mmc」と入力します
- ③ 検索結果を右クリックして「mmc」を管理者権限で起動します。



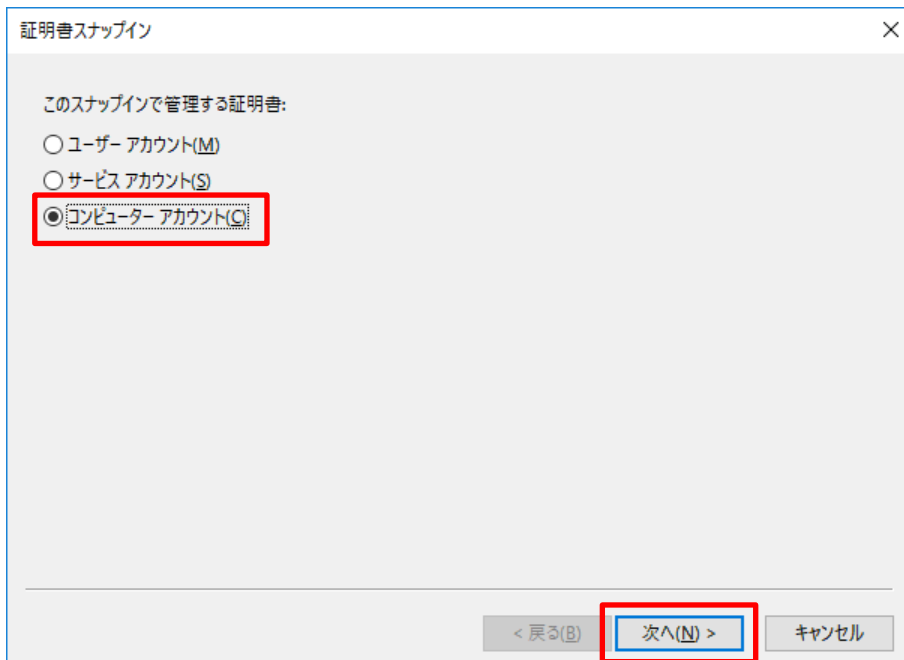
4 「ファイル」→「スナップインの追加と削除」の順にクリックします。



5 「証明書」を選択し、「追加」をクリックします。

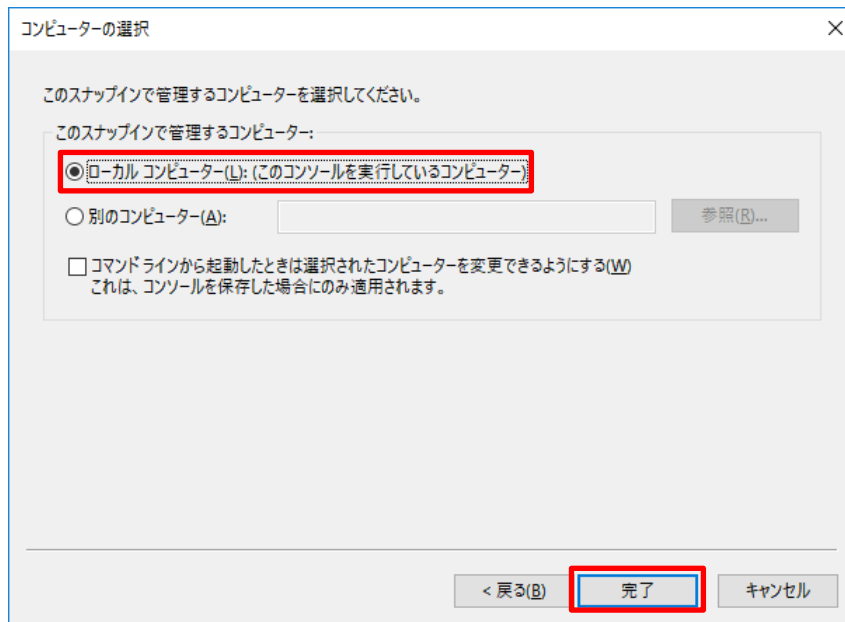


6 「コンピューターアカウント」を選択し、「次へ」をクリックします。



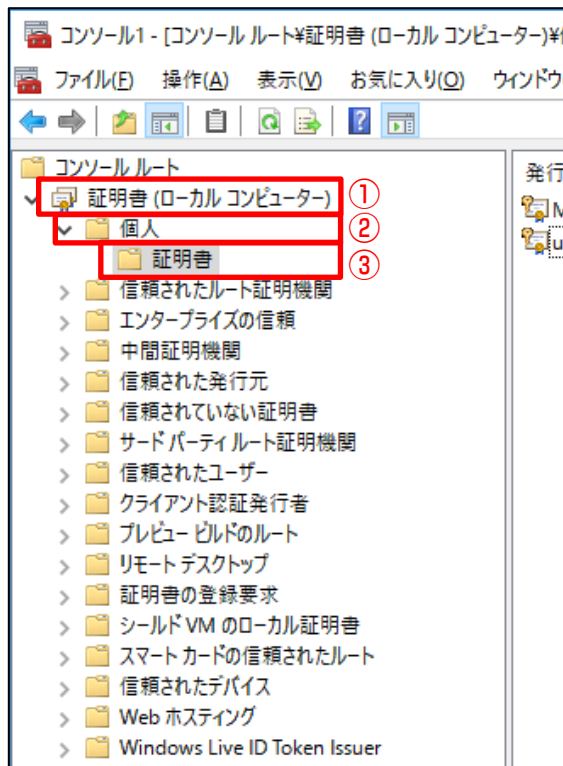


## 7 「ローカル コンピューター」を選択し「完了」をクリックし、続いて「OK」をクリックします。

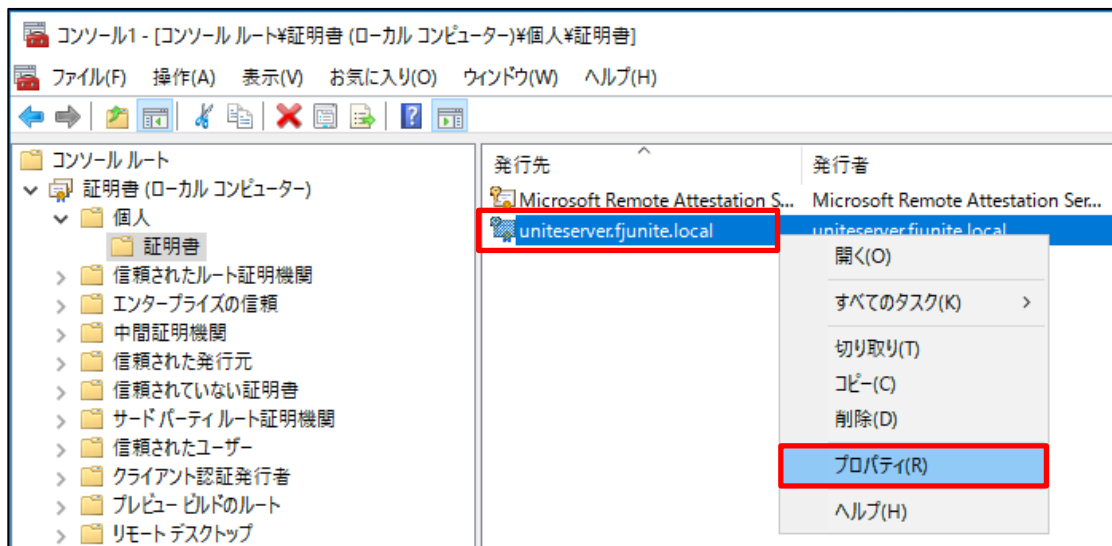


## 8 次の操作を行います。

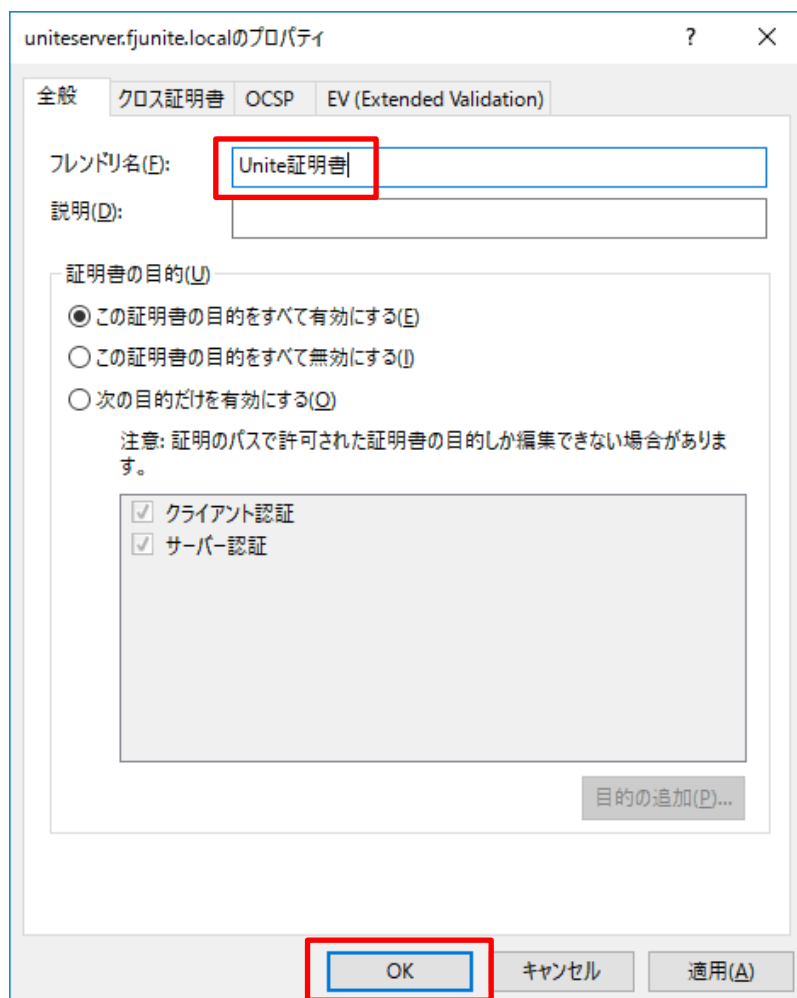
- ① 「証明書 (ローカルコンピューター)」をクリックします。
- ② 「個人」をクリックします。
- ③ 「証明書」をクリックします。



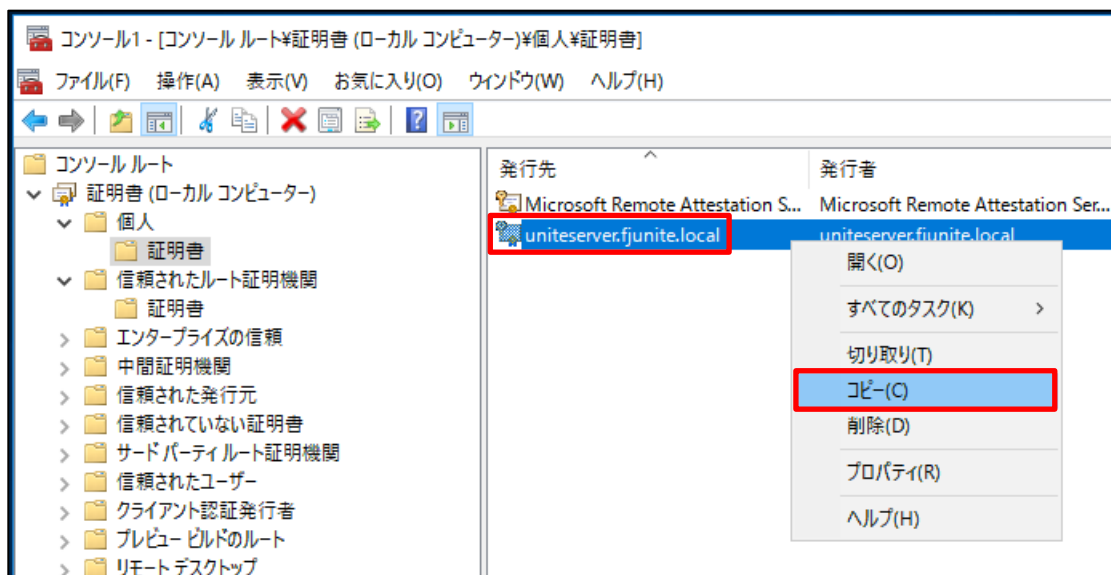
9 手順2で作成した証明書を右クリックし、「プロパティ」を選択します。



10「フレンドリ名」にこの証明書を識別するための名称を任意で設定（例：Unite 証明書）し、「OK」をクリックします。

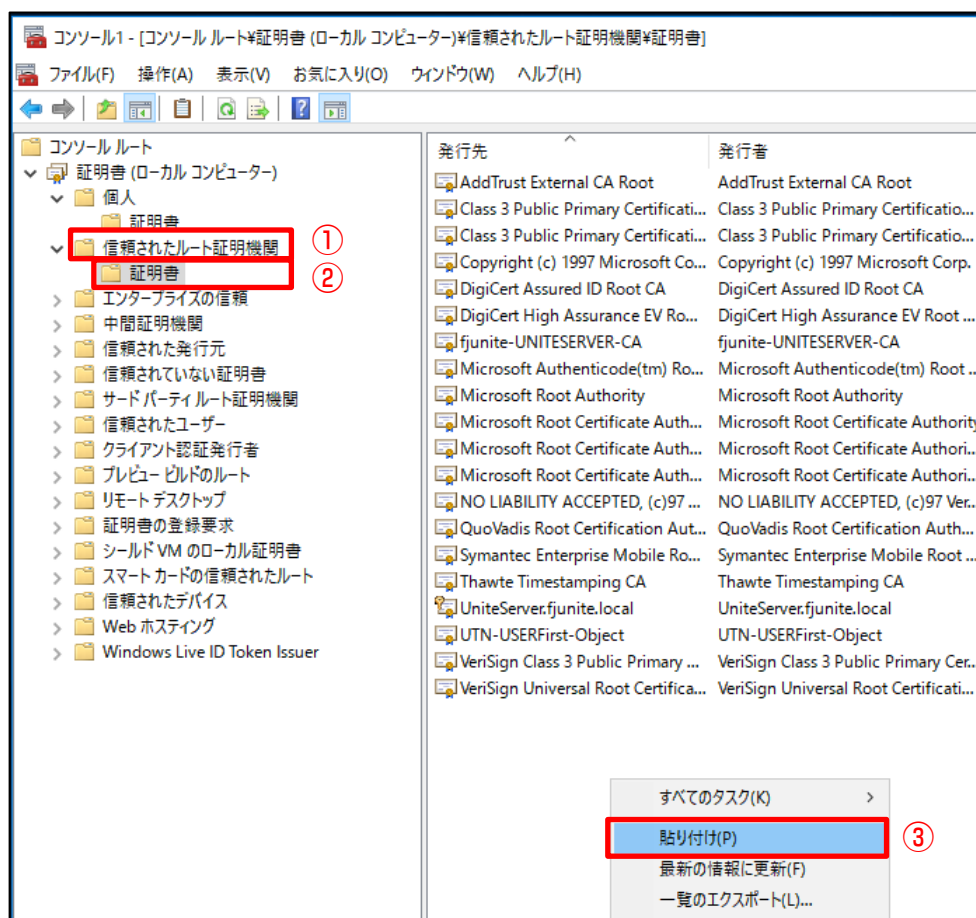


**11**もう一度証明書を右クリックし、「コピー」をクリックします。



**12**次の操作を行います。

- ① 「信頼されたルート証明書機関」をクリックします。
- ② 「証明書」をクリックします。
- ③ 中央ペインで、任意の場所を右クリックし、「貼り付け」をクリックします。

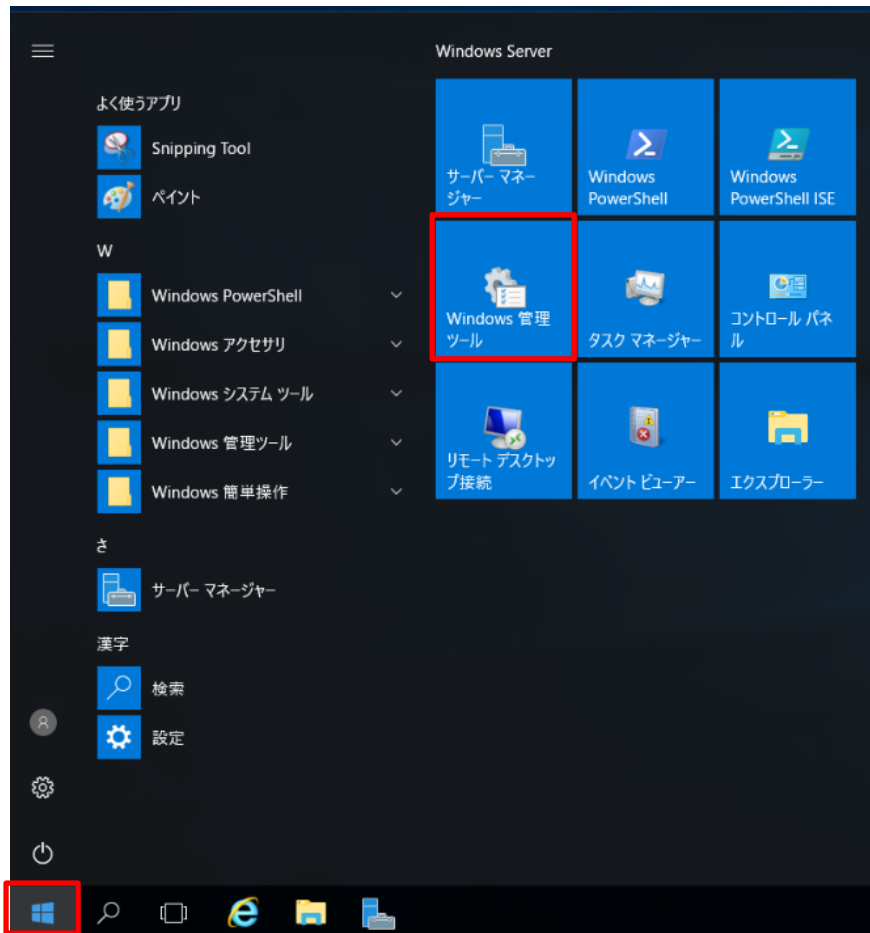


**13**「ファイル」をクリックし、「終了」をクリックします。

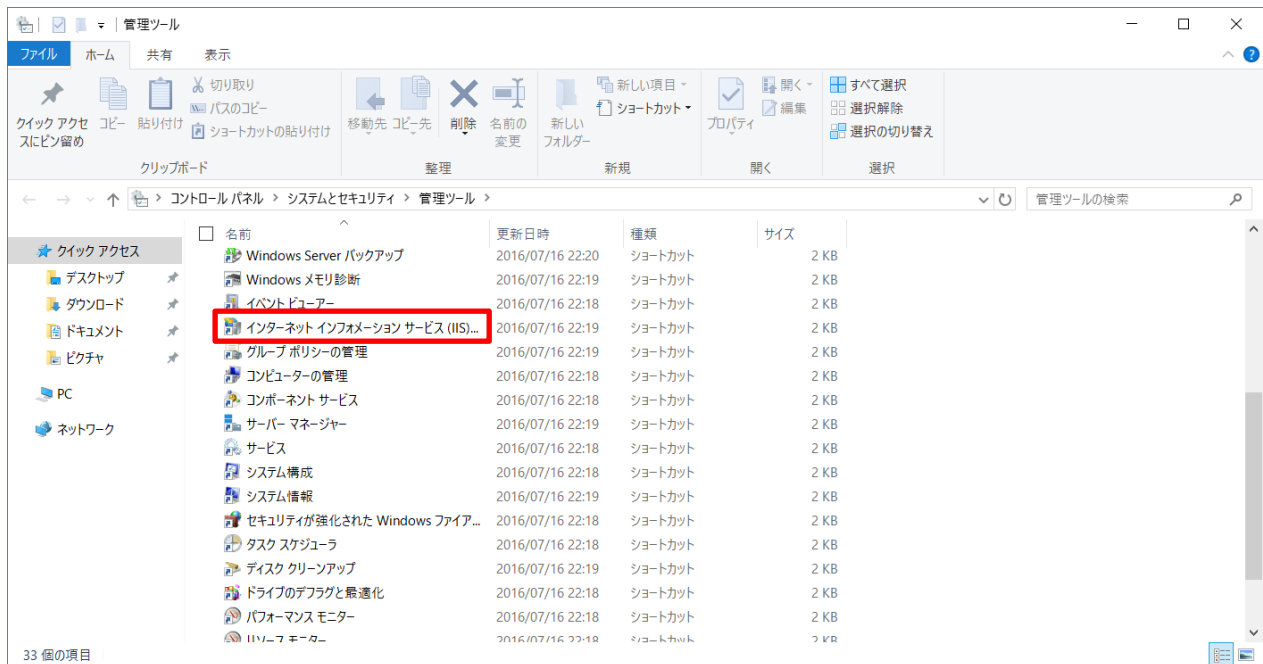
保存を求めるウィンドウが表示される場合があります。証明書スナップインを含む設定を再度行いたい場合は、保存してください。

## ● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を構成する

1  (スタート) → 「Windows 管理ツール」の順にクリックします。

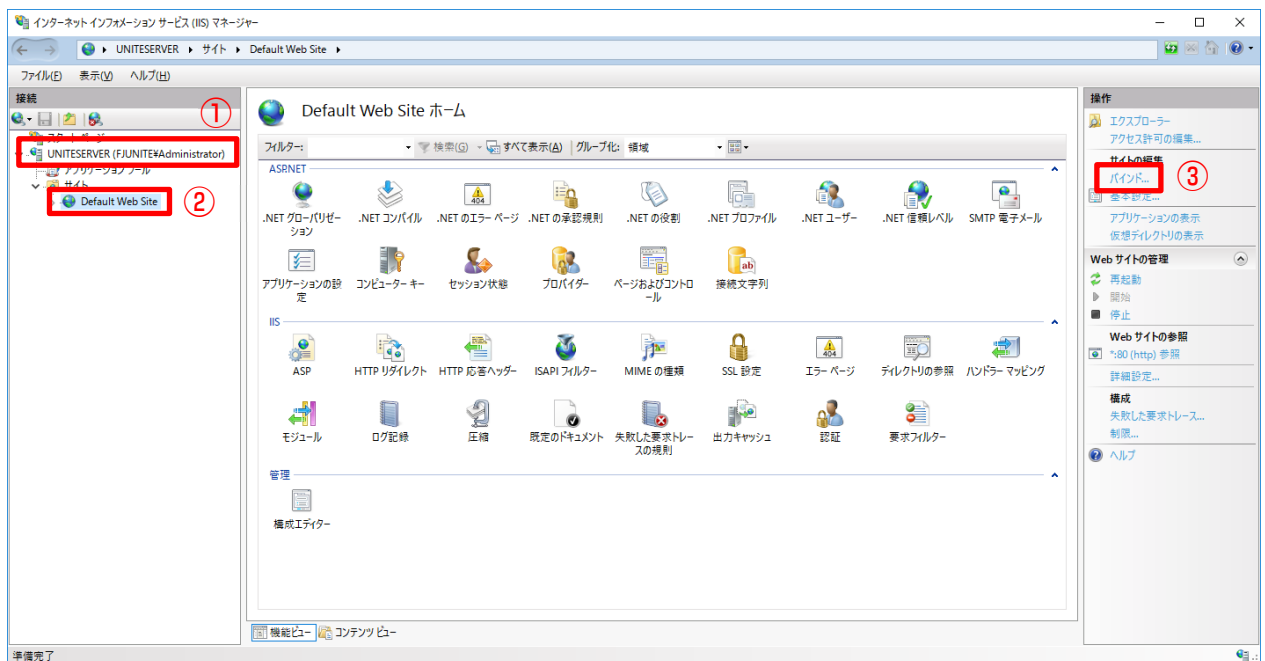


## 2 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」をクリックします。

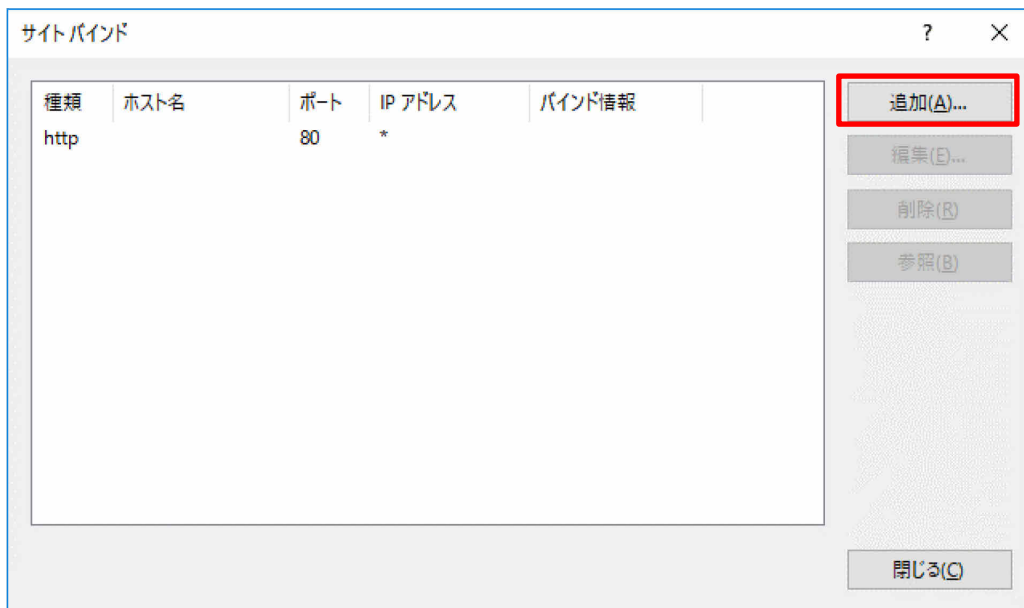


## 3 次の操作を行います。

- ① 左側の「接続」にあるサーバー名（例：UNITESERVER）の下に「サイト」をクリックします。
- ② 表示された「Default Web Site」をクリックします。
- ③ 右側の「操作」から「バインド」をクリックします。

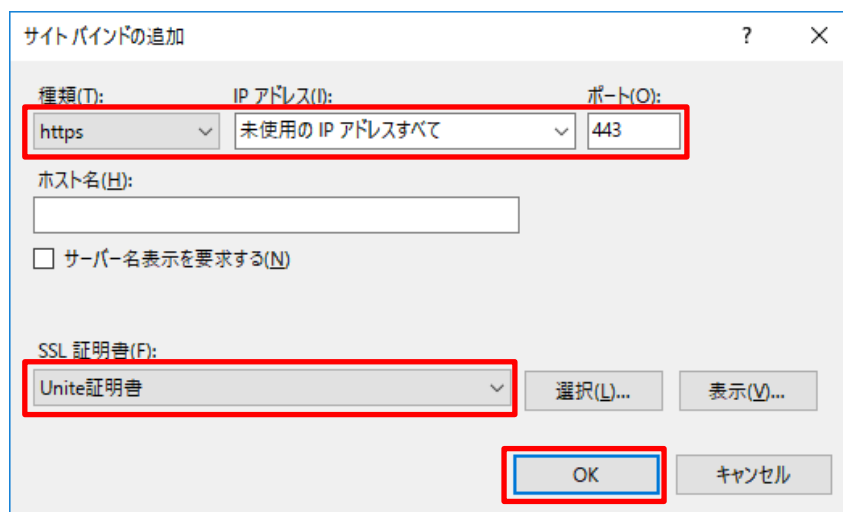


#### 4 「追加」をクリックします。



#### 5 次の内容を設定し、「OK」をクリックします。

- 種類：https
- IP アドレス：未使用 IP のすべて
- ポート：443
- ホスト名：(空欄のまま)
- SSL 証明書：Unite 証明書 (P.36 手順 10 でフレンドリ名として設定したものを指定)



#### 6 「サイト バインド」画面の「閉じる」をクリックします。

## ● SQL サーバーのインストール

SQL サーバーは、Microsoft SQL Server と MySQL Server から選択が可能です。  
各 SQL サーバーのインストール手順をご案内します。

### ◆ Microsoft SQL Server 2017 の場合

Microsoft SQL Server をインストールします。

- 1 セットアップを実行し、左側の「インストール」をクリックし、「SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加」をクリックします。



- 2 画面の指示に従って、「プロダクトキー」の入力と「ライセンス条項」に同意し、Windows Update の確認の設定を行い、インストールを継続します。

### 3 「データベース エンジン サービス」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。

SQL Server 2017 セットアップ

機能の選択

インストールする Enterprise 機能を選択します。

プロダクトキー  
ライセンス条項  
グローバル ルール  
Microsoft Update  
製品の更新プログラム  
セットアップ ファイルのインストール  
インストール ルール  
機能の選択  
機能ルール  
インスタンスの構成  
サーバーの構成  
データベース エンジンの構成  
機能構成ルール  
インストールの準備完了  
インストールの進行状況  
完了

Reporting Services をお探しですか? [Web からダウンロードする](#)

機能(E):

☒ データベース エンジン サービス

☐ SQL Server レプリケーション

☐ Machine Learning サービス (データベース内)

☐ R

☐ Python

☐ 検索のためのフルテキスト抽出とセマンティック抽出

☐ Data Quality Services

☐ 外部データ用 PolyBase クエリ サービス

☐ Analysis Services

共有機能

機能の説明:

SQL Server インスタンスのインスタンス機能は、構成と操作が、他の SQL Server インスタンスとは分離されています。SQL Server の複数のインスタンス

選択した機能に必要なコンポーネント(P):

インストール済み:  
Windows PowerShell 3.0 or higher

必要なディスク領域(D):  
ドライブ C: 1001 MB 必要、899899 MB 使用可能

すべて選択(A)    すべて選択解除(U)

インスタンス ルート ディレクトリ(B): C:\Program Files\Microsoft SQL Server\

共有機能ディレクトリ(S): C:\Program Files\Microsoft SQL Server\

共有機能ディレクトリ (x86)(X): C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\

< 戻る(B)    **次へ(N) >**    キャンセル

### 4 「既定のインスタンス」を選択し、「次へ」をクリックします。

SQL Server 2017 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

プロダクトキー  
ライセンス条項  
グローバル ルール  
Microsoft Update  
製品の更新プログラム  
セットアップ ファイルのインストール  
インストール ルール  
機能の選択  
機能ルール  
インスタンスの構成  
サーバーの構成  
データベース エンジンの構成  
機能構成ルール  
インストールの準備完了  
インストールの進行状況  
完了

☒ 既定のインスタンス(D)

☐ 名前付きインスタンス(A): MSSQLSERVER

インスタンス ID(I): MSSQLSERVER

SQL Server ディレクトリ: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL14.MSSQLSERVER

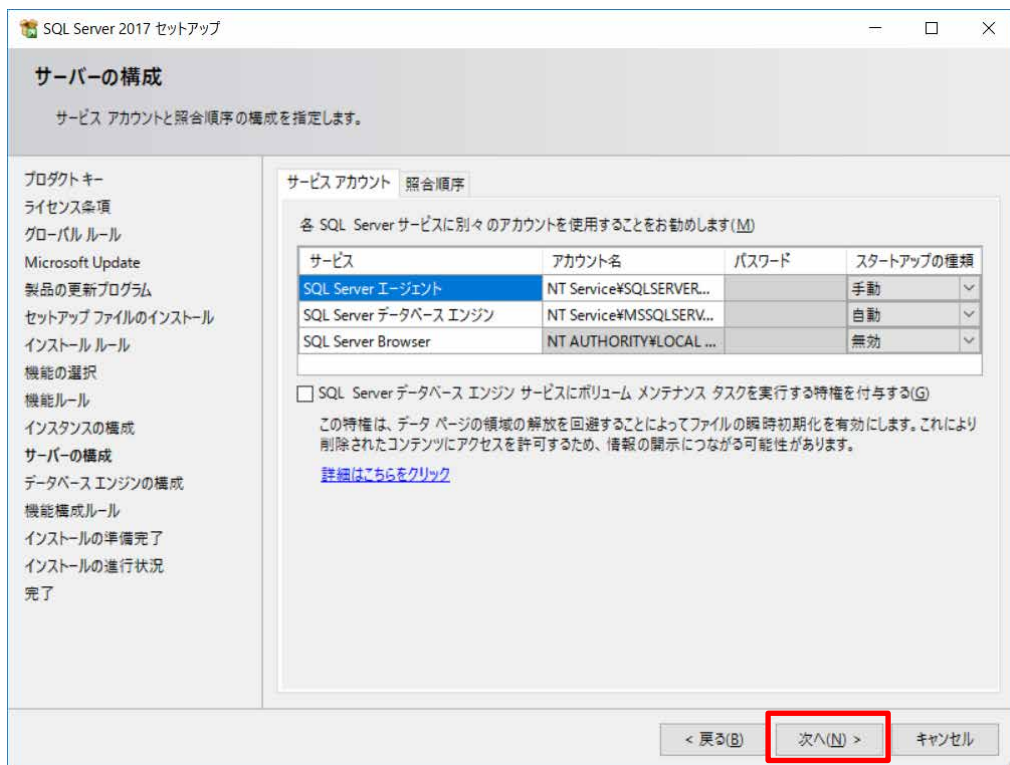
インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
---------	-----------	----	--------	-------

< 戻る(B)    **次へ(N) >**    キャンセル

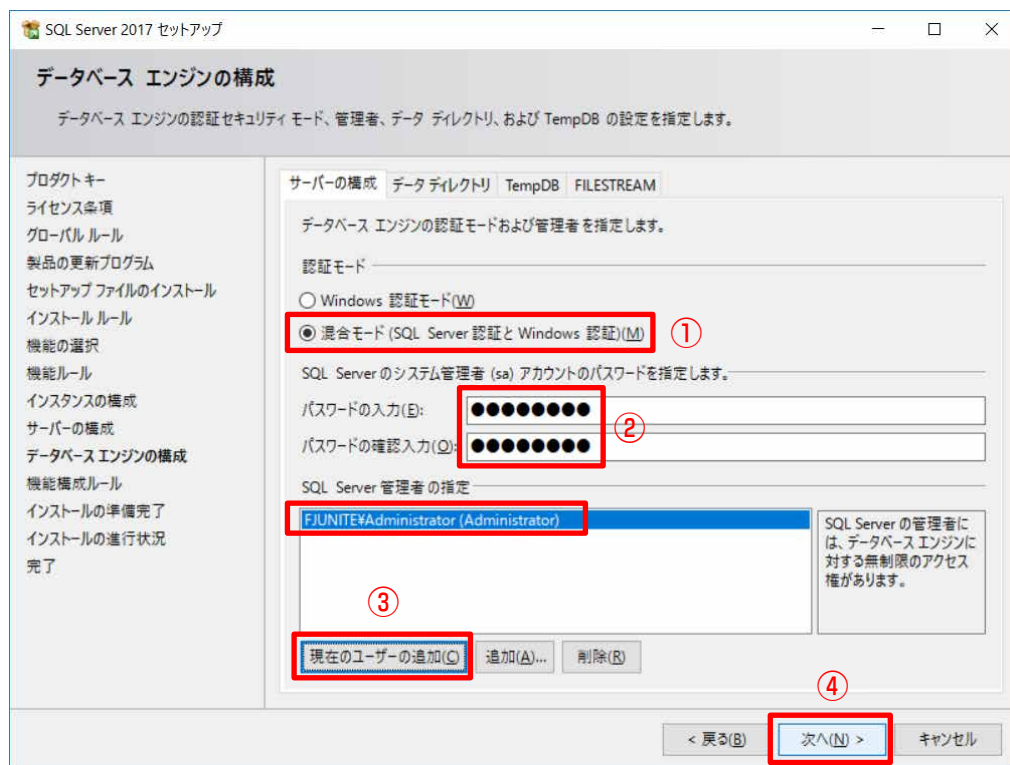


## 5 「次へ」をクリックします。

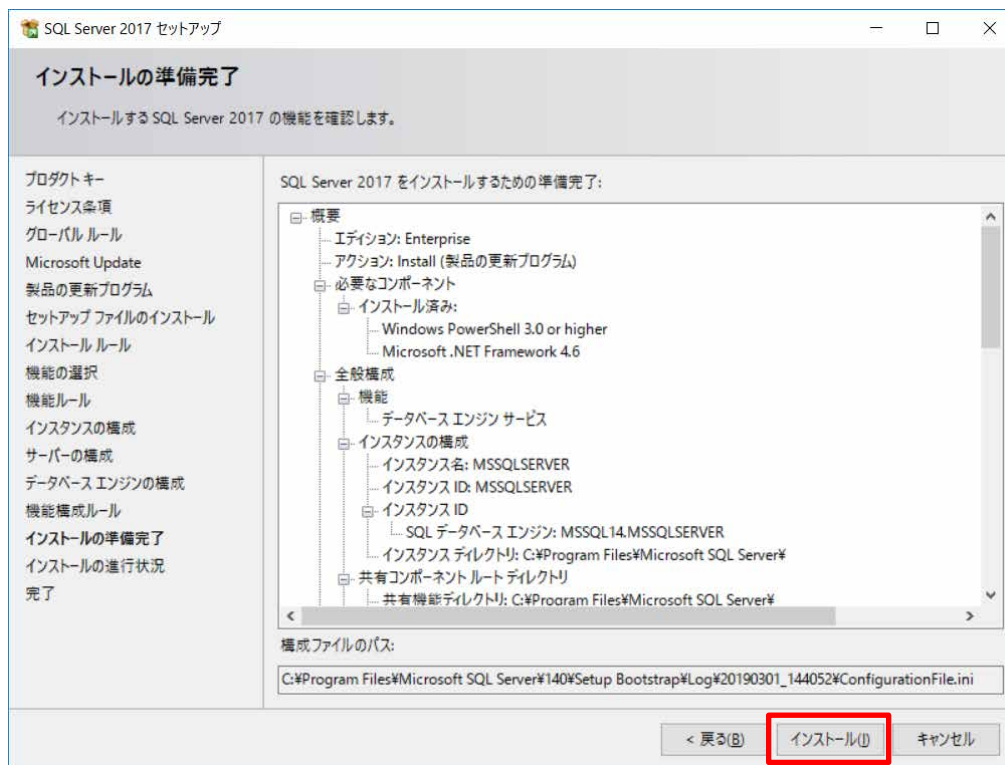


## 6 次の操作を行います。

- ① 「混合モード」を選択します。
- ② SQL Server のシステム管理者アカウントのパスワードを設定します。
- ③ 「現在のユーザーの追加」をクリックしたあと管理者を設定します。
- ④ 「次へ」をクリックします。

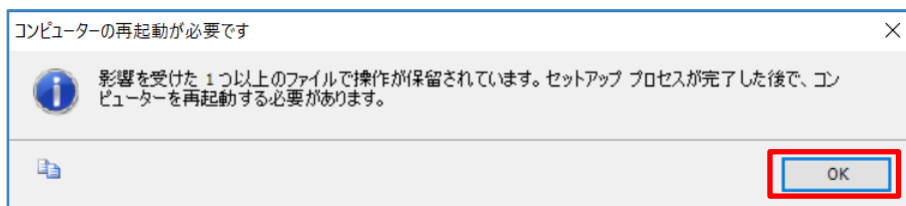


## 7 「インストール」をクリックします。



インストールが開始されます。

## 8 「コンピューターの再起動が必要です」が表示されたら、「OK」をクリックします。



## 9 「完了」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。

## 10 コンピューターの再起動を行い、再起動後に再度セットアップを実行します。

**11** 左側の「インストール」をクリックし、「SQL Server Management Tool のインストール」をクリックします。



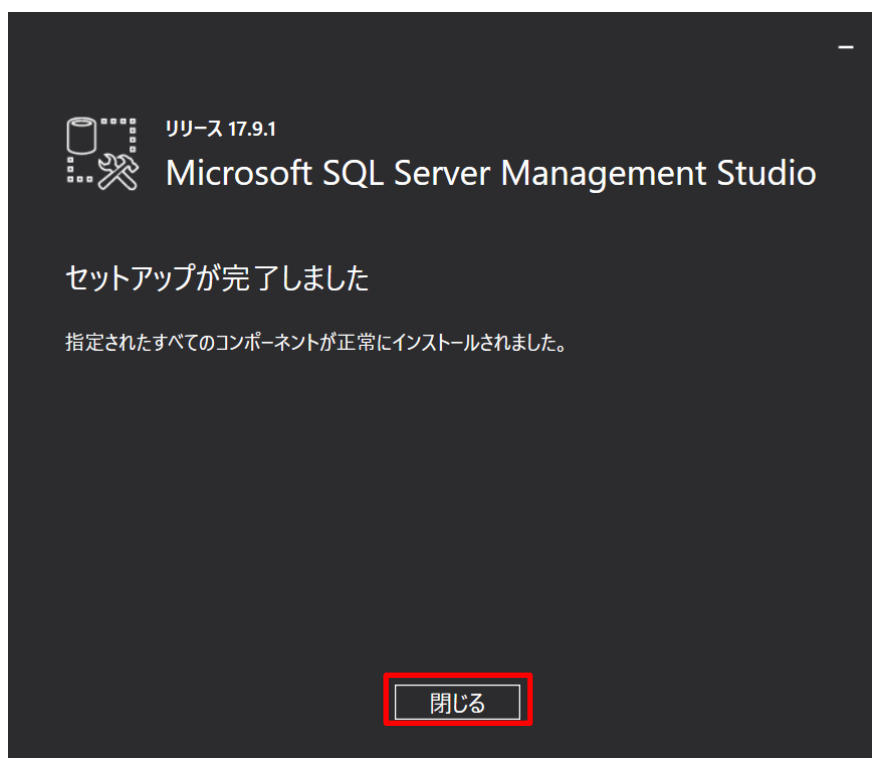
**12** 「SQL Server Management Studio (SSMS) のダウンロード」のページが表示されたら、SQL Server Management Studio を入手します。

**13** 入手した SQL Server Management Studio のインストーラーを実行し、セットアップを開始します。

## 14 「インストール」をクリックします。



## 15 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします



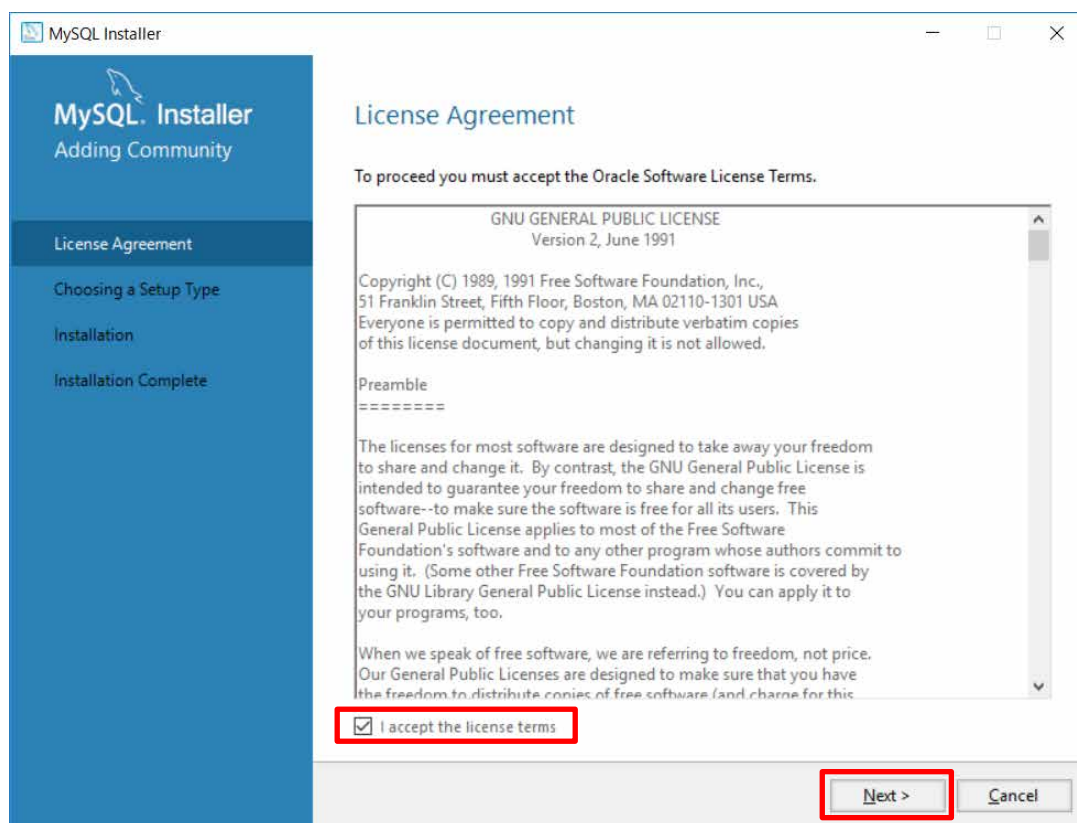
### ◆ MySQL Server 5.7.25 の場合

MySQL Server をインストールします。

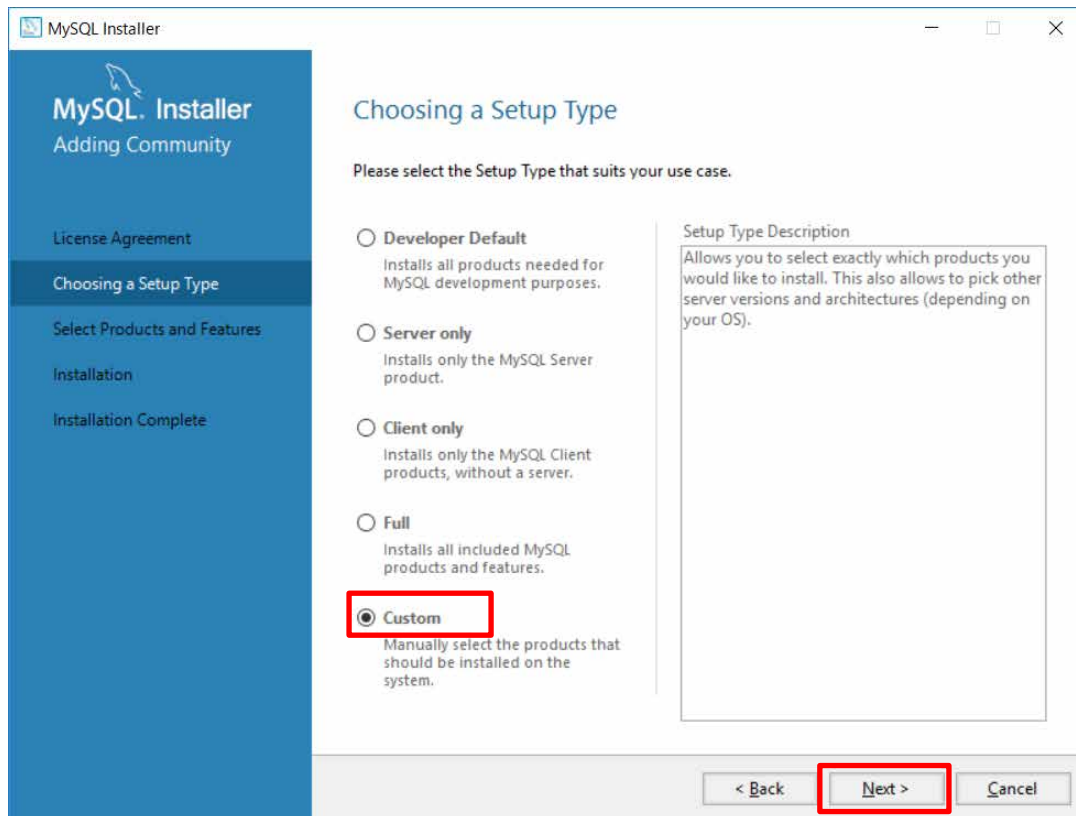
事前に Microsoft Visual C++ Redistributable Packages for Visual Studio 2015 をダウンロードし、適用する必要があります。

(<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53587>)

- 1 MySQL のダウンロードサイト (<https://dev.mysql.com/downloads/>) より入手します。
- 2 入手した MySQL Server のインストーラー (mysql-installer-community-5.7.25.0.msi) を実行し、セットアップを開始します。
- 3 「I accept the license terms」にチェックを付け、「Next」をクリックします。

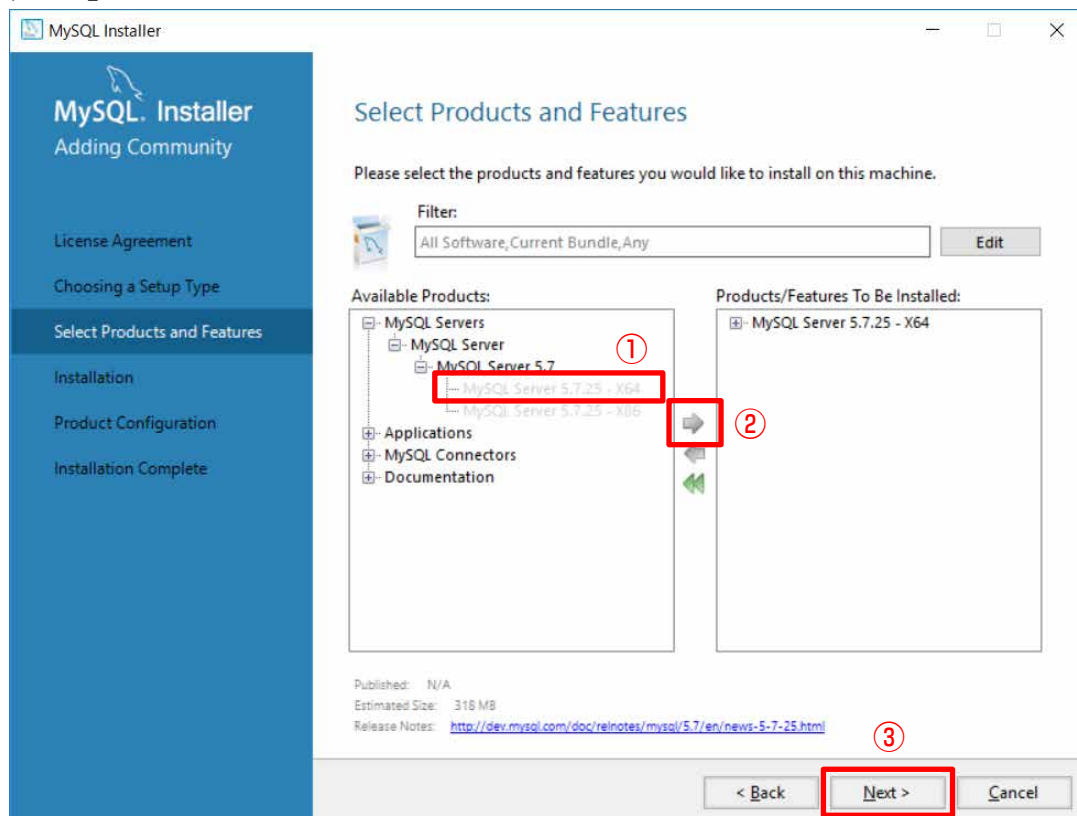


#### 4 「Custom」を選択し、「Next」をクリックします。

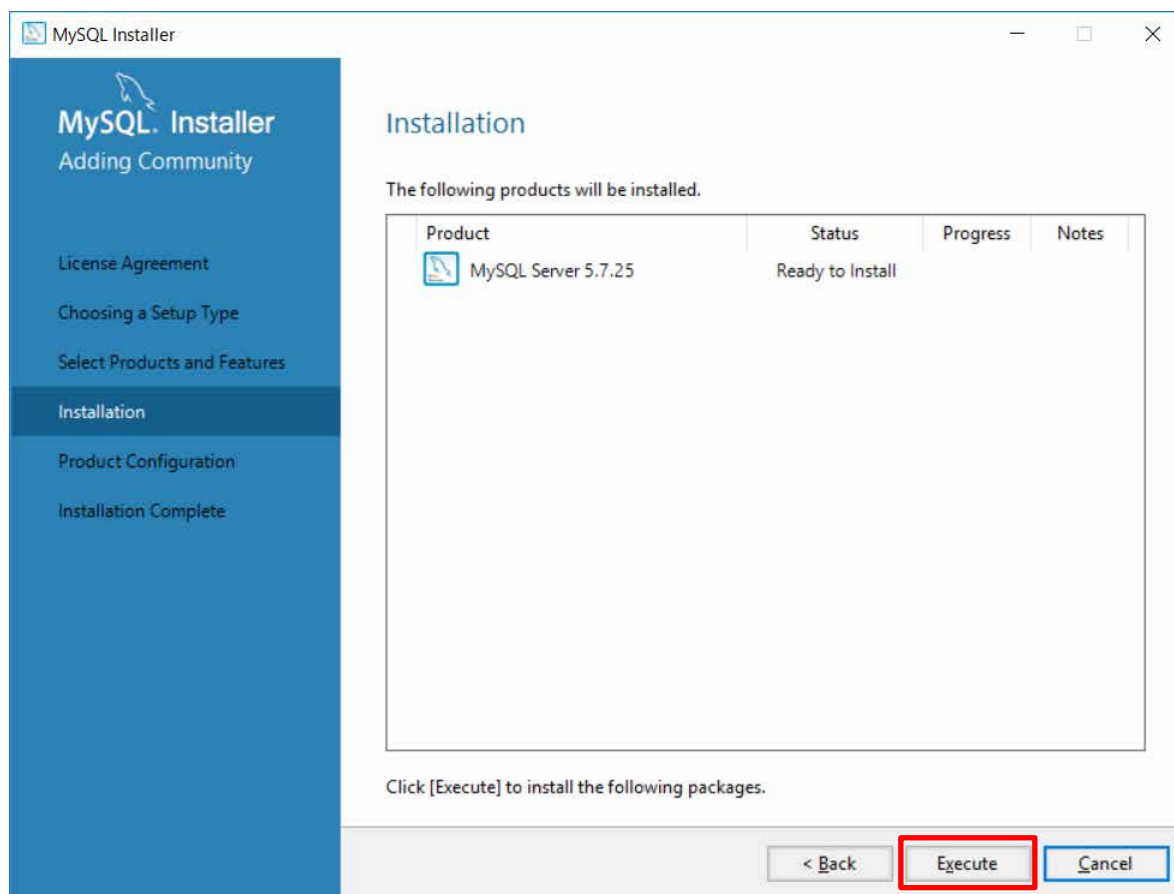


#### 5 次の操作を行います。

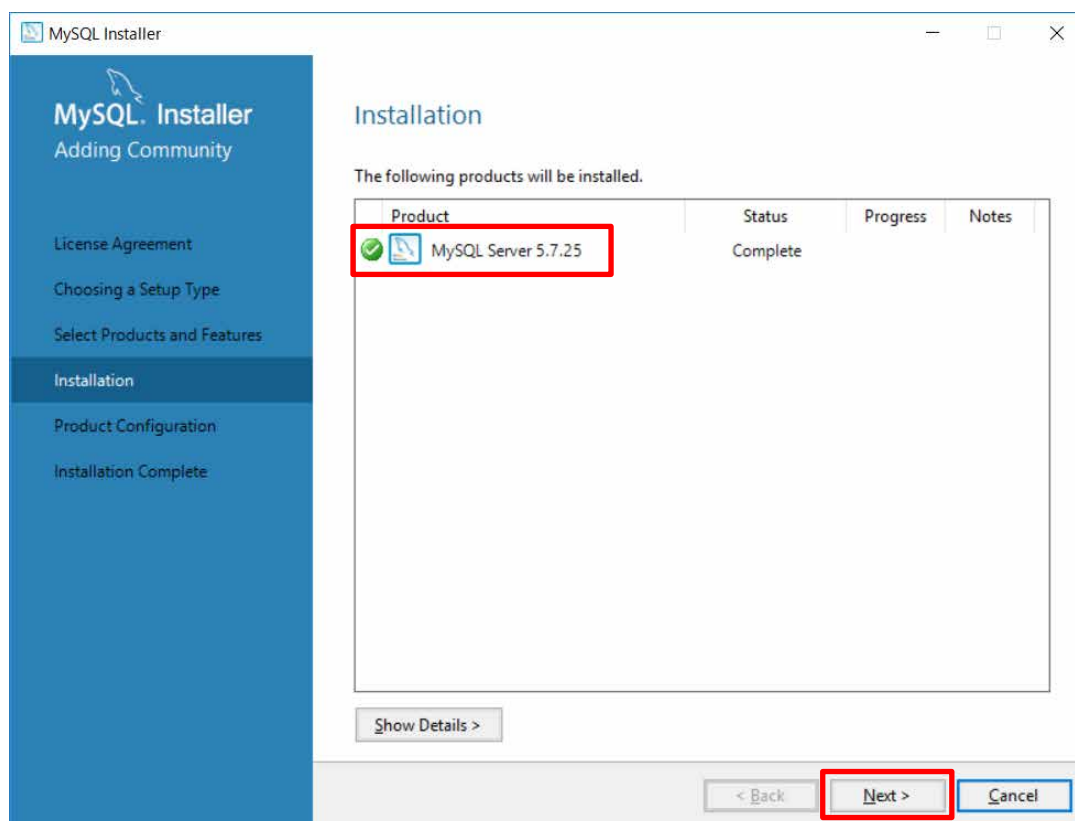
- ① 「MySQL Server 5.7.25 - X64」を選択します。
- ② 「→ (右矢印)」をクリックします。
- ③ 「Next」をクリックします。



## 6 「Execute」 をクリックします。

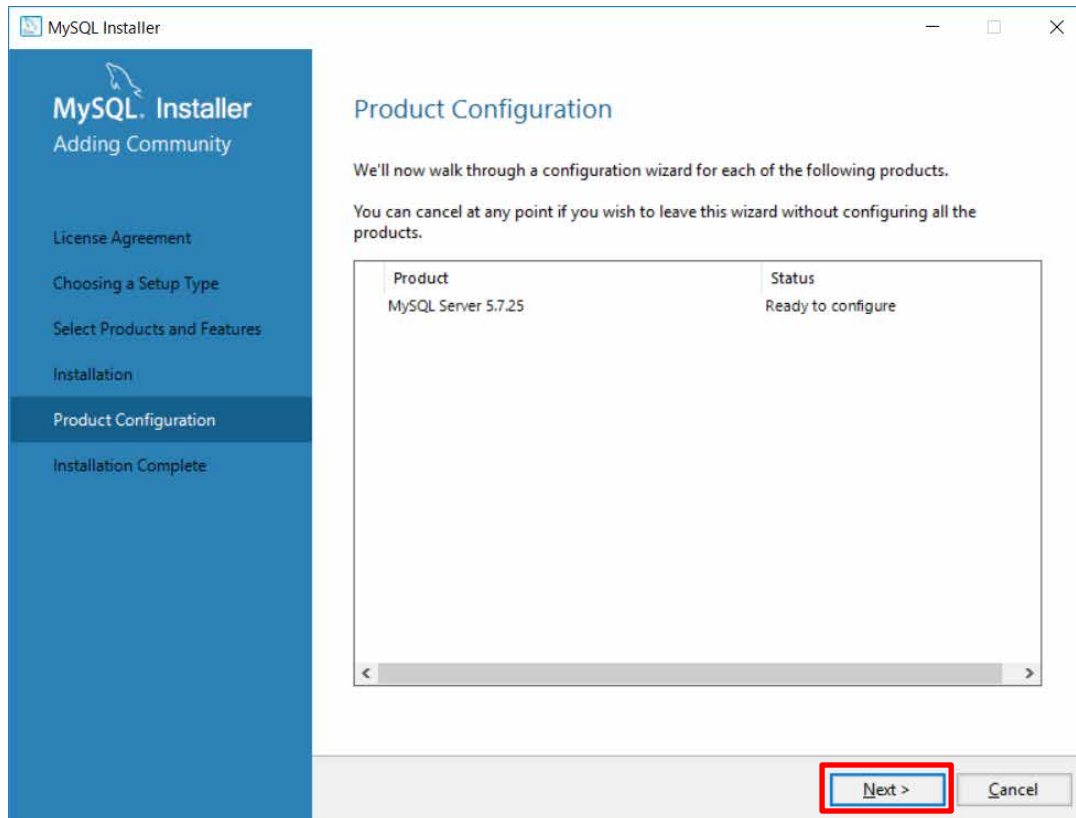


## 7 「MySQL Server 5.7.25」 に緑のチェックがあることを確認し、「Next」 をクリックします。

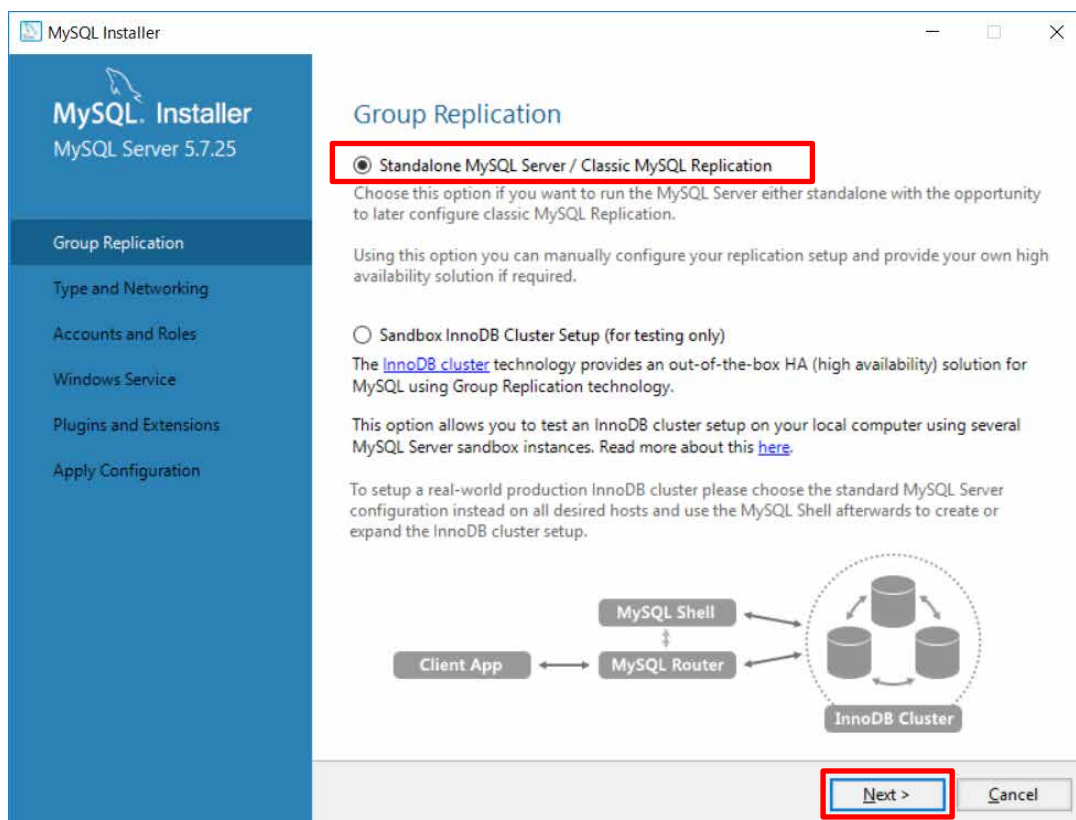




## 8 「Next」 をクリックします。

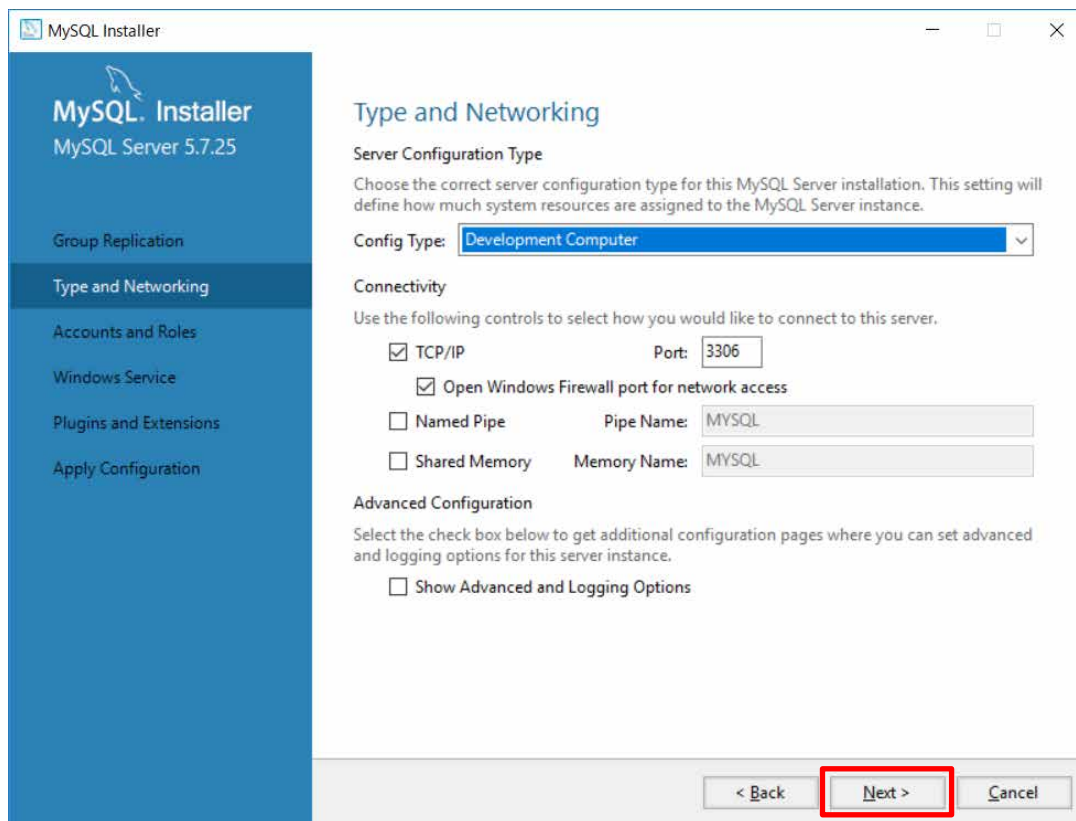


## 9 「Standalone MySQL Server/Classic MySQL Replication」を選択し、「Next」 をクリックします。





10 デフォルト設定のまま「Next」をクリックします。

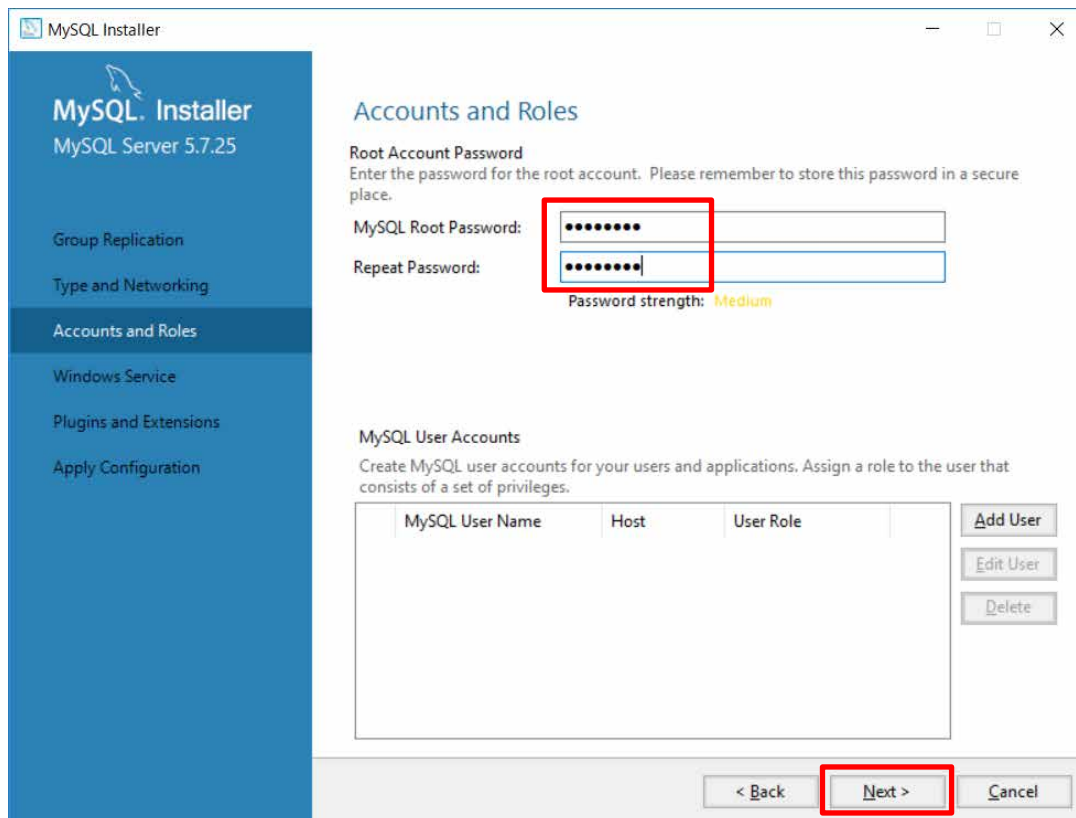


The screenshot shows the 'Type and Networking' step of the MySQL Installer for MySQL Server 5.7.25. The left sidebar lists the installation steps: Group Replication, Type and Networking (selected), Accounts and Roles, Windows Service, Plugins and Extensions, and Apply Configuration. The main area is titled 'Type and Networking' and contains the following sections:

- Server Configuration Type:** A dropdown menu set to 'Development Computer'.
- Connectivity:** Instructions to select how to connect to the server. The 'TCP/IP' checkbox is checked, with the port set to '3306'. The 'Open Windows Firewall port for network access' checkbox is also checked. The 'Named Pipe' and 'Shared Memory' options are unchecked.
- Advanced Configuration:** A checkbox for 'Show Advanced and Logging Options' is unchecked.

At the bottom right, there are three buttons: '< Back', 'Next >' (highlighted with a red rectangle), and 'Cancel'.

11 SQL Server のシステム管理者のパスワードを設定し、「NEXT」をクリックします。

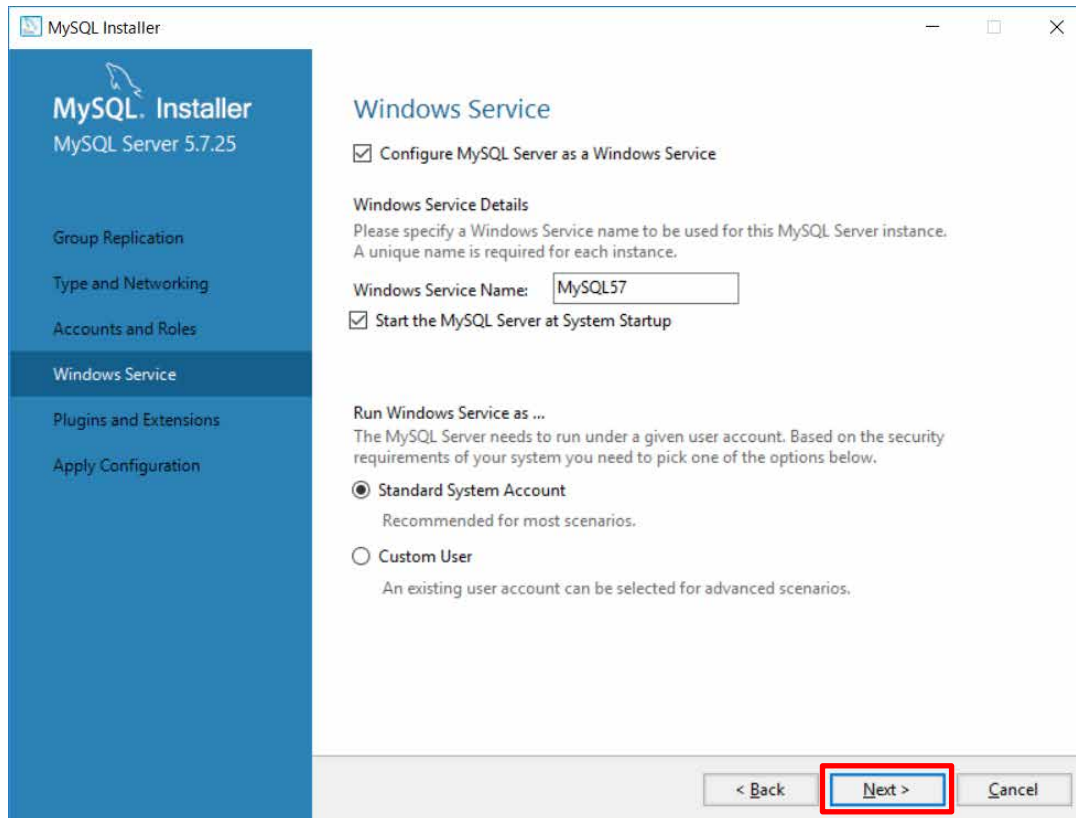


The screenshot shows the 'Accounts and Roles' step of the MySQL Installer for MySQL Server 5.7.25. The left sidebar is the same as in the previous step. The main area is titled 'Accounts and Roles' and contains the following sections:

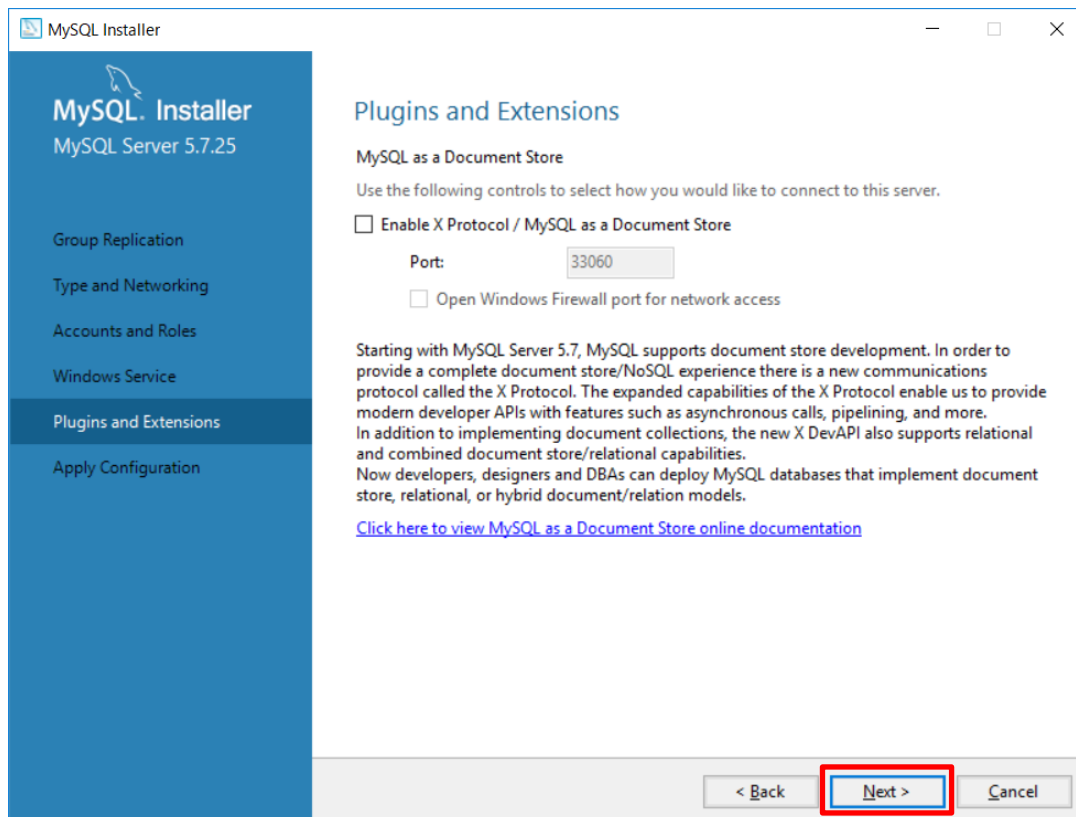
- Root Account Password:** Instructions to enter the password for the root account. Two password fields are shown: 'MySQL Root Password:' and 'Repeat Password:'. Both fields contain masked characters (dots) and are highlighted with a red rectangle. Below the fields, the 'Password strength' is indicated as 'Medium'.
- MySQL User Accounts:** Instructions to create MySQL user accounts. Below the text is a table with columns 'MySQL User Name', 'Host', and 'User Role'. To the right of the table are three buttons: 'Add User', 'Edit User', and 'Delete'.

At the bottom right, there are three buttons: '< Back', 'Next >' (highlighted with a red rectangle), and 'Cancel'.

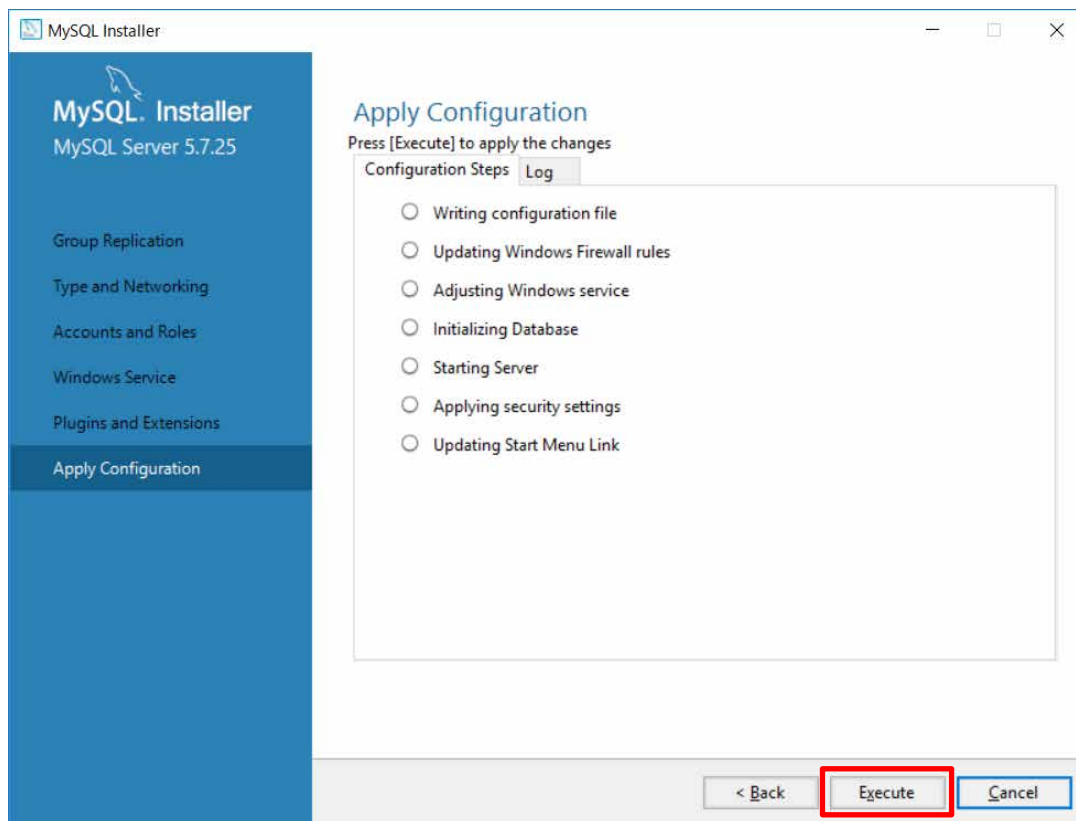
12 デフォルト設定のまま「Next」をクリックします。



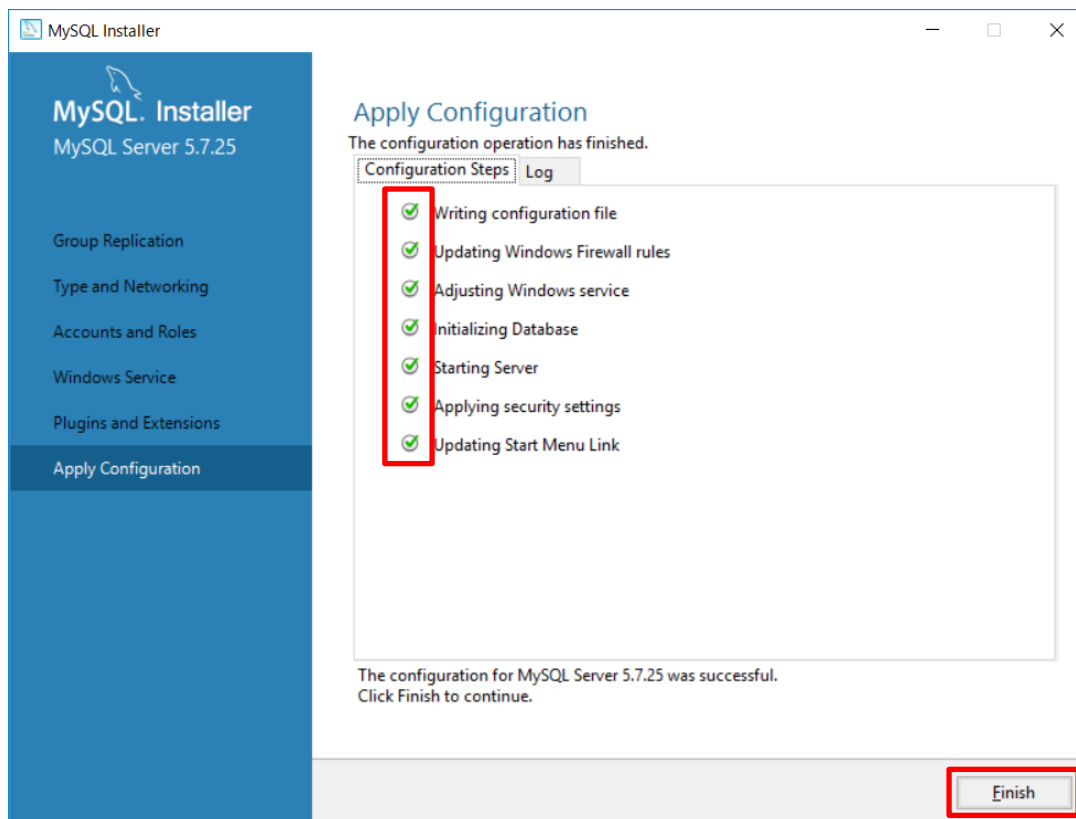
13 デフォルト設定のまま「Next」をクリックします。



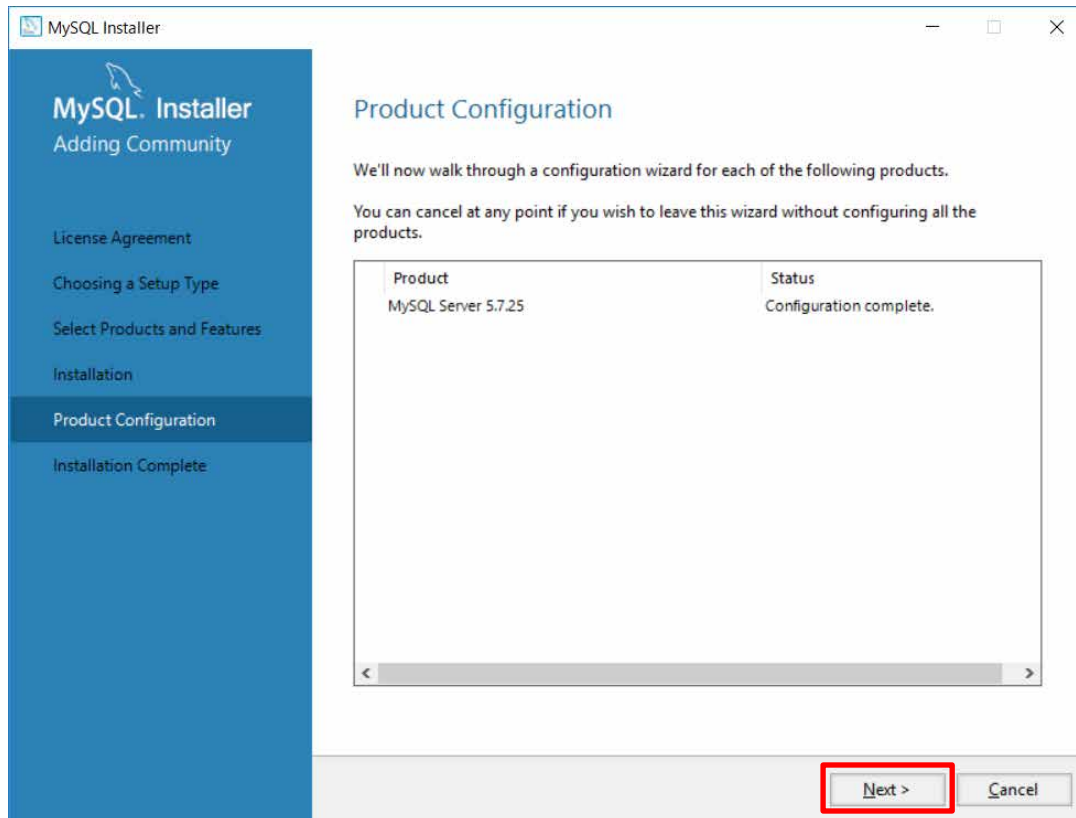
**14** デフォルト設定のまま「Execute」をクリックします。



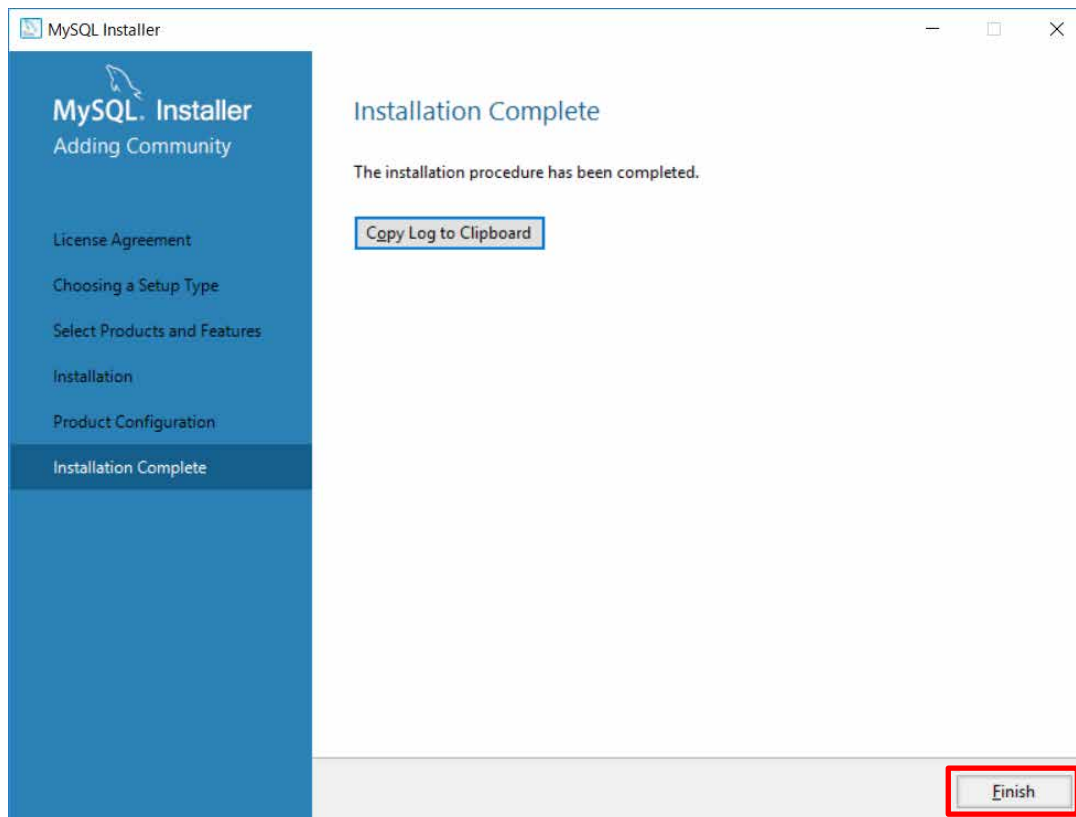
**15** 各項目がチェックされていることを確認し、「Finish」をクリックします。



## 16「NEXT」をクリックします。



## 17「Finish」をクリックします。



## ● URL Rewrite のインストール

- 1 URL Rewrite (URL Rewrite Module 2) をダウンロードサイト (<https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite>) より入手します。
- 2 入手した URL Rewrite Module 2 のインストーラー (rewrite\_amd64\_ja-JP.msi) を実行し、セットアップを開始します。
- 3 「使用許諾契約書に同意します」 にチェックを付け、「インストール」 をクリックします。

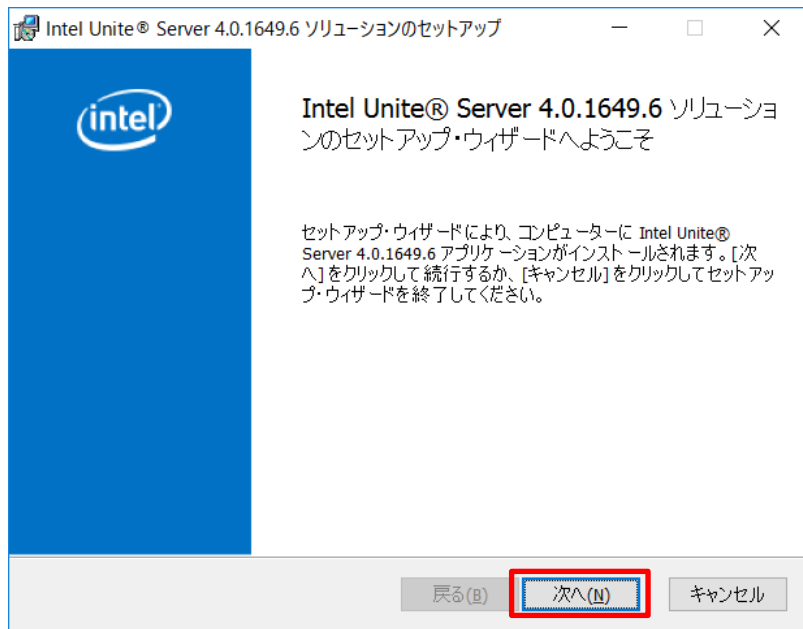


- 4 「完了」 をクリックします。

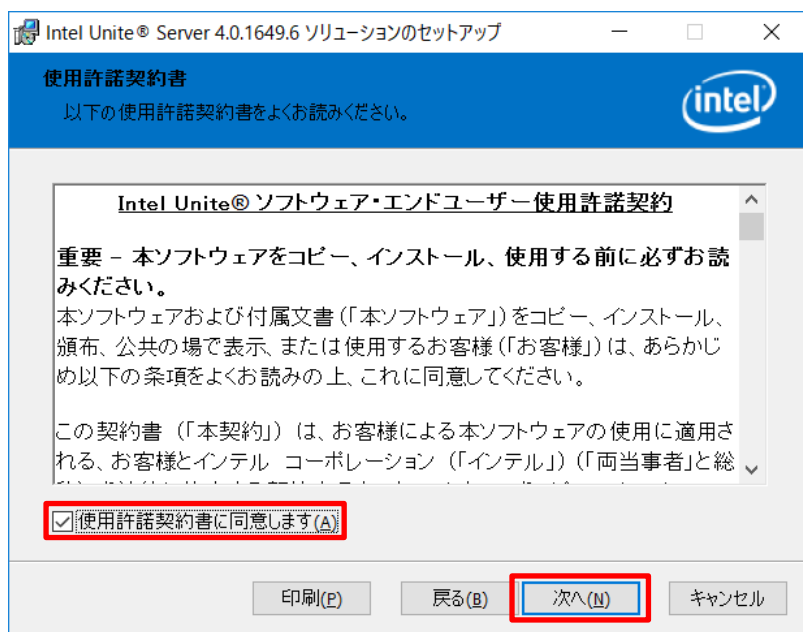


## ● Intel Unite エンタープライズ・サーバーのインストール

- 1 Unite エンタープライズ・サーバーのインストーラー（例：Intel\_Unite\_Server\_v4.0.1649.6\_x86.mui.msi）を実行し、セットアップを開始します。  
既に Unite V3 がインストールされている環境にもインストールが可能です。
- 2 「次へ」をクリックします。

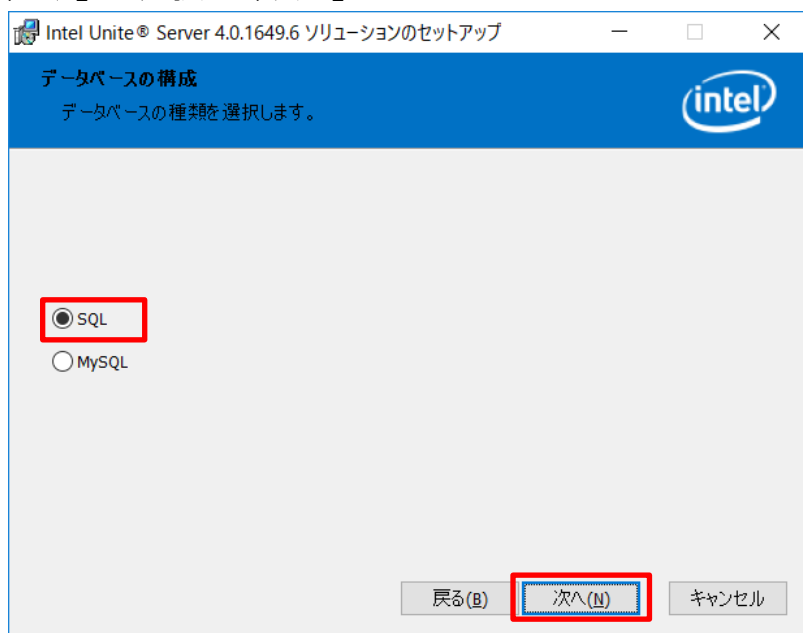


- 3 「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。

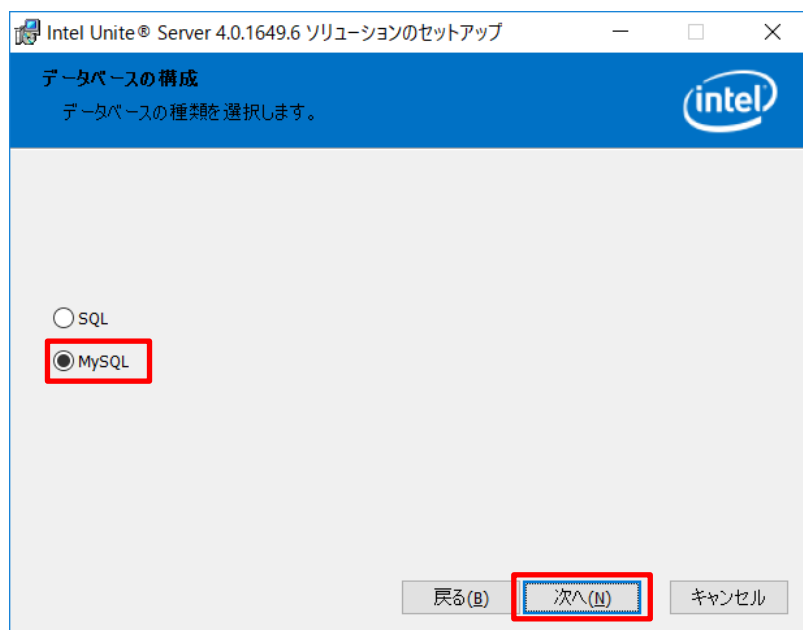


#### 4 データベースの種類選択をします。SQL Server のインストール章で選択した Server に合わせて選択します。

A).Microsoft SQL Server の場合  
「SQL」を選択し「次へ」をクリックします。



B).MySQL Server の場合  
「MySQL」を選択し「次へ」をクリックします。



## 5 データベースの作成を行います。

A).Microsoft SQL Server の場合

①次の設定を行います。

- ・ SQL ホスト名：(local)
- ・「信頼済み (Windows 認証)」を選択
- ・ サービス・アカウント・パスワード：UniteServer データベースのパスワードを設定  
(8 文字以上で、大文字、小文字、数字、記号がそれぞれ 1 文字以上使用されている必要があります。)

②「テスト接続」をクリックし、データベース・サーバーへの接続に成功することを確認します。

③「次へ」をクリックします。

Intel Unite® Server 4.0.1649.6 ソリューションのセットアップ

**SQL サーバー**  
データベースを作成するには、SQL Server® を選択します。

データベース・サーバー接続の詳細:

サーバー名: (local) ①  
形式: IP または サーバー名、ポート  
(例: hostname,1234)

☒ 信頼済み (Windows 認証) ①  
☐ ユーザー名とパスワードを指定 (SQL 認証)

ログイン ID(L):  
パスワード(P):

テスト接続 ②

Intel Unite® データベース接続/セットアップの詳細:

データベース名: unite\_server ①

サービス・アカウント・パスワード:  
パスワードの確認:

戻る(B) 次へ(N) ③ キャンセル



## B).MySQL Server の場合

### ①次の設定を行います。

- ・ SQL ホスト名：(local)
- ・ ログイン ID：データベース・サーバーのログイン ID（例：root）
- ・ パスワード：データベース・サーバーのパスワード  
(MySQL Server インストール時に設定したパスワード)
- ・ サービス・アカウント・パスワード：UniteServer データベースのパスワードを設定  
(8 文字以上で、大文字、小文字、数字、記号がそれぞれ 1 文字以上使用されている必要があります。)

### ②「テスト接続」をクリックし、データベース・サーバーへの接続に成功することを確認します。

### ③「次へ」をクリックします。

Intel Unite® Server 4.0.1649.6 ソリューションのセットアップ

### MySQL\* サーバー

データベースを作成するには、MySQL\* サーバーを選択します。

データベース・サーバー接続の詳細:

サーバー名:  ①  
形式: IP または サーバー名, ポート  
(例: hostname, 1234)

ログイン ID(L):  ①

パスワード(P):  ①

②

Intel Unite® データベース接続/セットアップの詳細:

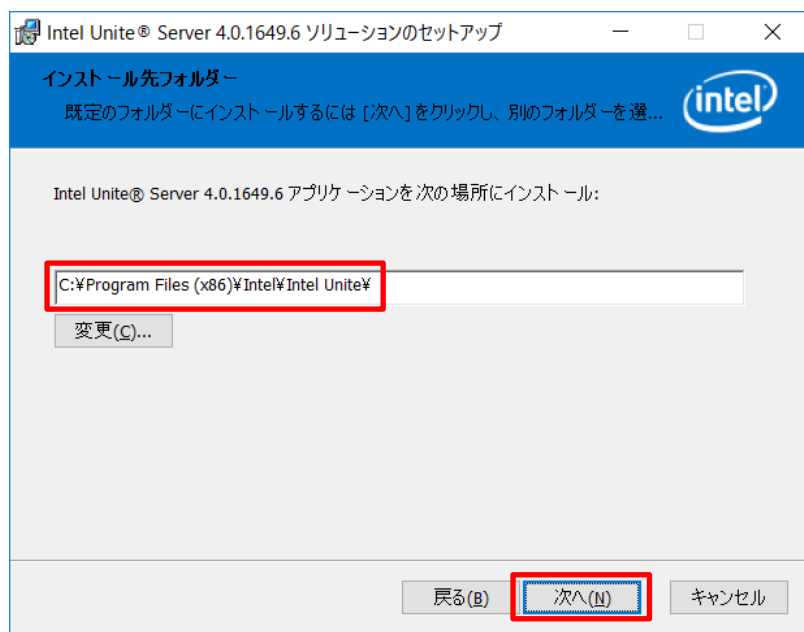
データベース名: ① unite\_server

サービス・アカウント・パスワード:  ①

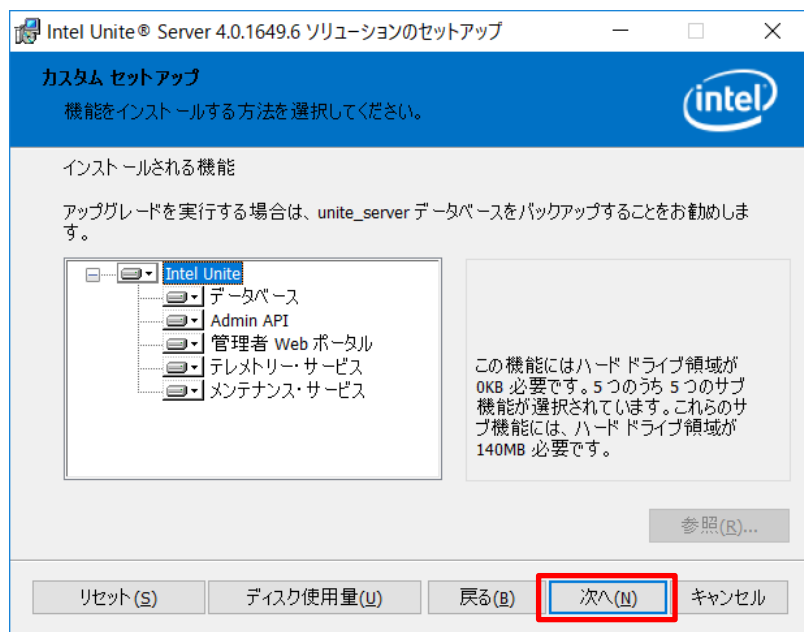
パスワードの確認:  ①

③

## 6 インストール先フォルダーを確認し、「次へ」をクリックします。

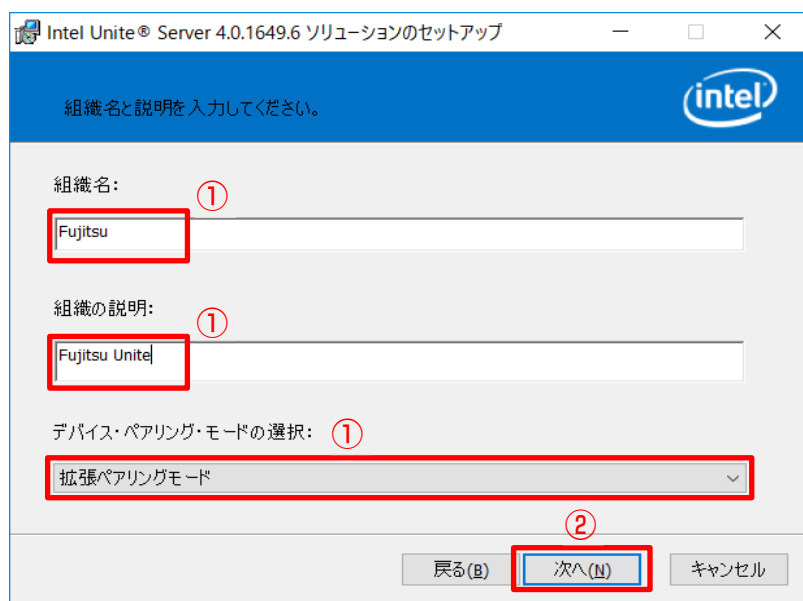


## 7 「次へ」をクリックします。

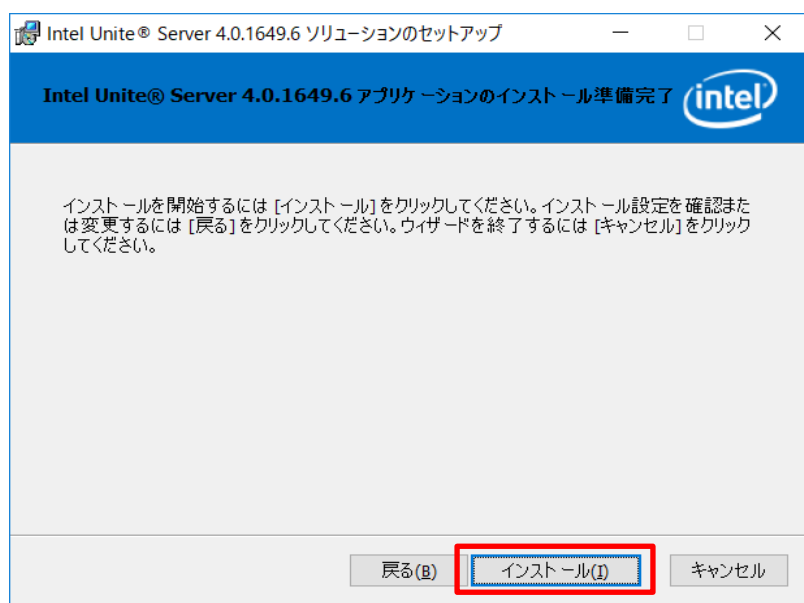


## 8 ①次の設定を行い、②「次へ」をクリックします。

- ・組織名（例：Fujitsu）
  - ・組織の説明（例：Fujitsu Unite）
  - ・デバイス・ペアリング モードの選択（例：拡張ペアリングモード）
    - a).拡張ペアリングモード：クライアントデバイスを登録するときに電子メールによる確認が必要となります。
    - b).レガシー・ペアリングモード（バージョンによっては、標準ペアリングモードと表示される場合があります）：クライアントデバイスを登録するときに電子メールによる確認が不要となります。
- ※デバイス・ペアリングモードはインストール後に変更することは出来ません。  
変更する場合は再インストールが必要となります。



## 9 「インストール」をクリックします。




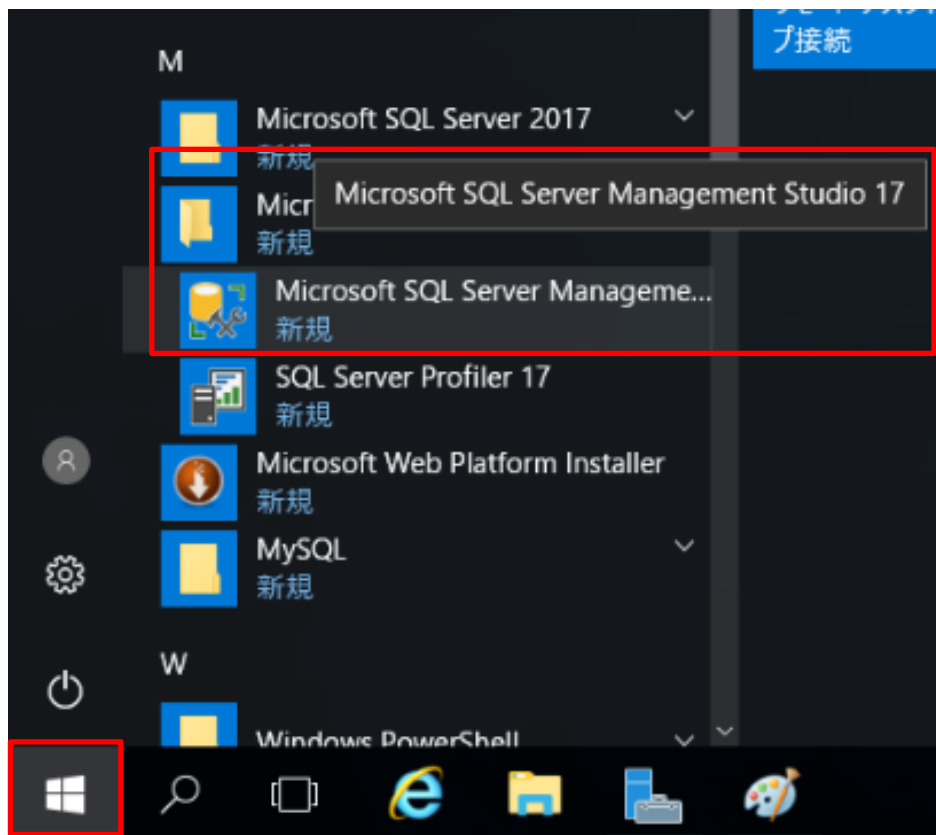
インストールを開始します。

## 10 インストール完了後、「完了」をクリックして終了します。

## ● 正常にインストールされたことを確認する（Microsoft SQL Server）

SQL Management Studio を使用して、UniteServer データベースが作成されていることを確認します。

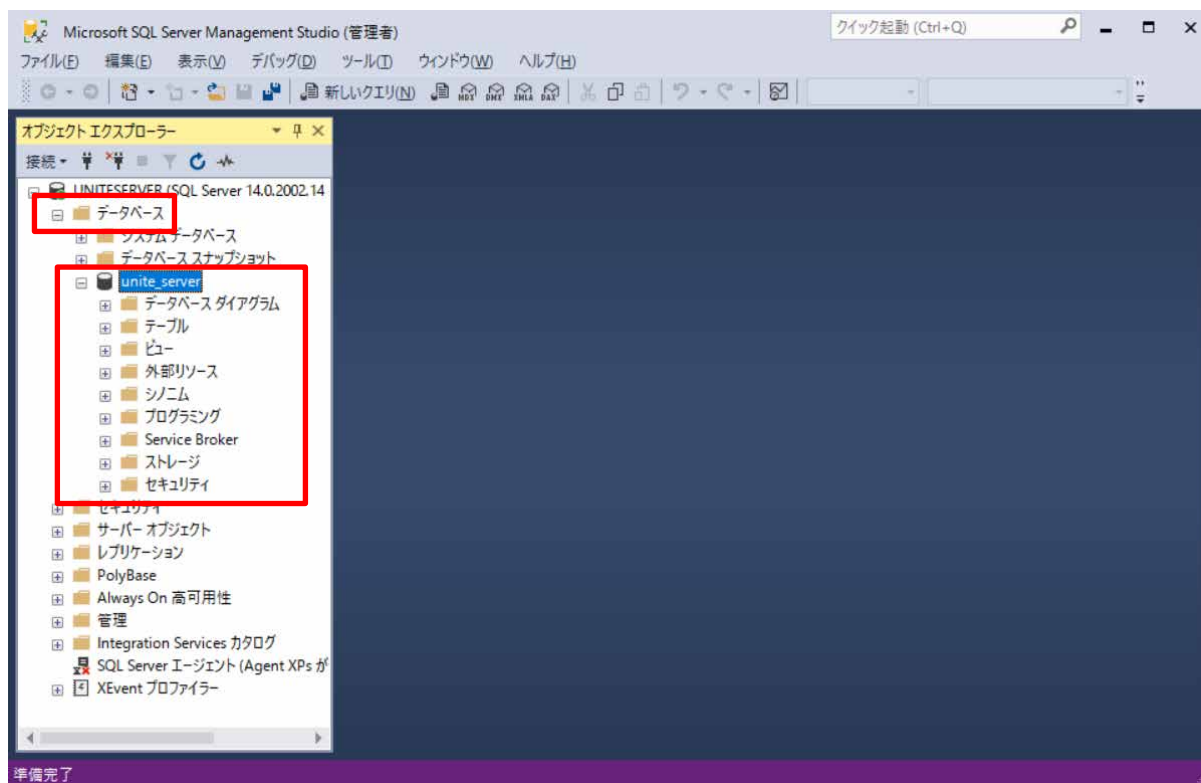
- 1  (スタート) → 「Microsoft SQL Server Tool 17」 → 「Microsoft SQL Management Studio 17」の順にクリックします。



- 2 SQL Server に接続します。




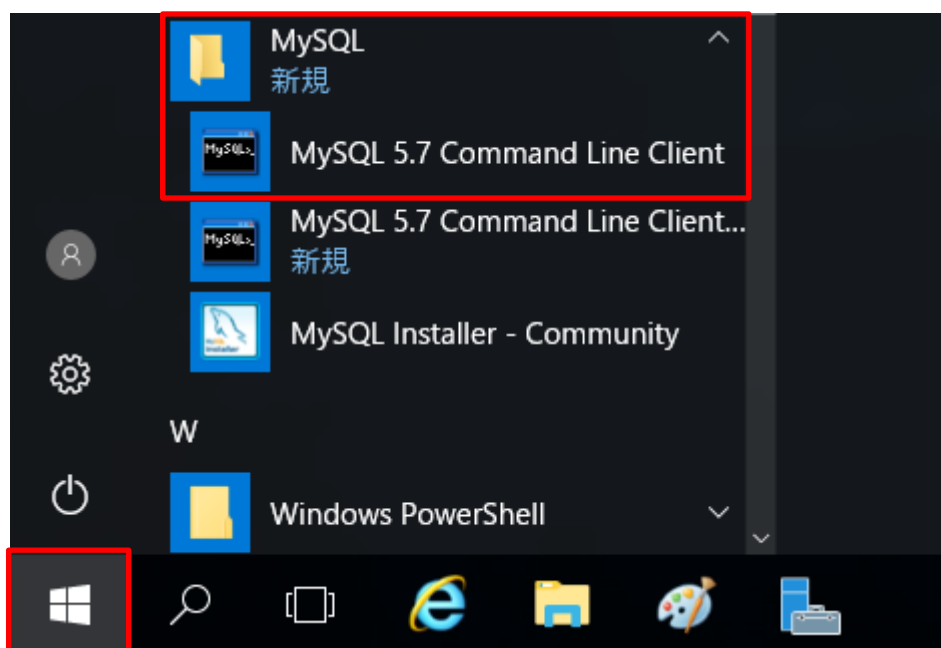
- 3 左側の枠で「データベース」をクリックしてツリーを展開し、「Unite\_Server」データベースが作成されていることを確認します。



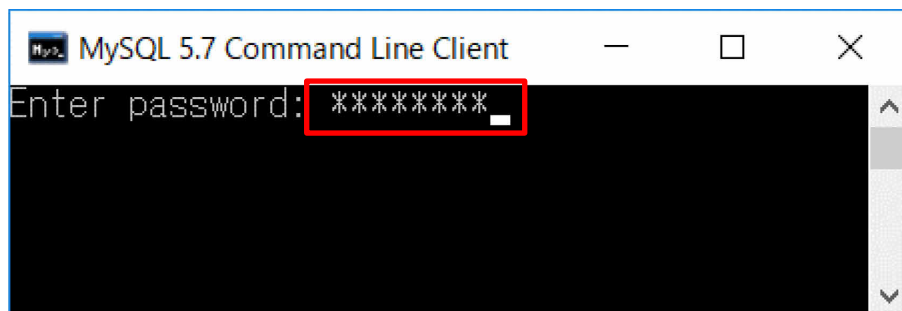
### ● 正常にインストールされたことを確認する（MySQL Server）

MySQL Command Line Client を使用して、UniteServer データベースが作成されていることを確認します。

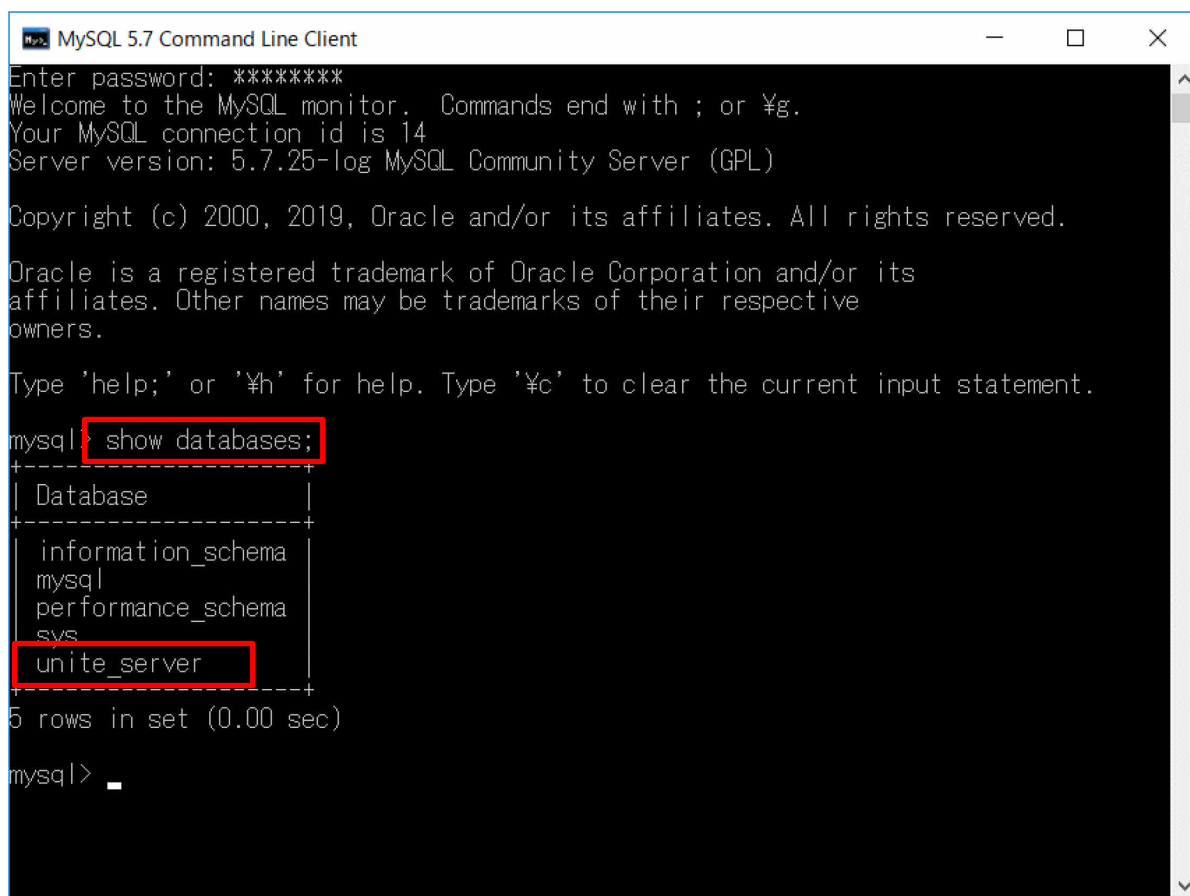
- 1  (スタート) → 「MySQL」 → 「MySQL 8.0 Command Line Client」 の順にクリックします。



- 2 SQL Server に接続します。パスワードの入力を求められるので、SQL Server のインストール時に設定したパスワードを入力します。



- 3 「show databases;」を入力し、「Unite\_Server」データベースが作成されていることを確認します。



## ● DNS TXT レコードの設定

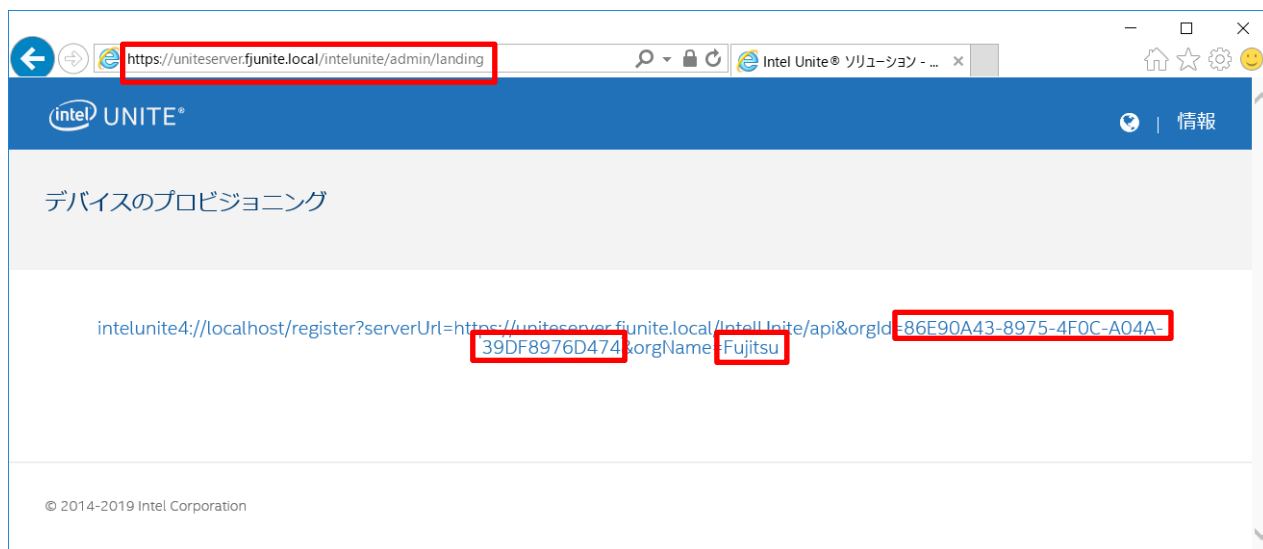
- 1 DNS TXT レコードの設定にあたり、ブラウザを起動し、次の URL を入力してデバイスのプロビジョニングにアクセスし、OrgID、OrgName を確認します。

`https://<サーバー名>/intelunite/admin/landing`

(例: `https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/admin/landing`)

- OrgID (例: 86E90A43-8975-4F0C-A04A-39DF8976D474)
- OrgName (例: Fujitsu)

OrgID、OrgName は、メモ帳などにメモを残してください。



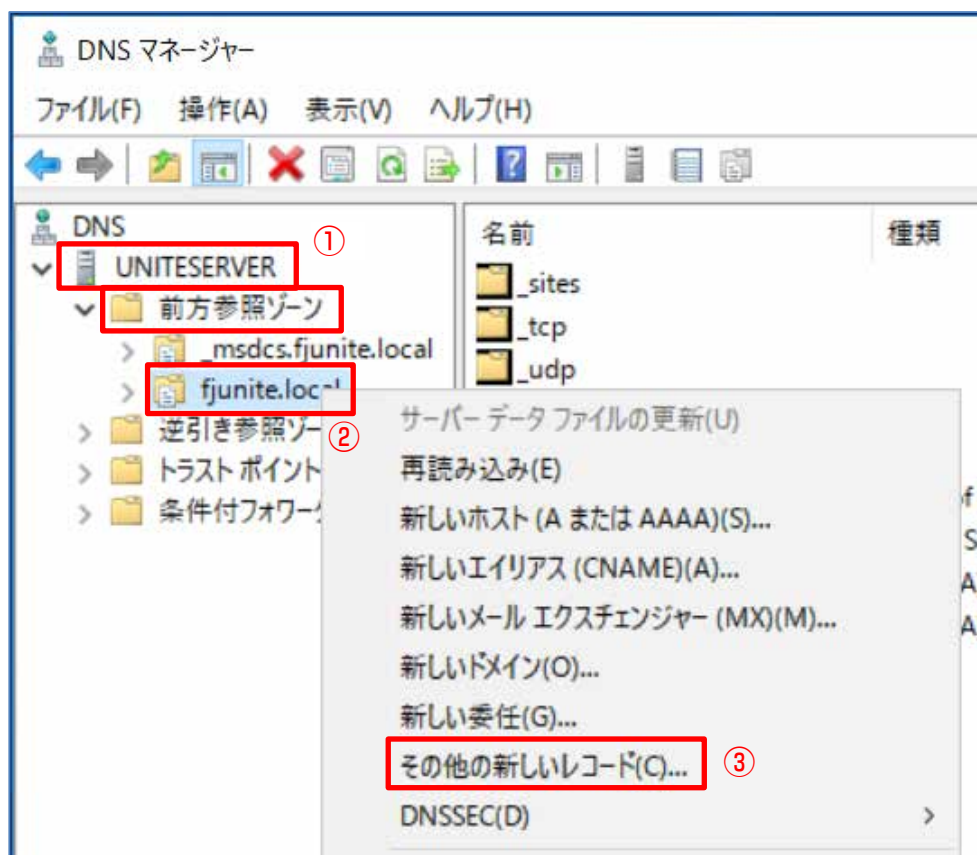
- 2 (スタート) → 「サーバー マネージャー」 → 「ツール」 メニューから 「DNS」 の順にクリックします。



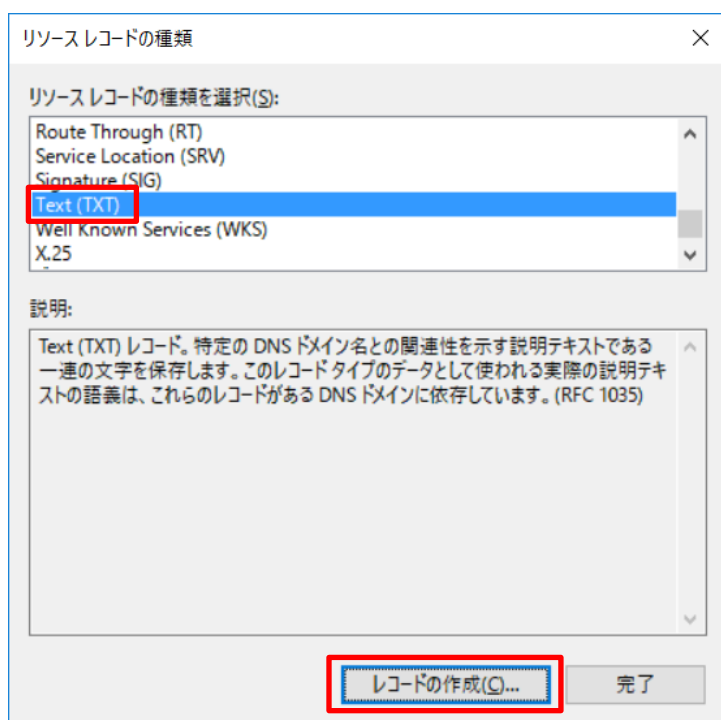
DNS マネージャーが起動します。

### 3 次の操作を行います。

- ① 左枠のサーバー名（例：UNITESERVER）の下に「前方参照ゾーン」をクリックしてツリーを展開します。
- ② ドメイン名（例：fjunit.local）を右クリックし、
- ③ 「その他の新しいレコード」をクリックします。



### 4 「Text (TXT)」をクリックし、「レコードの作成」をクリックします。





**5** 次のように設定して「OK」をクリックします。

- エイリアス名：uniteservice
- テキスト：SERVICEURL=http://<サーバー名>/intelunite/api|ORGID=<OrgID>|OrgName=<OrgName>  
(例：SERVICEURL= https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/api|ORGID=86E90A43-8975-4F0C-A04A-39DF8976D474|OrgName=Fujitsu)
  - ・ サーバー名 (例：uniteserver.fjunite.local)
  - ・ OrgID (例：86E90A43-8975-4F0C-A04A-39DF8976D474)
  - ・ OrgName (例：Fujitsu)

OrgID、OrgName は、事前にメモ帳などに残した値を使用します。

新しいリソースレコード

テキスト (TXT)

エイリアス名 (空欄の場合は親ドメイン名を使用)(R):  
uniteservice


完全修飾ドメイン名 (FQDN)(E):  
uniteservice.fjunite.local.

テキスト(E):  
SERVICEURL=https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/api|ORGID=86E90A43-8975-4F0C-A04A-39DF8976D474|OrgName=Fujitsu

OK キャンセル

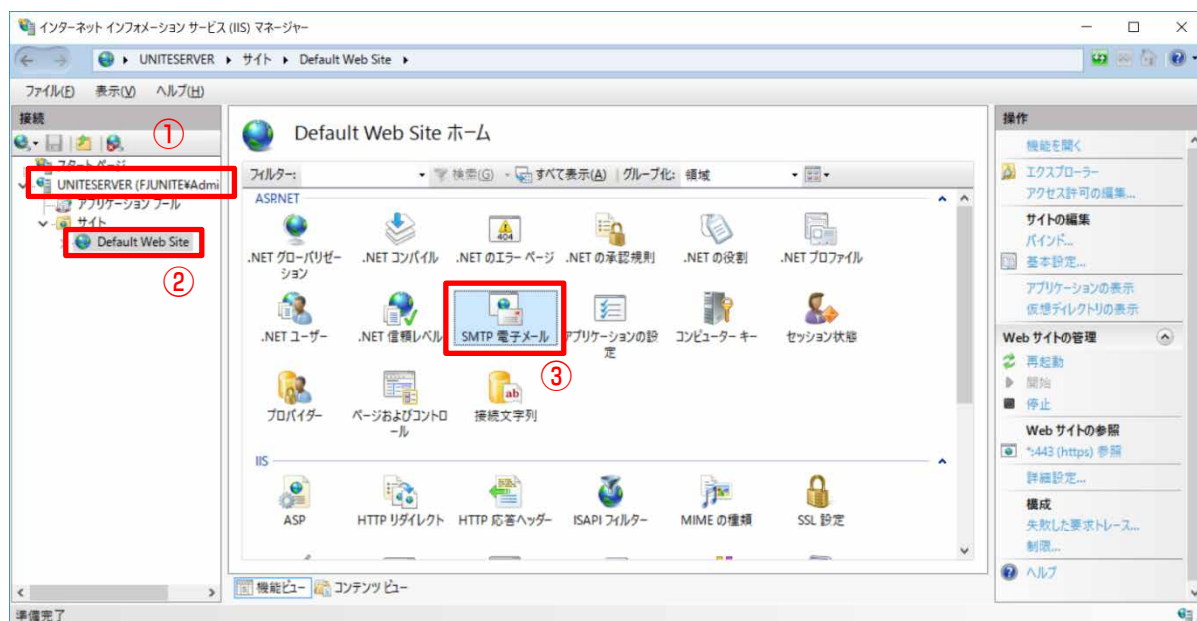
**6** 「リソース レコードの種類」画面で「完了」をクリックします。

## ● 電子メールサーバーの設定

1  (スタート) → 「Windows 管理ツール」 → 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」の順にクリックします

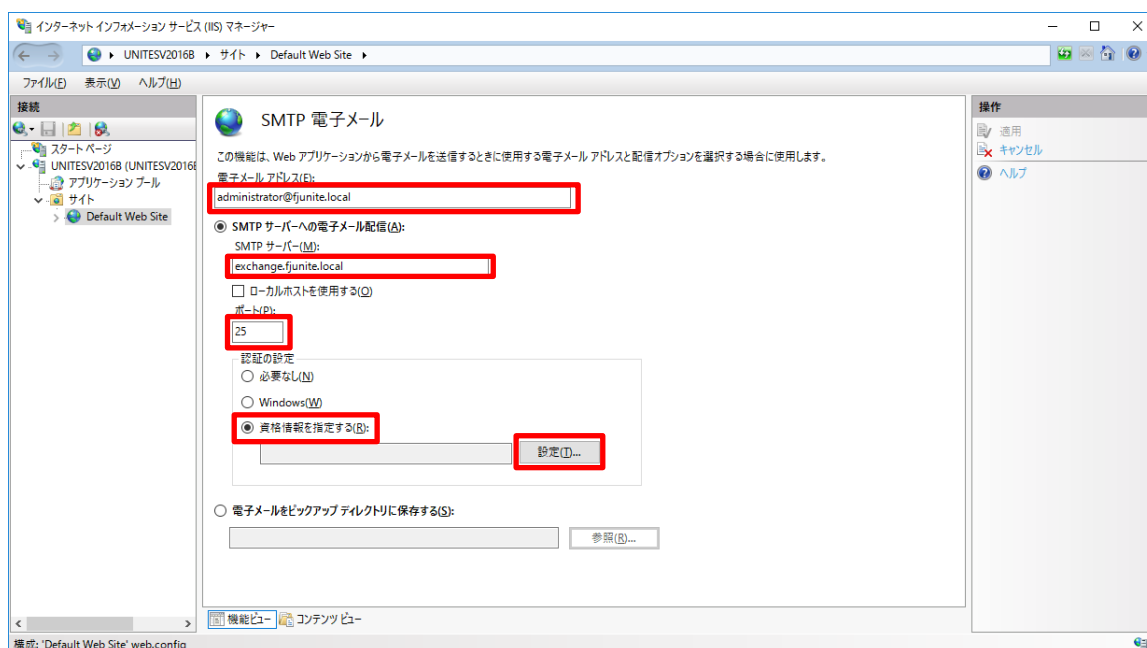
2 次の操作を行います。

- ① 左側の「接続」パネルのサーバー名（例：UNITESERVER）の下「サイト」を展開します。
- ② 「Default Web Site」をクリックします。
- ③ 「SMTP 電子メール」をダブルクリックします。



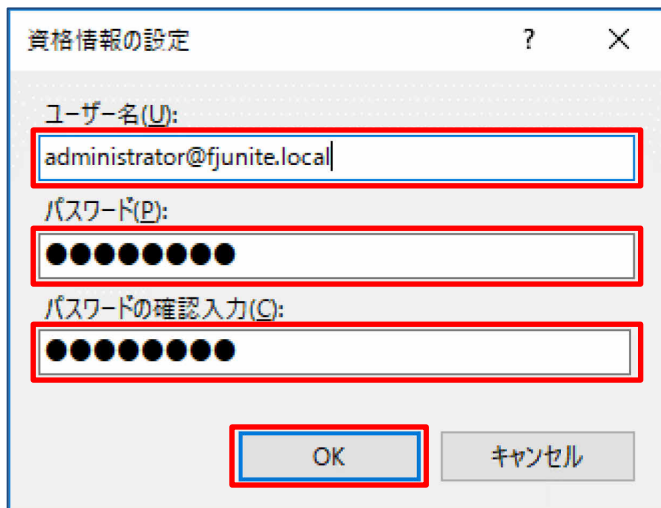
3 次の設定を行い、「設定」をクリックします。

- 電子メールアドレス（例：administrator@fjunitelocal）
- SMTP サーバー（例：exchange.fjunitelocal）
- ポート：25
- 資格情報を指定する



#### 4 次の設定を行い、「OK」をクリックします。

- ユーザー名（例：administrator@fjunite.local）
- パスワード（SMTP の電子メール認証パスワードを入力します）



資格情報の設定

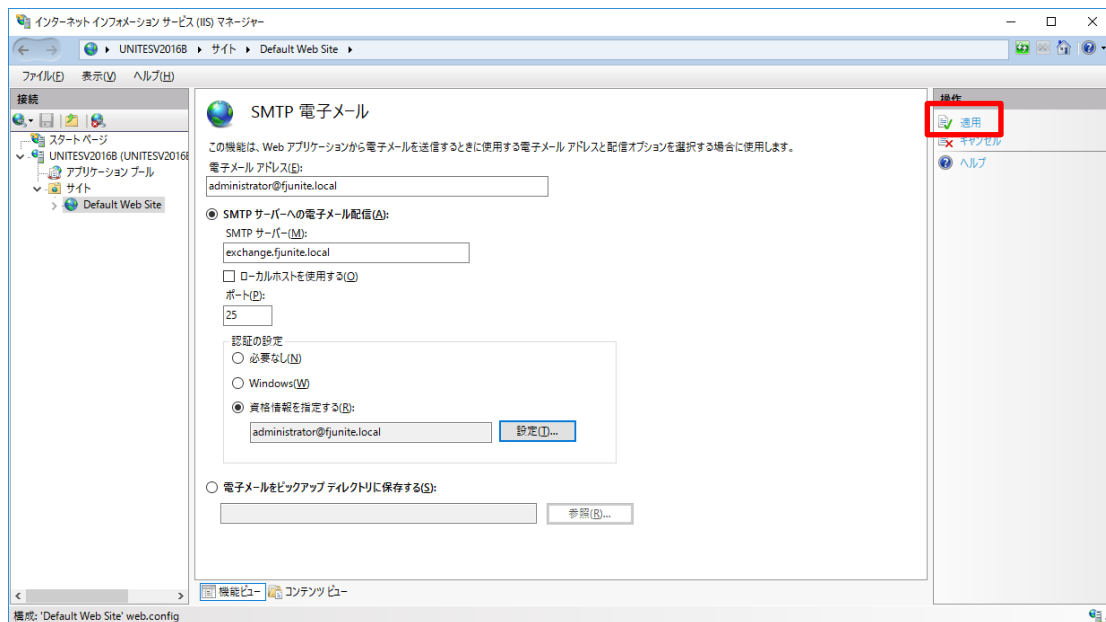
ユーザー名(U):  
administrator@fjunite.local

パスワード(P):  
●●●●●●●●

パスワードの確認入力(C):  
●●●●●●●●

OK キャンセル

#### 5 右側の「操作」パネルから「適用」をクリックします。



インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー

UNITESV2016B > サイト > Default Web Site

接続

スタートページ  
UNITESV2016B (UNITESV2016B)  
アプリケーション プール  
サイト  
Default Web Site

SMTP 電子メール

この機能は、Web アプリケーションから電子メールを送信するときに使用する電子メール アドレスと配信オプションを選択する場合に使用します。

電子メール アドレス(E):  
administrator@fjunite.local

SMTP サーバー(M):  
exchange.fjunite.local

☐ ローカルホストを使用する(O)  
ポート(P):  
25

認証の設定  
☐ 必要なし(N)  
☐ Windows(W)  
☒ 資格情報を指定する(S):  
administrator@fjunite.local 設定(O)...


☐ 電子メールをピックアップ ディレクトリに保存する(S):  
参照(O)...

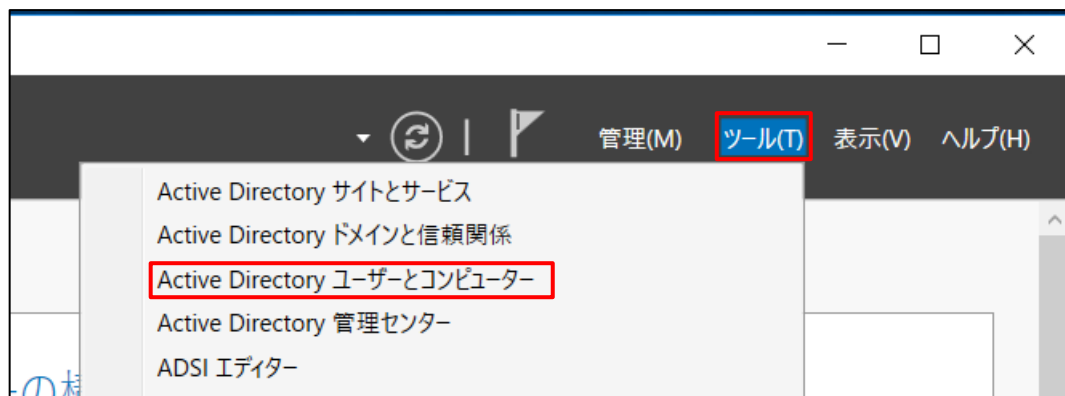
操作  
適用  
キャンセル  
ヘルプ

機能ビュー コンテンツビュー

構成: 'Default Web Site' web.config

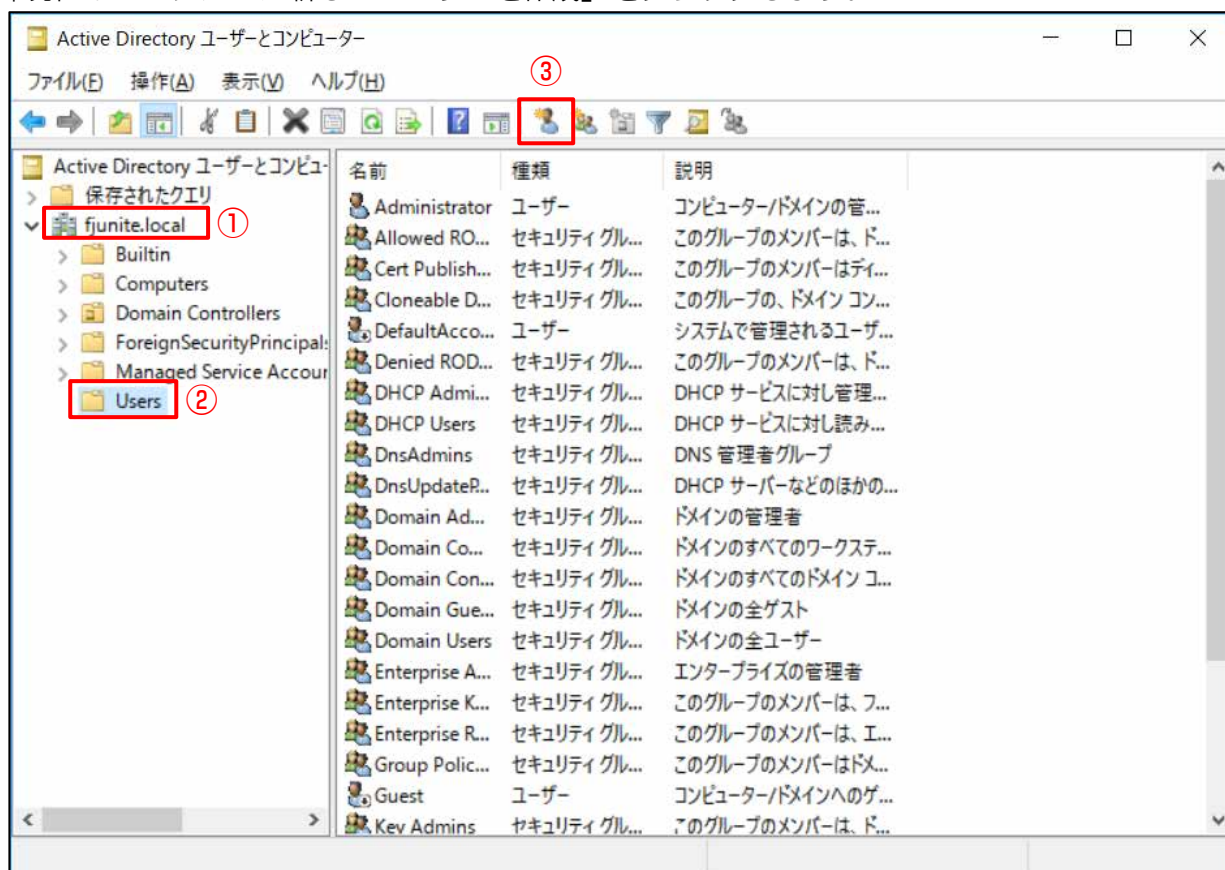
## ● Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成

- 1  (スタート) → 「サーバー マネージャー」 → 「ツール」 メニューから「Active Directory ユーザーとコンピューター」の順にクリックします。



## 2 次の操作を行います。

- ① 左枠のサーバーをクリック (例: fjunite.local) してツリーを展開します。
- ② 「Users」をクリックします。
- ③ 「現在のコンテナに新しいユーザーを作成」をクリックします。



### 3 「姓」、「名」、「ユーザー ログオン名」を設定し、「次へ」をクリックします。

例：姓「Unite」、名「Hub」、ユーザーログオン名「UniteHub」

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: fjunit.local/Users

姓(L): Unite

名(E): Hub イニシャル(I):

フルネーム(A): Unite Hub

ユーザー ログオン名(U): UniteHub @fjunit.local

ユーザー ログオン名 (Windows 2000 より前)(W): FJUNITE# UniteHub

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

### 4 パスワードの初期値など必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: fjunit.local/Users

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

☒ ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要(M)

☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☐ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

必要に応じて設定

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

### 5 「完了」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: fjunit.local/Users

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フルネーム: Unite Hub

ユーザー ログオン名: UniteHub@fjunit.local

< 戻る(B) 完了 キャンセル

## Unite ハブ、クライアント用の各構成の作成

### ● パッケージファイルのセットアップ

1 ブラウザを起動し、次の URL を入力し管理者ポータルにアクセスします。

https://<サーバー名>/intelunite/admin

(例：https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/admin)

デフォルトの管理者アカウント

- ユーザー名：admin
- パスワード：Admin@1

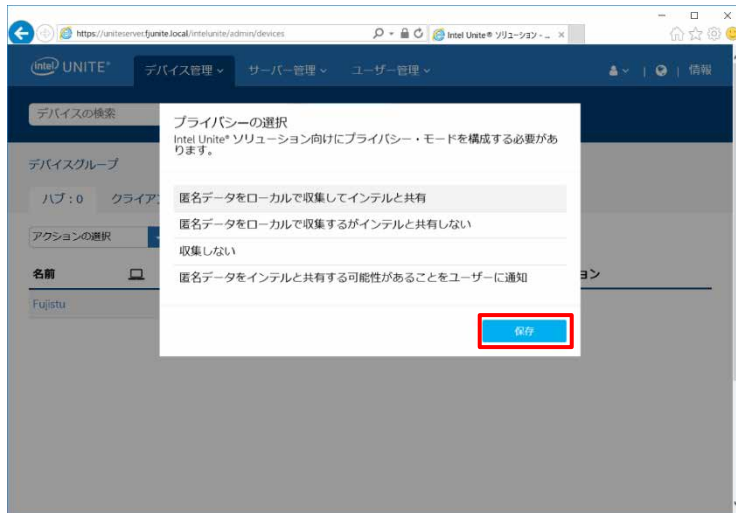
上記の管理者アカウントで管理者ポータルに初回ログインした後は、必ずパスワードを変更してください。

The screenshot shows the Intel Unite administrator portal login page. The browser address bar displays the URL `https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/admin`. The page has a blue header with the Intel UNITE logo. The main content area is titled "管理者ポータルにログイン" (Login to Administrator Portal). It contains two input fields: "ユーザー名:" (Username) with the value "admin" and "パスワード:" (Password) with masked characters. Below these fields is a blue "ログイン" (Login) button and a link "パスワードのリセット" (Reset Password). To the right, there is a "クイックアクション" (Quick Actions) section with links for "会議リンクの作成" (Create Meeting Link), "会議の作成" (Create Meeting), and "デバイスのプロビジョニング" (Device Provisioning).

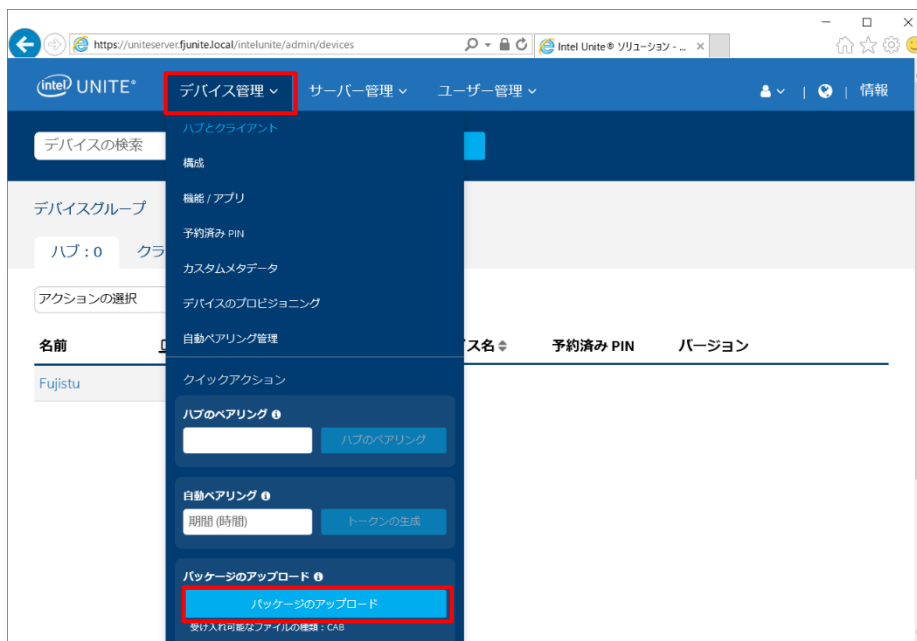
・ 新しいパスワードを設定

The screenshot shows the Intel Unite administrator portal password reset page. The browser address bar displays the URL `https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/admin/reset-password/00000000-000`. The page has a blue header with the Intel UNITE logo. The main content area is titled "ユーザーパスワードのリセット" (Reset User Password). It contains two input fields: "新しいパスワード:" (New Password) and "新しいパスワードの確認:" (Confirm New Password), both with masked characters. Below the first field is a link "パスワード規則" (Password Policy). Below the second field is a small icon. At the bottom is a blue "パスワードの送信" (Send Password) button.

## 2 適切な「プライバシーの選択」を選択し、「保存」をクリックします。

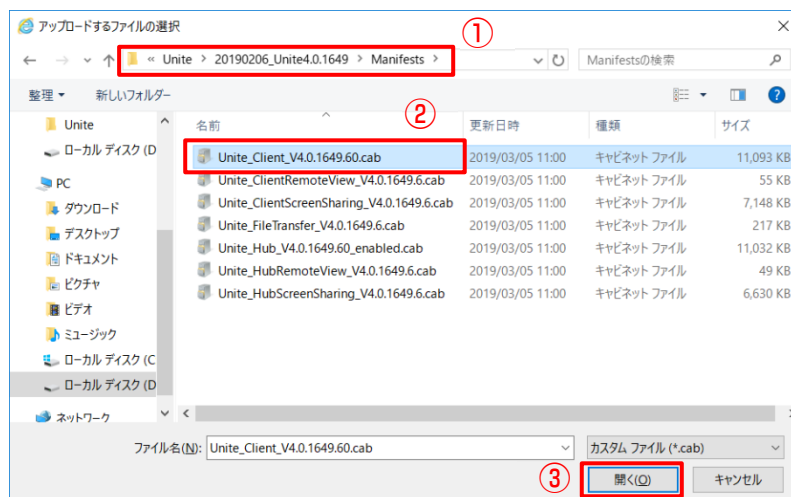


## 3 「デバイス管理」メニューから、「パッケージのアップロード」をクリックします。

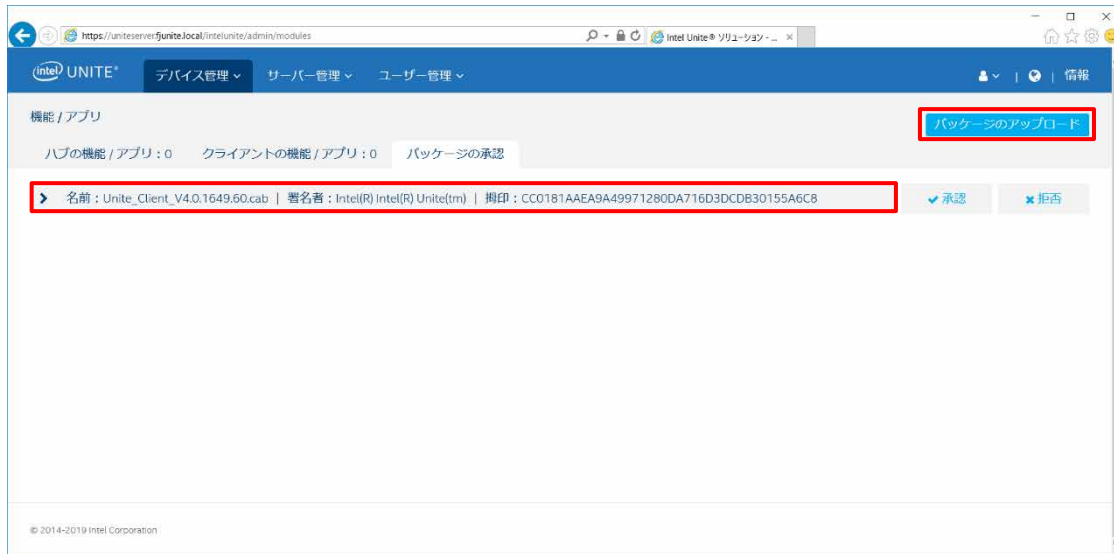


## 4 「アップロードするファイルの選択」画面が表示されたら、次の操作を行います。

- ① パッケージファイルの場所を指定します。
- ② 対象のファイルを選択（例：Unite\_Client\_V4.0.1649.60.cab）します。
- ③ 「開く」をクリックします。



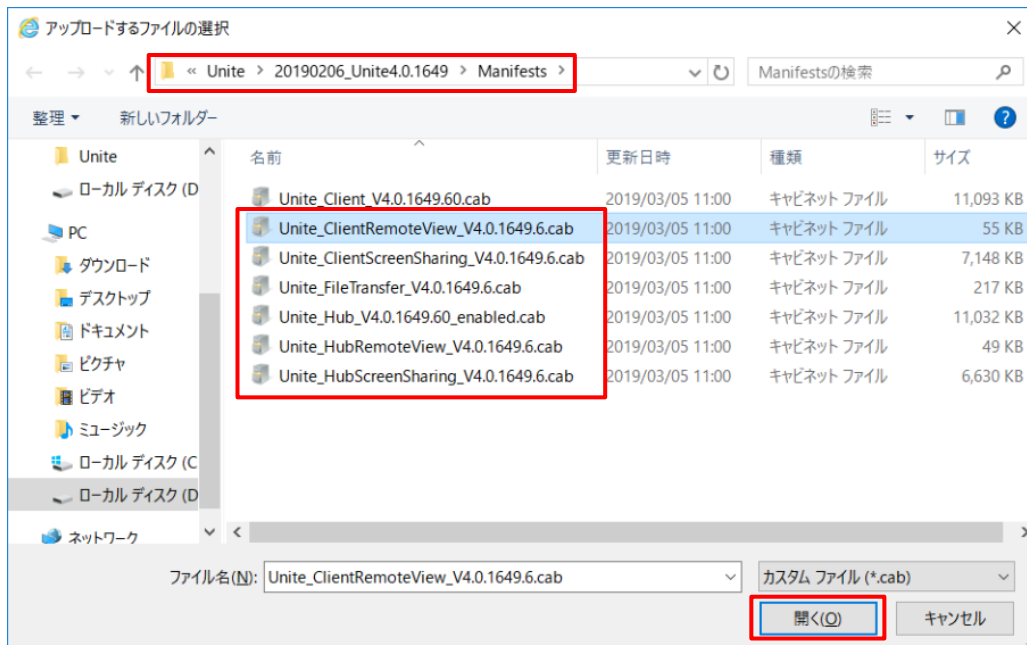
5 パッケージファイルがアップロードされたことを確認します。その他の必要なファイルをアップロードする場合は「パッケージのアップロード」をクリックします。



6 「アップロードするファイルの選択」画面が表示されたら、必要なファイルを1つずつアップロードします。

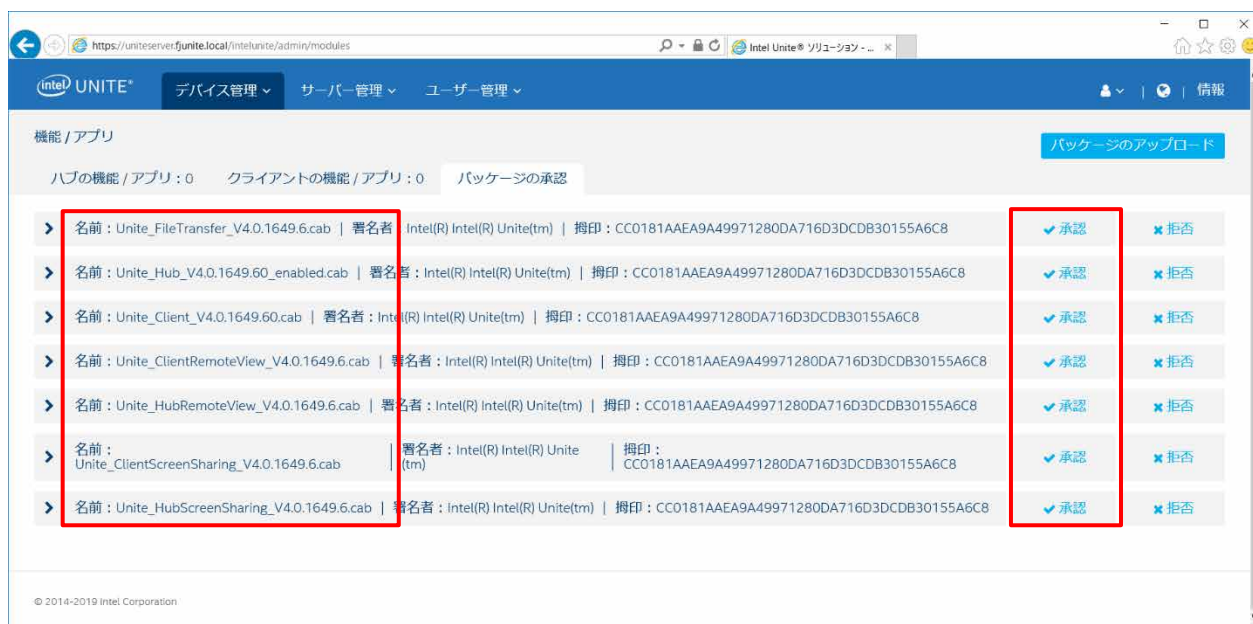
アップロードパッケージの例

- ・ Unite\_ClientRemoteView\_V4.0.1649.6.cab
- ・ Unite\_ClientScreenSharing\_V4.0.1649.6.cab
- ・ Unite\_Hub\_V4.0.1649.6.cab
- ・ Unite\_HubRemoteView\_V4.0.1649.6.cab
- ・ Unite\_HubScreenSharing\_V4.0.1649.6.cab
- ・ Unite\_FileTransfer\_V4.0.1649.6.cab





- 7 すべてのパッケージがアップロードされたことを確認し、各パッケージ右側の「承認」をクリックします。

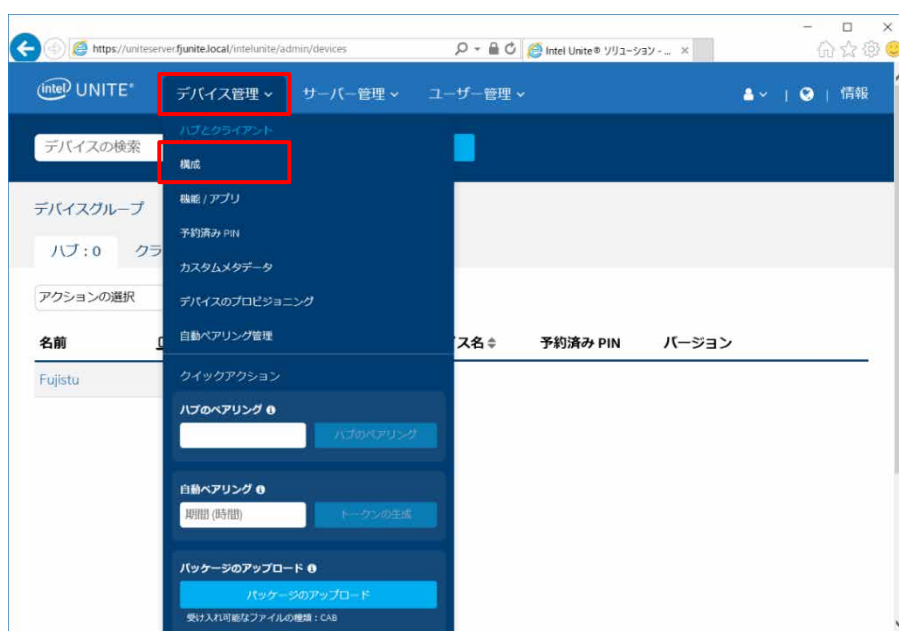


- 8 承認後、「ハブの機能／アプリ：4」、「クライアントの機能／アプリ：3」となっていることを確認します。

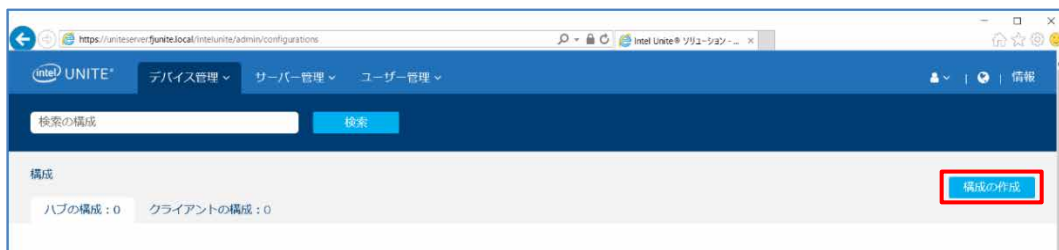


## ● ハブ、クライアント構成の作成・割り当て

- 1 ハブの構成を作成します。「デバイス管理」メニューから、「構成」をクリックします。

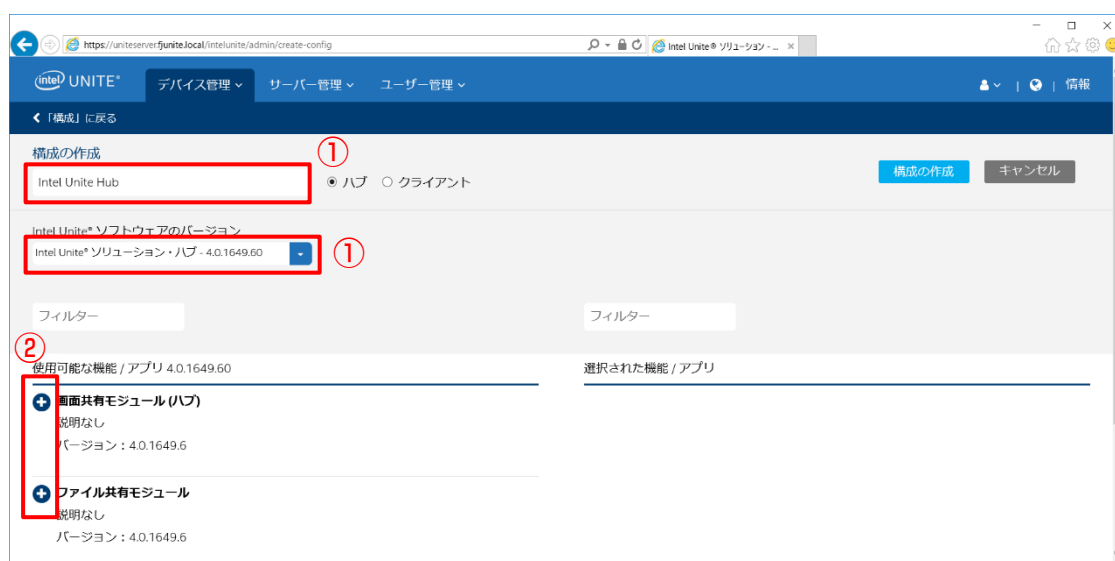


## 2 「構成の作成」をクリックします。

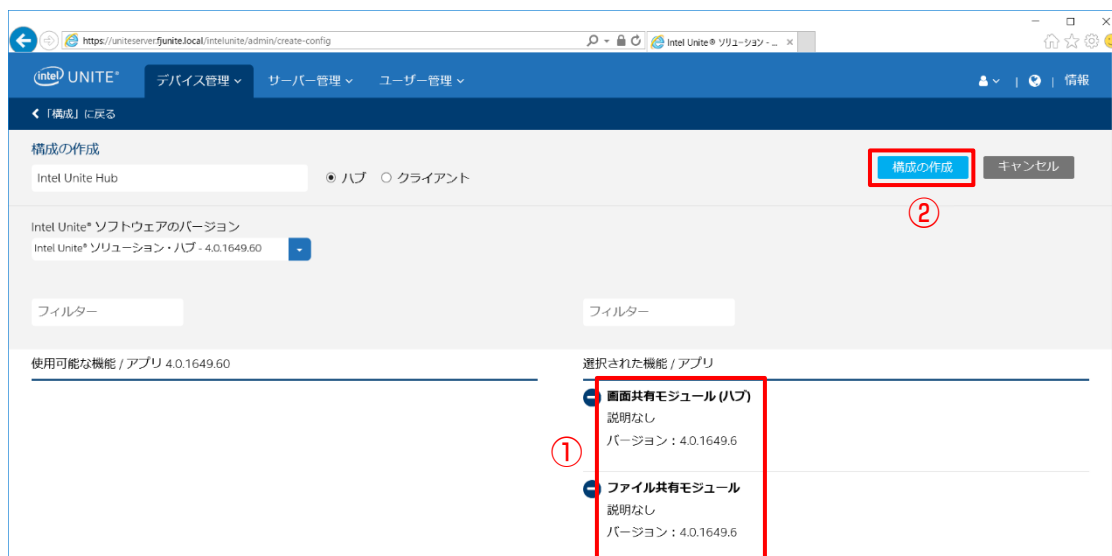


## 3 次の操作を行います。

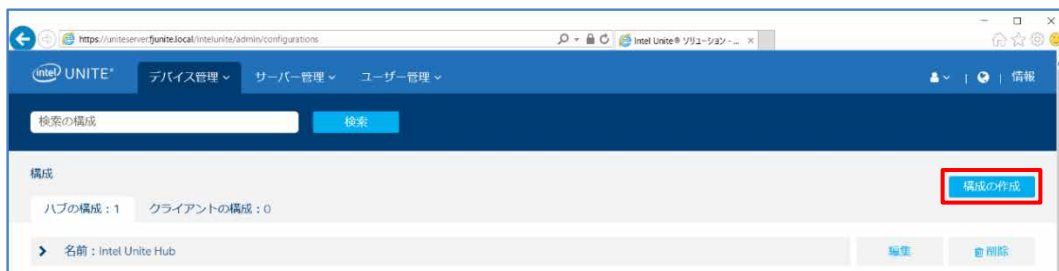
- ① 次の設定を行います。
  - ・ 構成の名前 (例: Intel Unite Hub)
  - ・ Intel Unite ソフトウェアのバージョン (例: Intel Unite ソリューション・ハブ -4.0.1649.60)
- ② 「使用可能な機能／アプリ」にある **+** アイコンをすべてクリックします。



## 4 ①「選択された機能／アプリ」に機能が追加されたことを確認し、②「構成の作成」をクリックします。

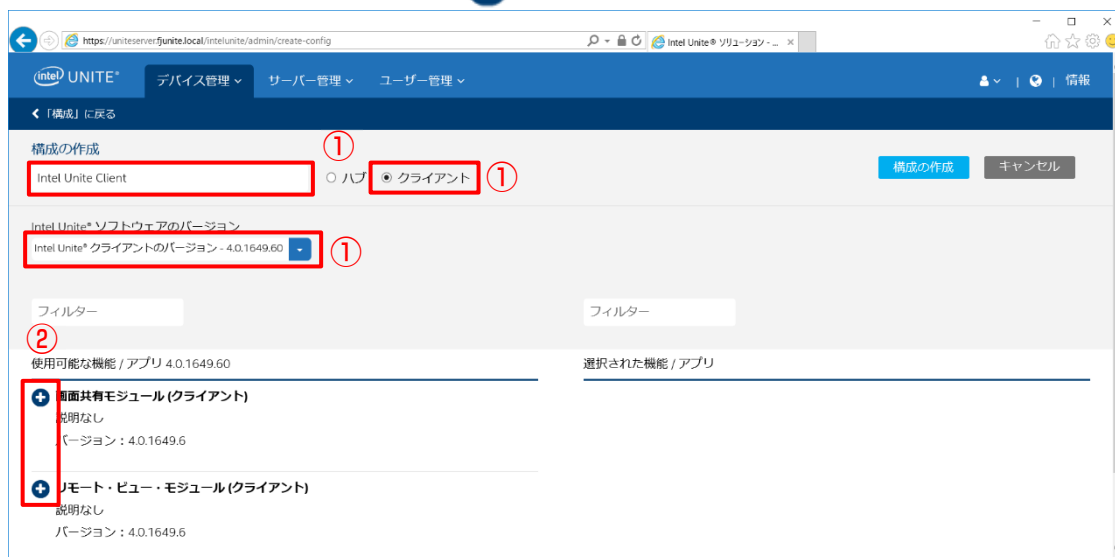


## 5 クライアントの構成を作成します。「構成の作成」をクリックします。

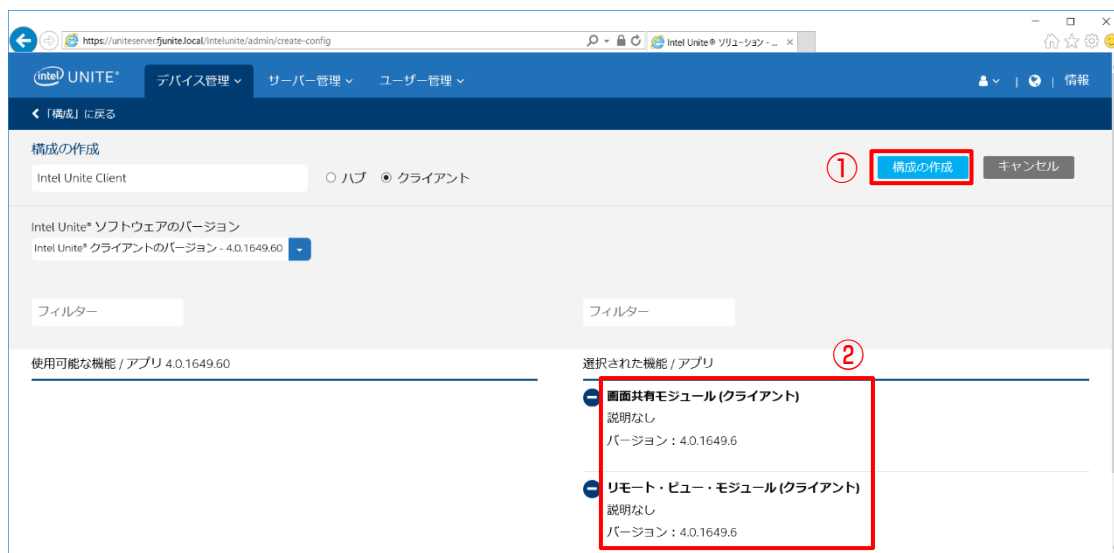


## 6 次の操作を行います。

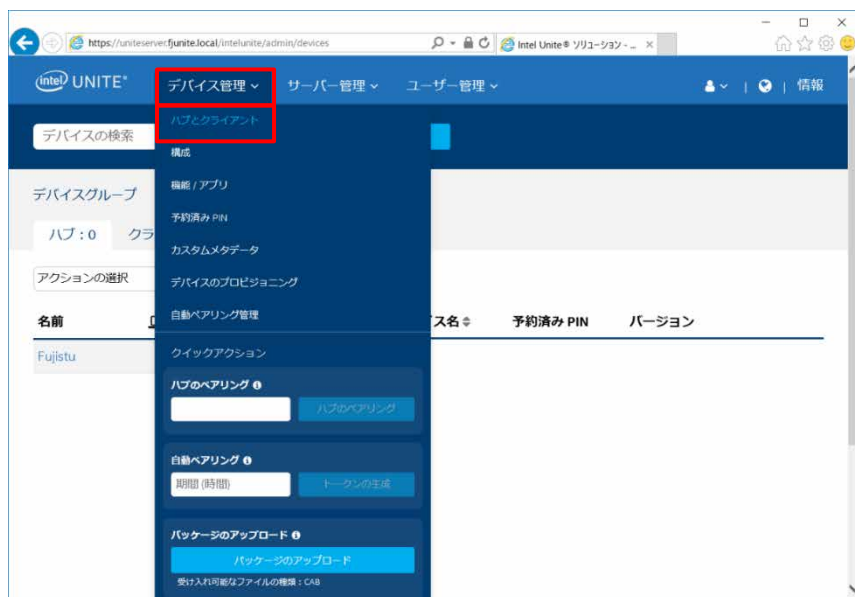
- ① 次の設定を行います。
  - ・ 構成の名前 (例: Intel Unite Client)
  - ・ クライアント
  - ・ Intel Unite ソフトウェアのバージョン (例: Intel Unite クライアントのバージョン -4.0.1649.60)
- ② 「使用可能な機能／アプリ」にある **+** アイコンをすべてクリックします。



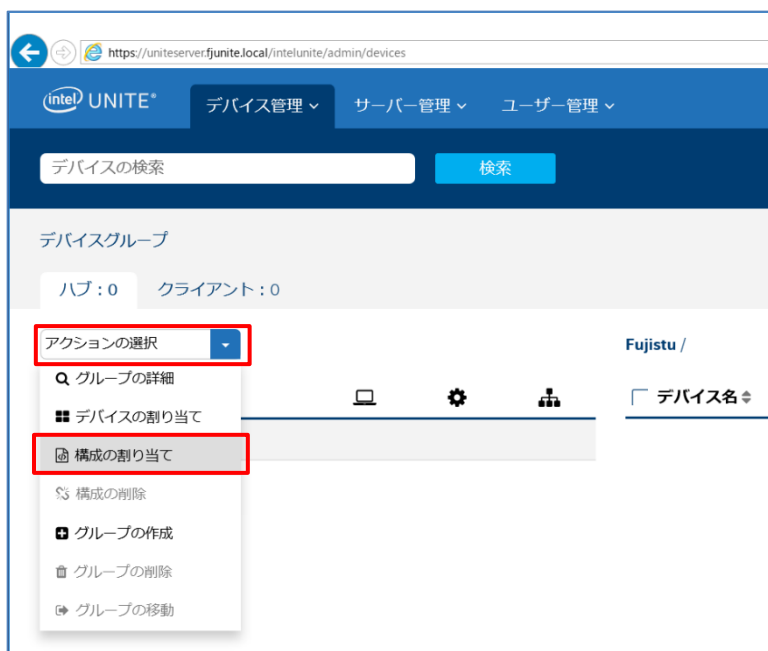
## 7 ①「選択された機能／アプリ」に機能が追加されたことを確認し、②「構成の作成」をクリックします。



- 8 ハブの構成を割り当てます。「デバイス管理」メニューから、「ハブとクライアント」をクリックします。



- 9 「アクションの選択」メニューから、「構成の割り当て」をクリックします。



- 10 ハブの構成を選択（例：Intel Unite Hub）し、「割り当て」をクリックします。

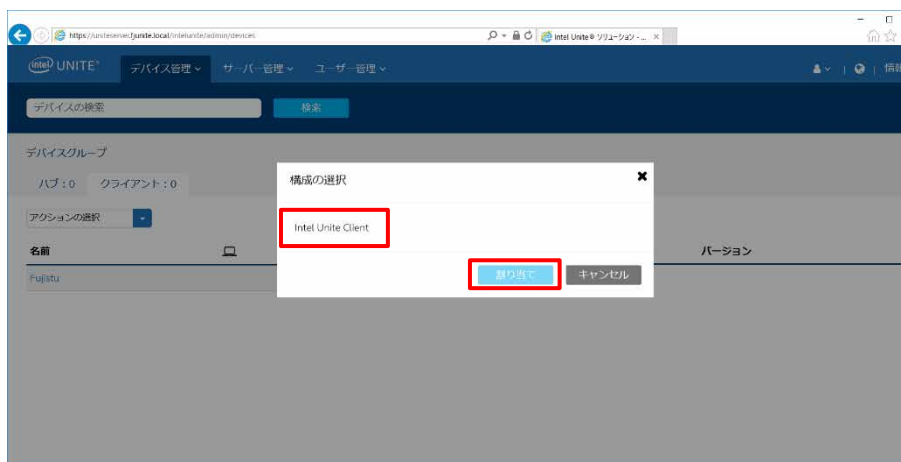


## 11 クライアントの構成を割り当てます。

- ① 「クライアント」タブを選択します。
- ② 「アクションの選択」メニューから、「構成の割り当て」をクリックします。



## 12 クライアントの構成を選択（例：Intel Unite Client）し、「割り当て」をクリックします




## Unite ハブのインストール

### ● ハブ PC のセットアップ

1 取扱説明書の手順に従い、ハブ PC の Windows セットアップを行います。

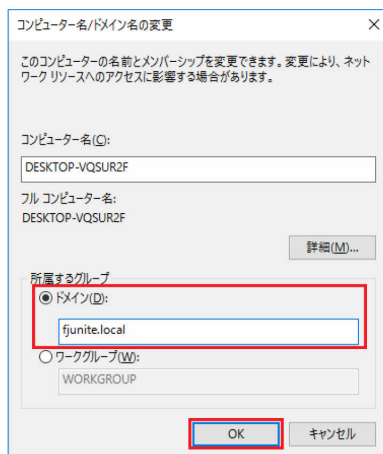
2 使用中に省電力モード状態にならないよう次の設定をします。

- ①  (スタート) → 「コントロールパネル」 → 「ハードウェアとサウンド」 → 「電源オプション」の順にクリックします。
- ② 「バランス」の「プラン設定の変更」をクリックし、次のように設定します。
  - ・ ディスプレイの電源を切る：適用しない
  - ・ コンピューターをスリープ状態にする：適用しない
- ③ 「変更の保存」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

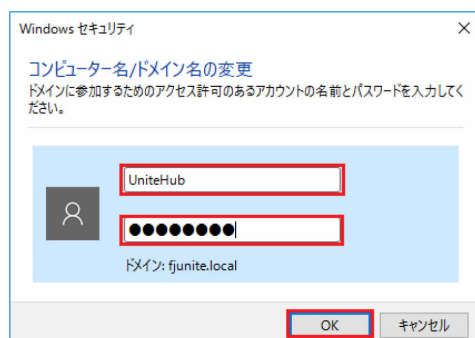
3 ハブ PC を、先にセットアップしたサーバー管理下のネットワークに接続します。

4 ハブ PC を「ドメインのセットアップ (→P.13)」で作成したドメインに参加させます。

- ① 「スタートボタン」を右クリックし、「コントロール パネル」をクリックします。
- ② 「システムとセキュリティ」から「システム」をクリックします。
- ③ 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「設定の変更」をクリックし、「システムのプロパティ」を開きます。
- ④ 「変更」をクリックします。
- ⑤ 所属するグループの「ドメイン」をクリックし、作成したドメイン名を入力 (例 fjunite.local) し、「OK」をクリックします。



- ⑥ ドメインに参加するためのアクセス許可のあるアカウントの名前とパスワードの入力を要求されたら、「Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成 (→P.70)」で作成したアカウント情報を入力 (例：ユーザー名「UniteHub」) し、「OK」をクリックします。



- ⑦ ドメインへの参加が表示されたら「OK」をクリックします。
- ⑧ システムの再起動の要求が表示されたら「OK」をクリックし、システムを再起動します。
- ⑨ サインイン画面で、画面左下の「他のユーザー」をクリックし、「Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成（→P.70）」で作成したアカウント（例：ユーザー名「UniteHub」）でサインインします。

## ● 証明書のインストール

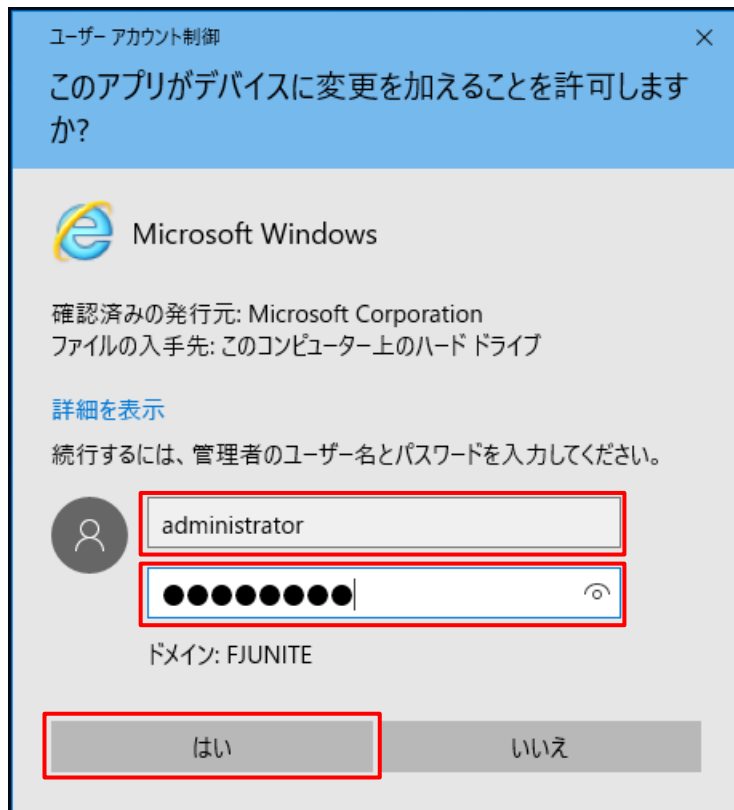
作業中に「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合は、エンタープライズ・サーバーの管理者アカウント情報を入力してください。

### 1 Internet Explore を管理者権限で起動し、下記 URL にアクセスします。

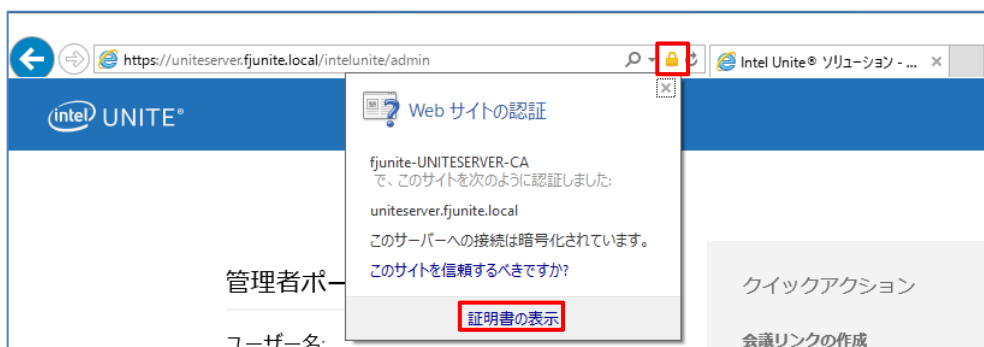
https://<サーバー名>/intelunite/admin

（例：https://uniteserver.fjunite.local/intelunite/admin ）

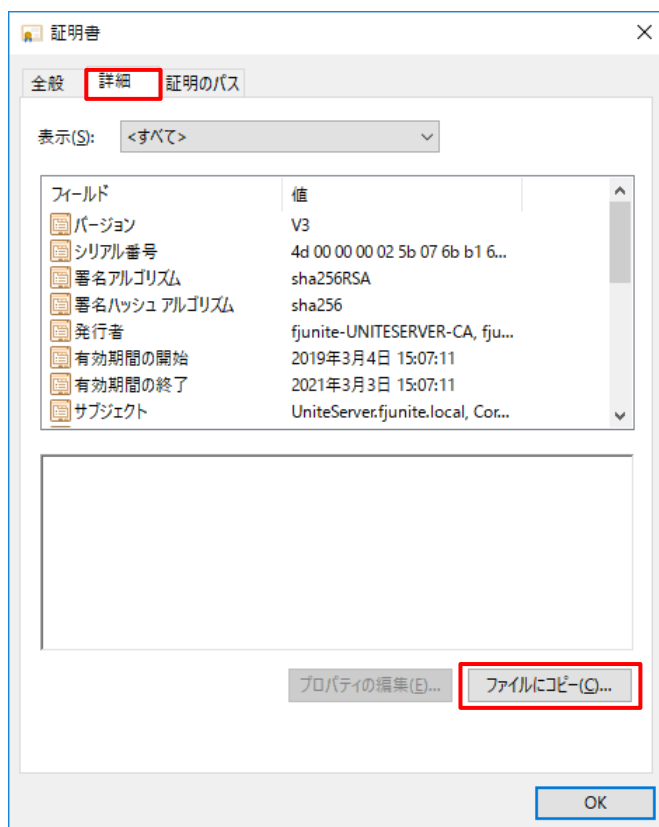
- ユーザー名とパスワードが要求されたら、「エンタープライズ・サーバーのインストール（→ P.3）」でセットアップしたエンタープライズ・サーバーの管理者アカウントとパスワードを入力して「はい」をクリックします。



### 2 アドレスバーのロックアイコンをクリックし、「証明書の表示」をクリックします。



### 3 「詳細」タブをクリックし、「ファイルへコピー」をクリックします。



### 4 「次へ」をクリックします。





## 5 「DER encoded binary X.509(.CER)」を選択し、「次へ」をクリックします。

証明書のエクスポート ウィザード

エクスポート ファイルの形式  
さまざまなファイル形式で証明書をエクスポートできます。

使用する形式を選択してください:

- ☒ DER encoded binary X.509 (.CER)(D)
- ☐ Base 64 encoded X.509 (.CER)(S)
- ☐ Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書 (.P7B)(C)
  - ☐ 証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む(I)
- ☐ Personal Information Exchange - PKCS #12 (.PFX)(P)
  - ☐ 証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む(U)
  - ☐ 正しくエクスポートされたときは秘密キーを削除する(K)
  - ☐ すべての拡張プロパティをエクスポートする(A)
  - ☐ 証明書のプライバシーを有効にする(E)
- ☐ Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)(I)

次へ(N) キャンセル

## 6 「参照」をクリックします。

証明書のエクスポート ウィザード

エクスポートするファイル  
エクスポートするファイルの名前を入力してください

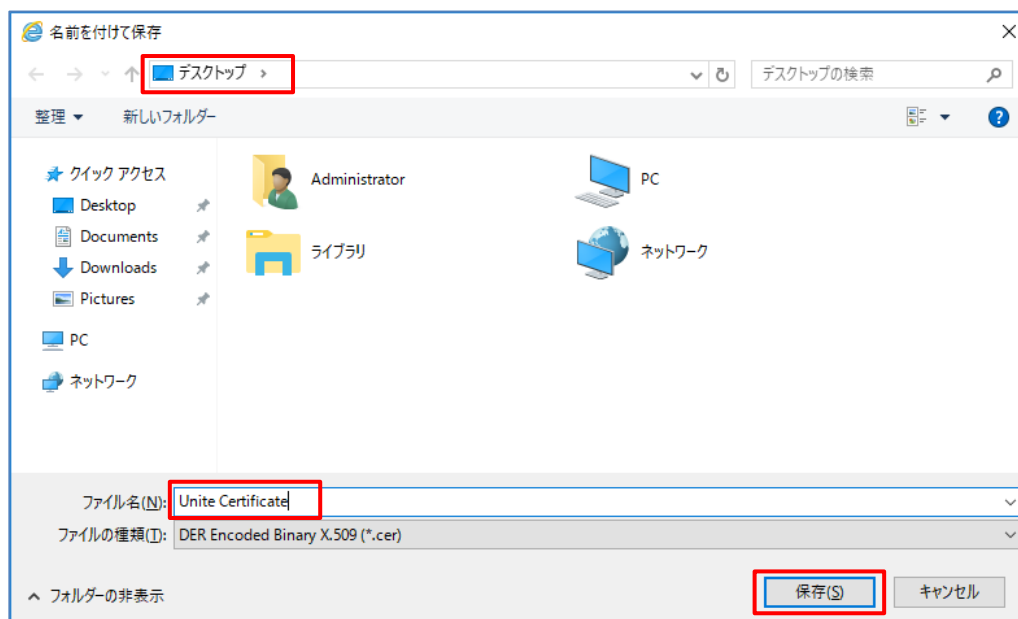
ファイル名(E):

参照(R)...

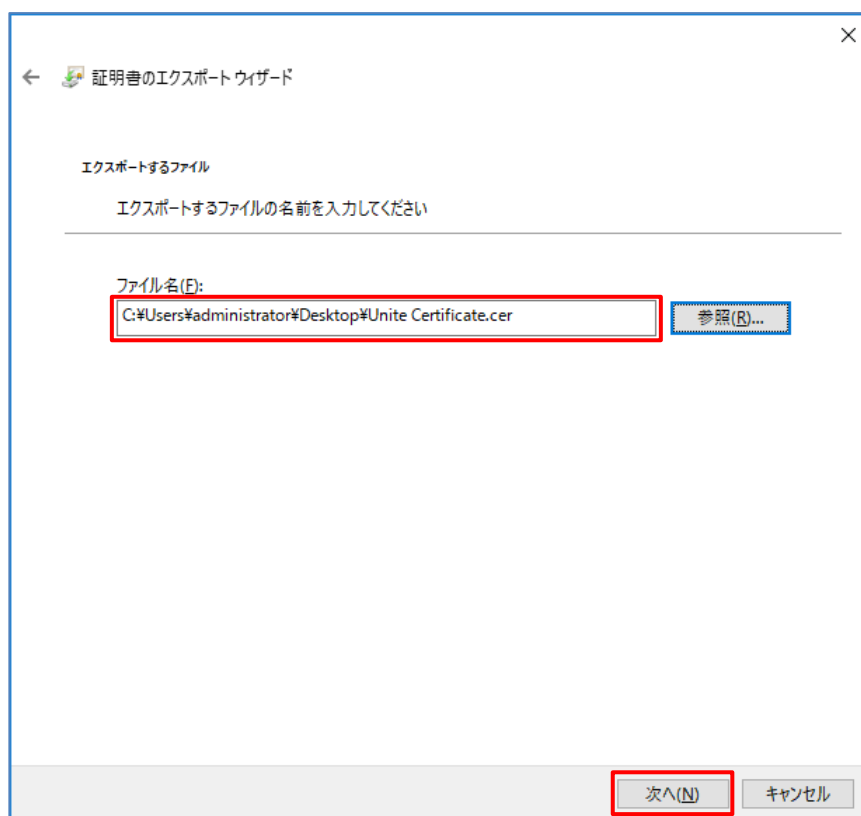
次へ(N) キャンセル

7 分かりやすい名前を使用し、保存場所を選択し「保存」をクリックします。

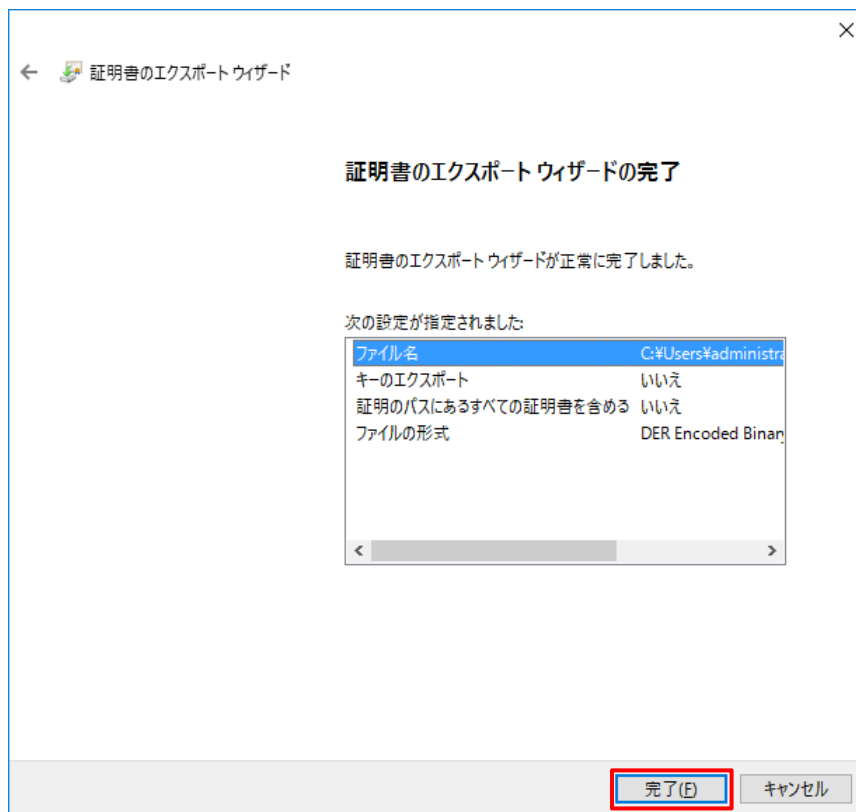
例：Unite Certificate.cer



8 「ファイル名」に保存場所とファイル名が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



## 9 「完了」をクリックします。

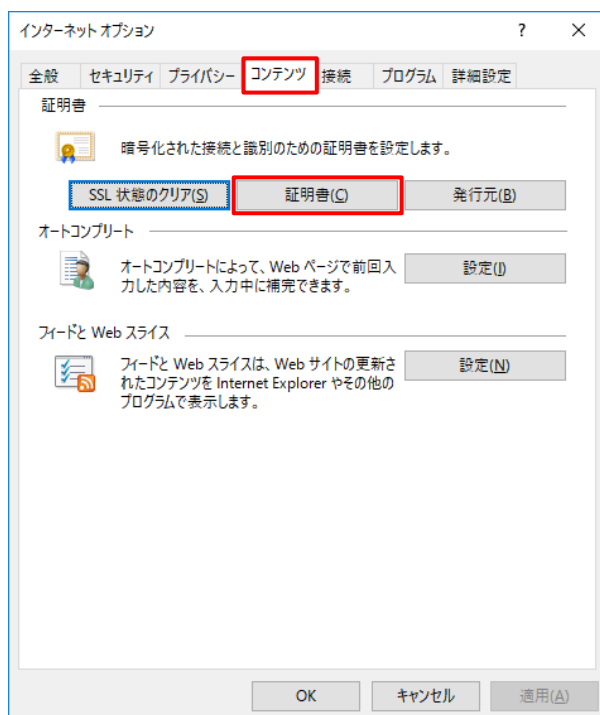


10 正しくエクスポートされたメッセージが表示されたことを確認し、ウィンドウを閉じます。

11 Internet Explore を終了します。

12 Internet Explore を一般権限で起動し、インターネット・オプションを開きます。

13 「コンテンツ」タブをクリックし、「証明書」をクリックします。



## 14 「インポート」をクリックします。

証明書

目的(N): <すべて>

個人   ほかの人   中間証明機関   信頼されたルート証明機関   信頼された発行元   信頼されない発行元

発行先	発行者	有効期限	フレンドリ名
-----	-----	------	--------

インポート(I)...   エクスポート(E)...   削除(R)   詳細設定(A)

証明書の目的

表示(V)

閉じる(C)

## 15 「次へ」をクリックします。

← 証明書のインポートウィザード

**証明書のインポートウィザードの開始**

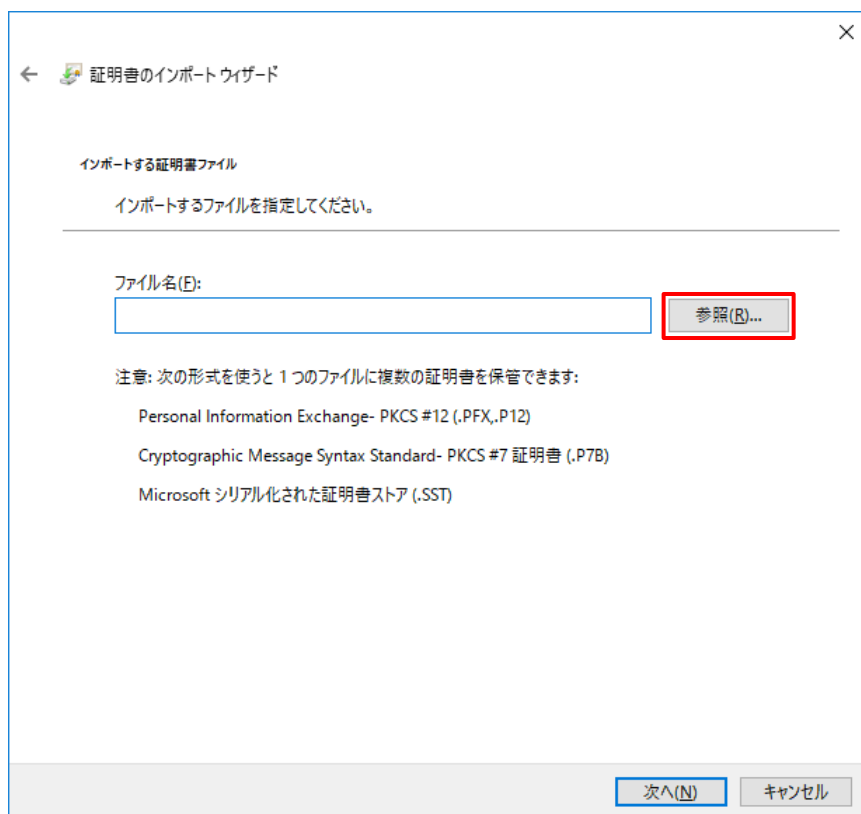
このウィザードでは、証明書、証明書信頼リスト、および証明書失効リストをディスクから証明書ストアにコピーします。

証明機関によって発行された証明書は、ユーザー ID を確認し、データを保護したり、またはセキュリティで保護されたネットワーク接続を提供するための情報を含んでいます。証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

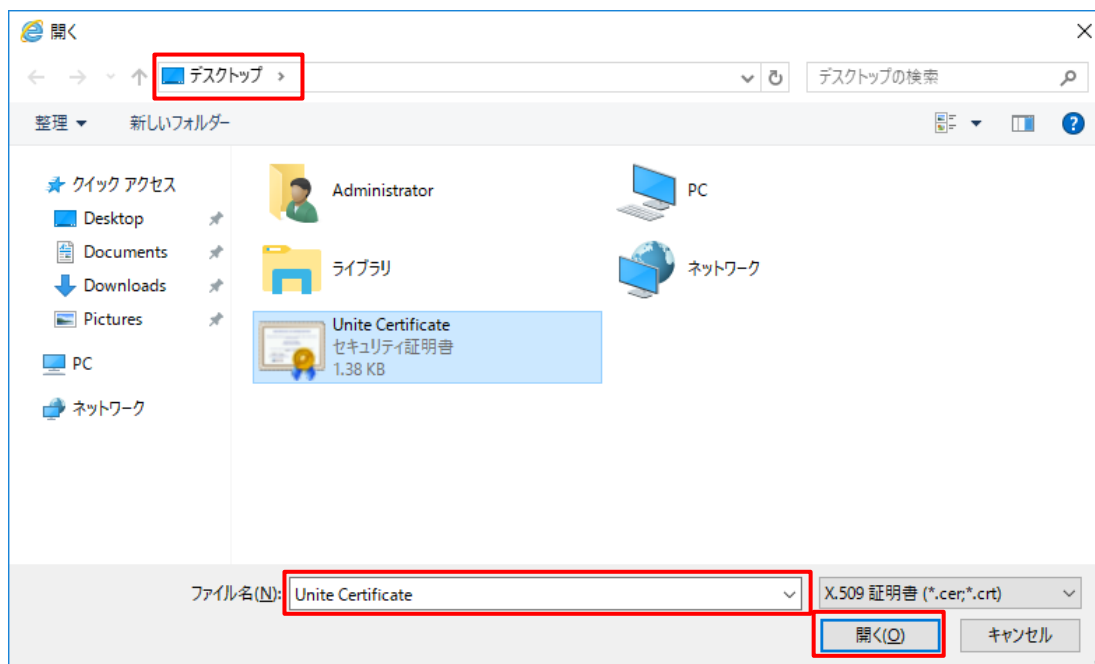
続行するには、[次へ] をクリックしてください。

次へ(N)   キャンセル

## 16 「参照」をクリックします。



## 17 以前に保存した証明書ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



**18**「ファイル名」に開く場所とファイル名が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

← 証明書のインポートウィザード

インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):

C:\Users\administrator\Desktop\Unite Certificate.cer

参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N) キャンセル

**19**「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択し、「参照」をクリックします。

← 証明書のインポートウィザード

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

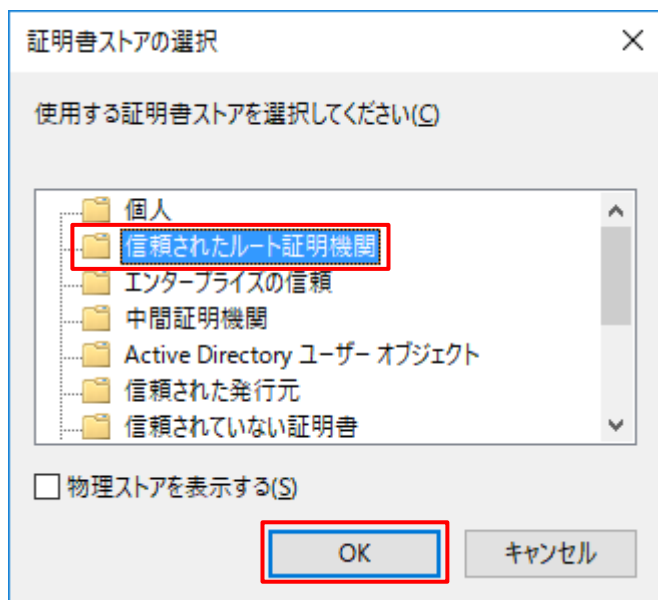
☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

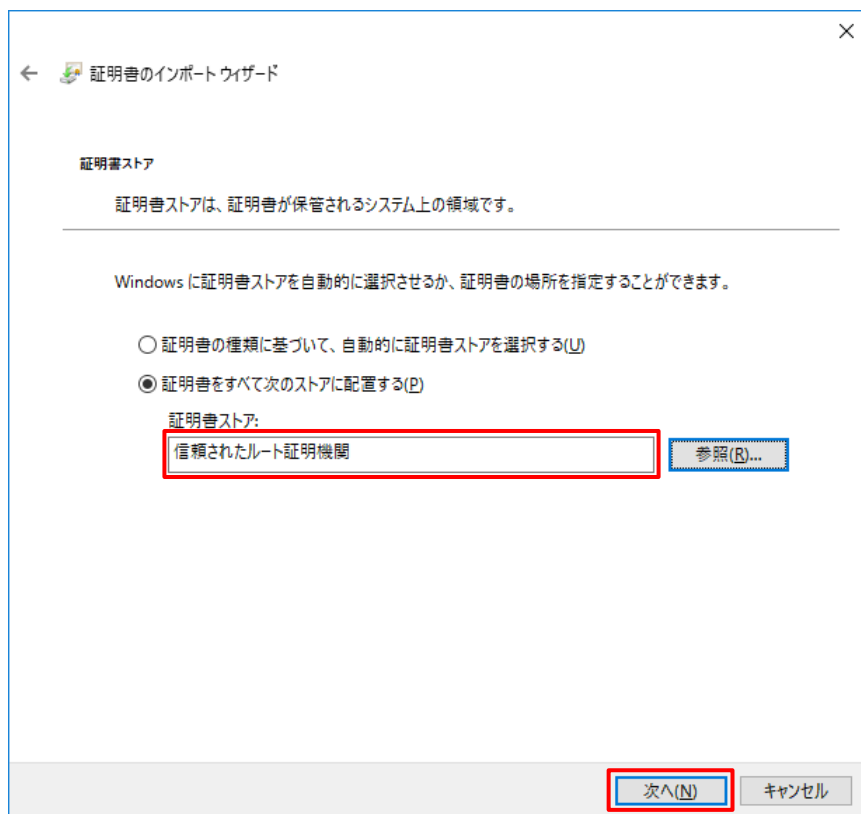
参照(R)...

次へ(N) キャンセル

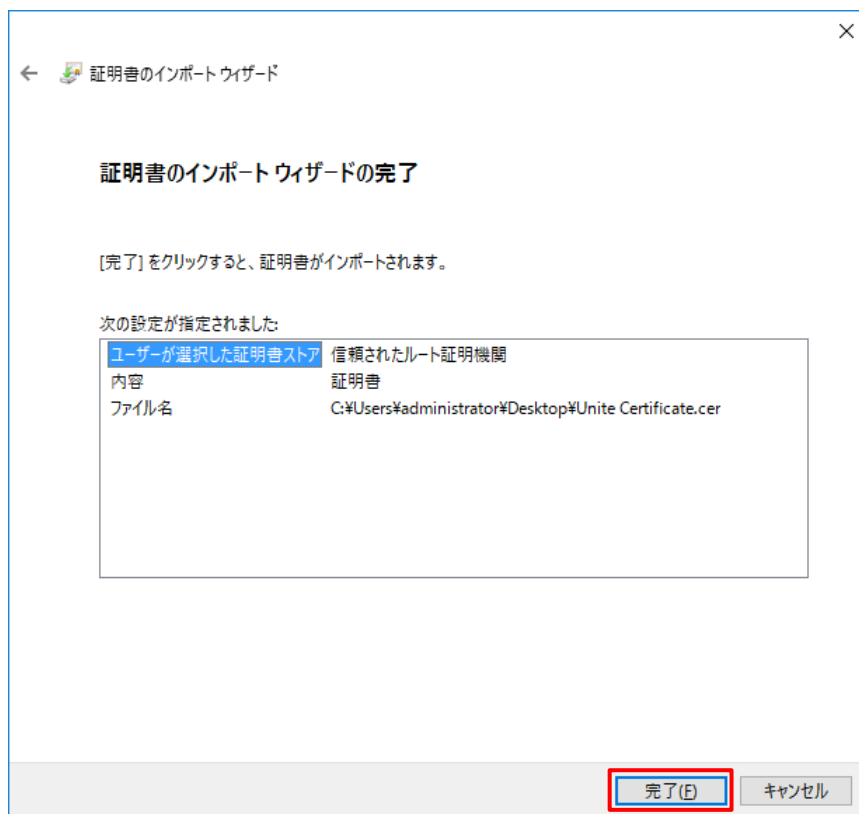
20 「信頼されたルート証明書機関」をクリックし、「OK」をクリックします。



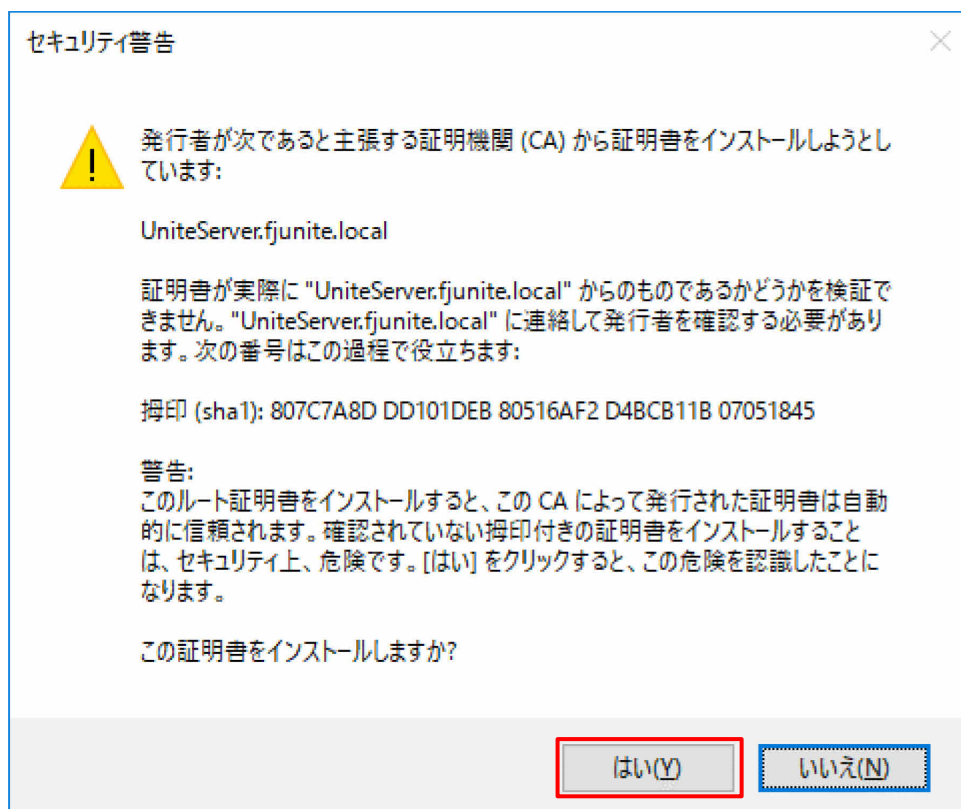
21 「証明書ストア」に「信頼されたルート証明機関」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



## 22 「完了」をクリックします。



## 23 セキュリティ警告で「はい」をクリックします。



## 24 正しくインポートされたメッセージが表示されたことを確認し、ウィンドウを閉じます。

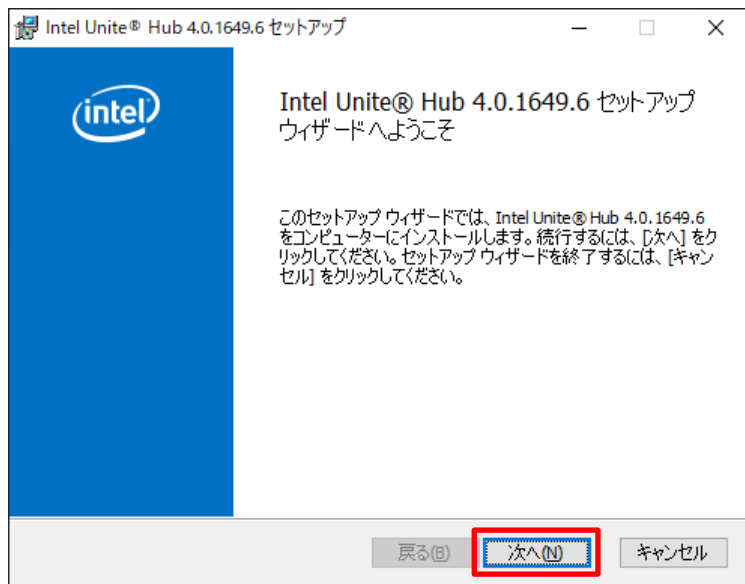


## ● Intel Unite ハブ アプリケーションのインストール

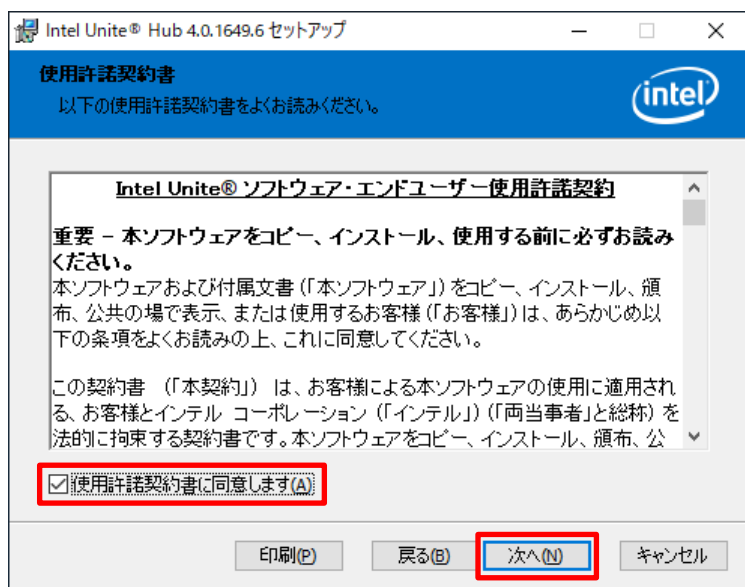
作業中に「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合は、エンタープライズ・サーバーの管理者アカウント情報を入力してください。

1 インストーラー（例：Intel\_Unite\_Hub\_v4.0.1649.6\_x86.mui.msi）を実行します。

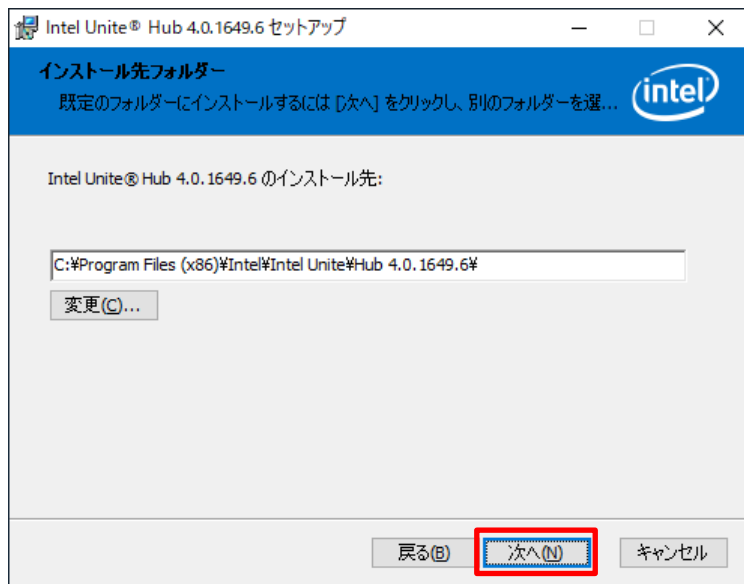
2 「次へ」をクリックします。



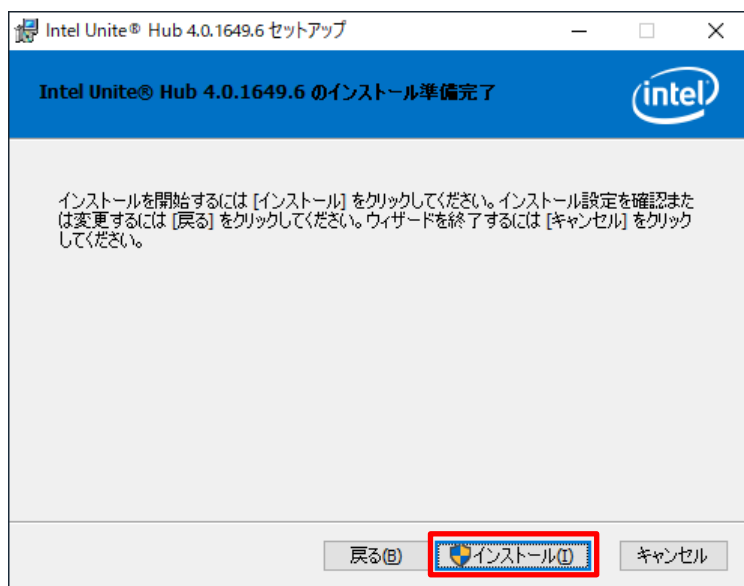
3 使用許諾契約書の内容を確認し、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。



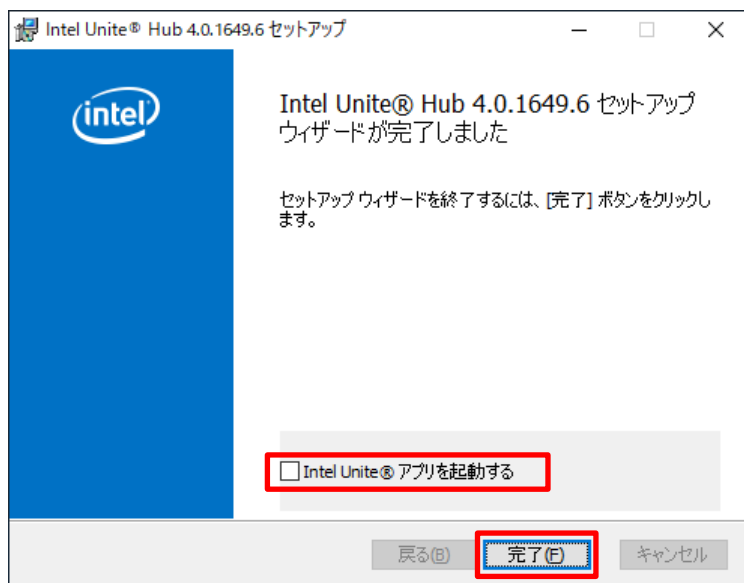
#### 4 「次へ」をクリックします。



#### 5 「インストール」をクリックし、インストールを開始します。



#### 6 「Intel Unite アプリケーションを起動する」のチェックを外し、「完了」をクリックし、インストールを終了します。

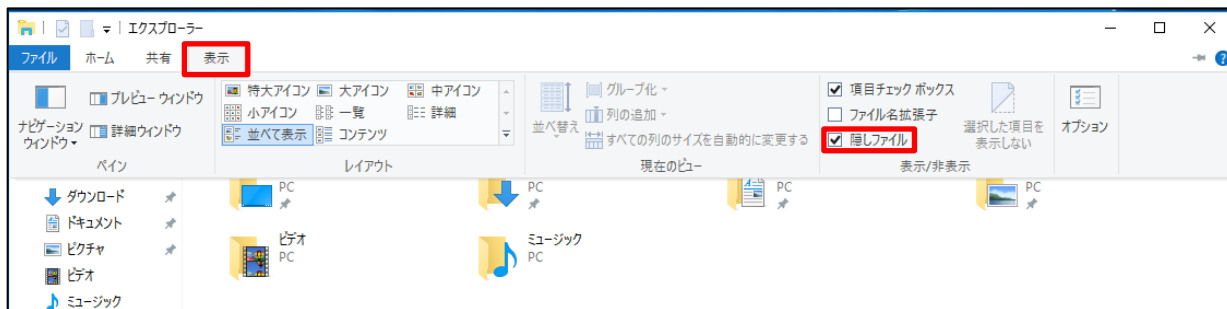


## ● ファイアウォールの設定

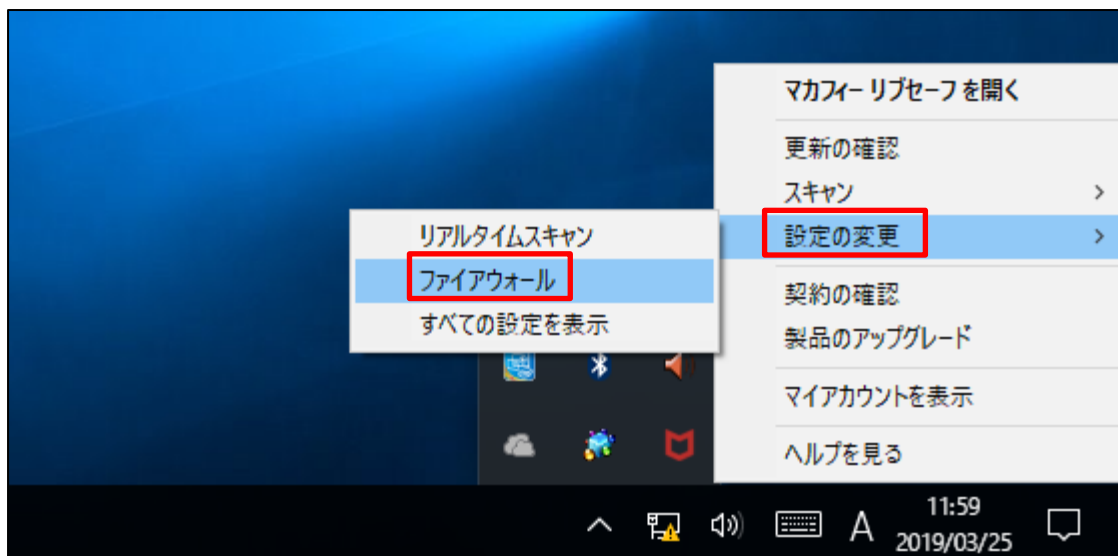
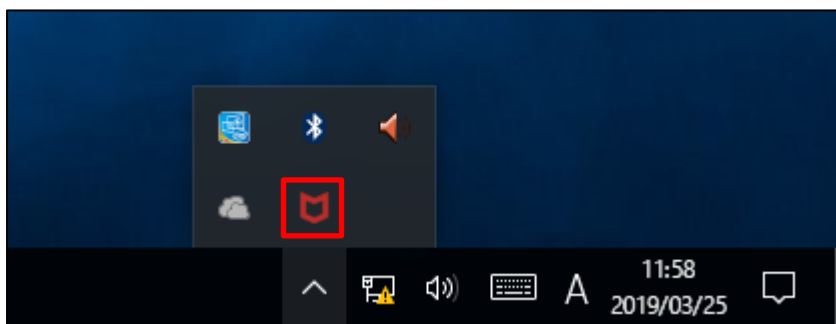
エンタープライズ・サーバーと通信するには、ファイアウォールで Intel Unite アプリケーションを除外する必要があります。

ハブ PC に標準添付されている「マカフィー リブセーフ インターネットセキュリティ」(例：バージョン 16.0 R14) での除外手順は次の通りです。

- 1 管理者権限のあるアカウントでサインインします。
- 2 エクスプローラーを起動し、「表示」メニューの「隠しファイル」にチェックを付けます。



- 3 タスクバーの通知領域に表示されている McAfee のアイコンを右クリックし、「設定の変更」→「ファイアウォール」の順にクリックします。



#### 4 「プログラムのインターネット接続」→「追加」の順にクリックします。

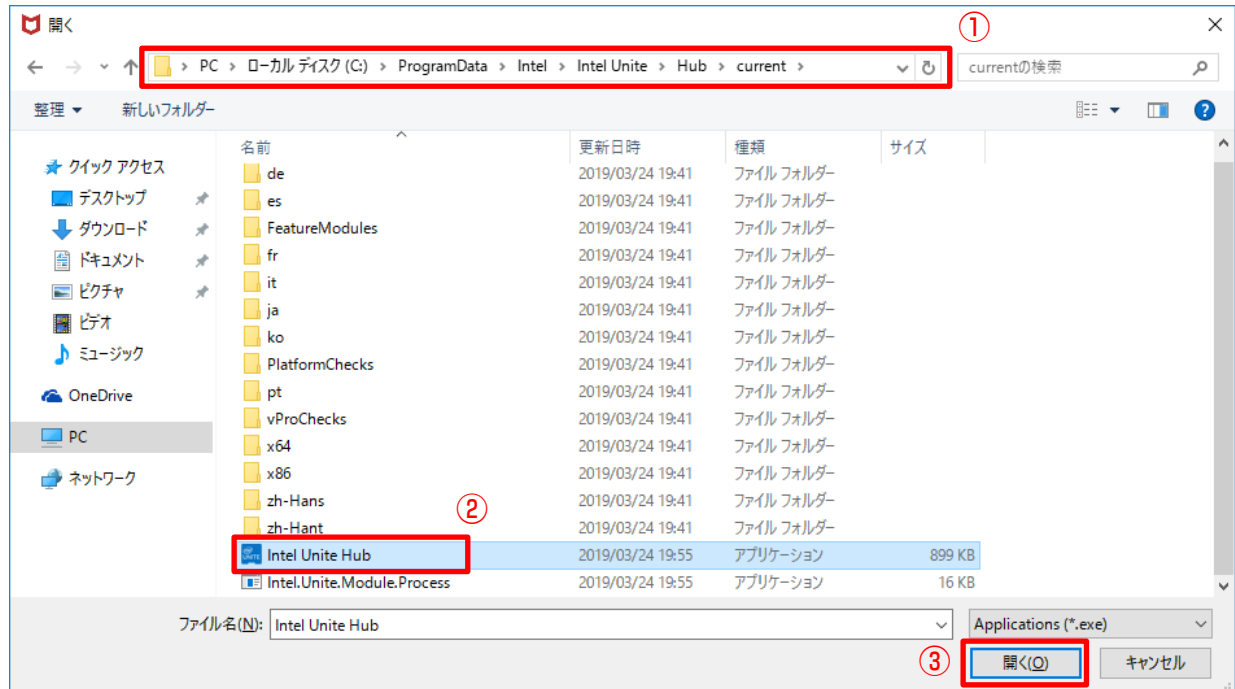


## 5 「参照」をクリックします。



## 6 「開く」画面が表示されたら、次の操作を行います。

- ① ファイルの場所を「C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Hub\current」を指定します。
- ② 「Intel Unite Hub.exe」を選択します。
- ③ 「開く」をクリックします。



- 7 アクセスの「受信と送信」で「すべてのデバイスに開く」を選択し、「保存」をクリックします。同様に、「Intel.Unite.Module.Process.exe」についても追加と、受信と送信の設定変更を行ってください。



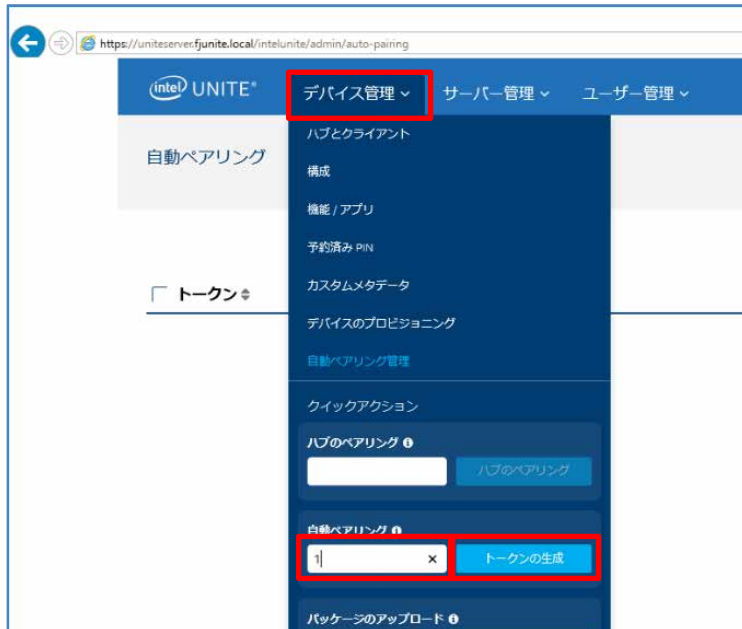
- 8 隠しファイルを表示する必要がなければ、エクスプローラーを起動し、「表示」メニューから「隠しファイル」のチェックを外します。
- 9 Windows をサインアウトし、元のアカунツでサインインし直します。

## ● Intel Unite アプリケーション（ハブ）の自動ペアリング

1 管理者ポータルにログインします。

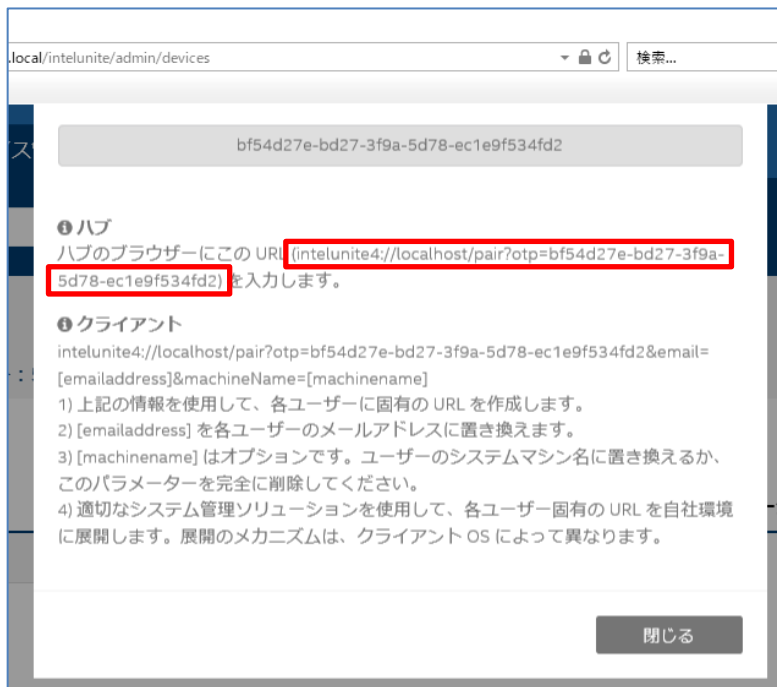
2 「デバイス管理」メニューの「自動ペアリング」にトークンが有効な時間数を入力し、「トークンの作成」ボタンをクリックします。

例：1 時間



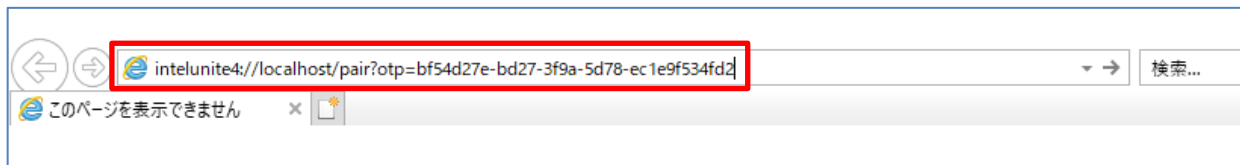
3 作成されたワンタイム・ペアリング・トークンを確認します。

例：intelunite4://localhost/pair?otp=bf54d27e-bd27-3f9a-5d78-ec1e9f534fd2

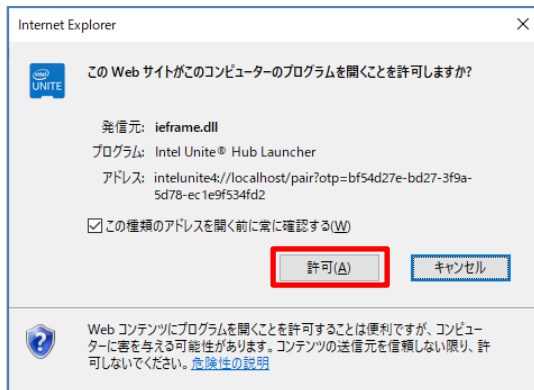


#### 4 ウェブブラウザを管理者権限で開いて、intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>を参照します。

例：intelunite4://localhost/pair?otp=bf54d27e-bd27-3f9a-5d78-ec1e9f534fd2

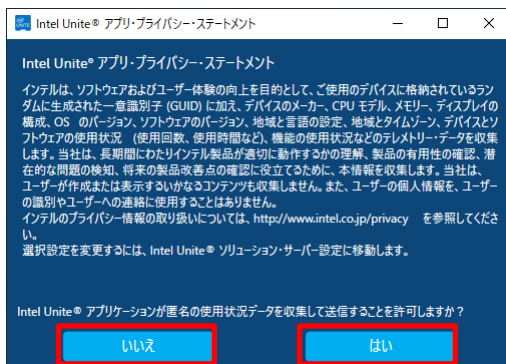


#### 5 「許可」をクリックします。

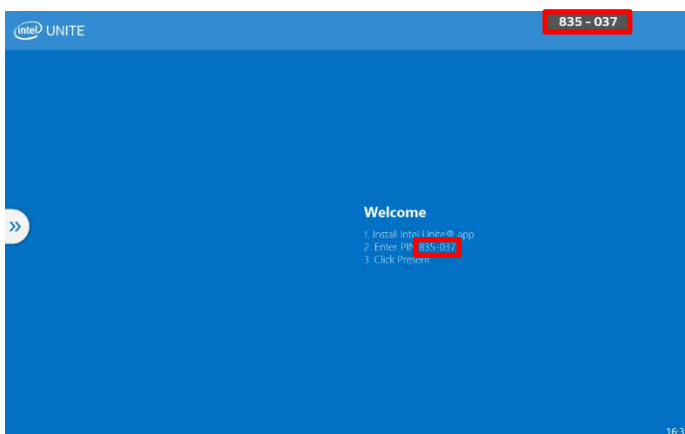


Intel Unite アプリケーション（ハブ）が起動し、「Intel Unite アプリケーション・プライバシー・ステートメント」画面が表示されます。

#### 6 内容を確認し、「はい」または「いいえ」をクリックします。



Intel Unite アプリケーション（ハブ）が起動し、エンタープライズ・サーバーと接続が確立されると、画面上に PIN（xxx-xxx の形式の 6 ケタの数字）が表示されます。



次回以降は、デスクトップの「Intel Unite」アイコンより起動できます。



## Unite クライアントのインストール

クライアント PC をサーバー／ハブ PC が接続されているネットワークに接続します。  
クライアントはエンタープライズ・サーバーを探してチェックインできる必要があります、エンタープライズ・サーバーと通信するには、ファイアウォールで Intel Unite アプリケーションを除外する必要があります。除外すべき Unite アプリケーションはデフォルトでは下記になります。

- 32 ビット OS :

C:\Program Files\Intel\Intel Unite\ Client 4.0.1649.6\Intel.Unite.ClientLauncher.exe

- 64 ビット OS :

C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\ Client 4.0.1649.6\Intel.Unite.ClientLauncher.exe

また、ピアツーピア・セッションのホストになる場合はファイアウォールで Intel Unite アプリケーションを除外する必要があります。除外すべき Unite アプリケーションはデフォルトでは下記になります。

- C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Client\current\Intel Unite Client.exe
- C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Client\current\ Intel.Unite.Module.Process.exe

除外手順に関しては、各クライアント PC で設定されているファイアウォール・ソフトウェアの説明書を参照ください。

### ● 証明書のインストール

証明書のインストール P.81 以降を参照し、クライアントパソコンへ証明書のインストールを行ってください。

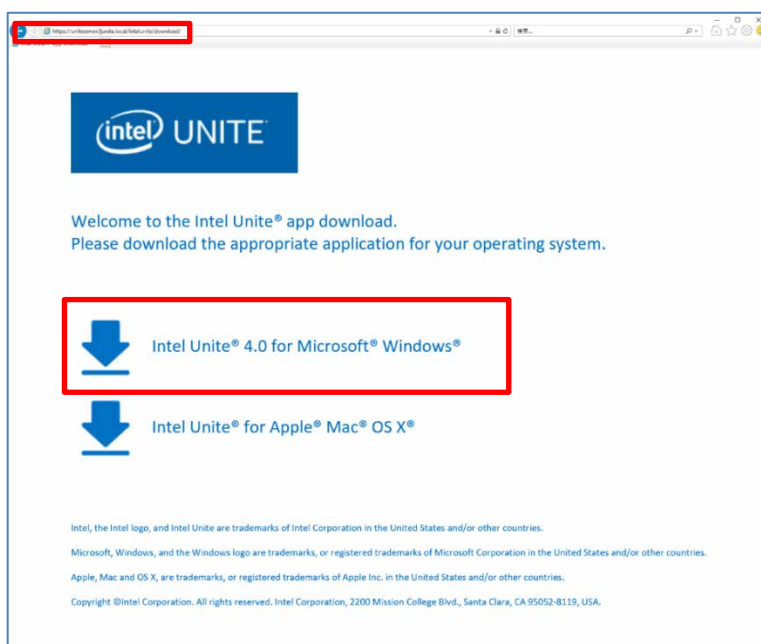
### ● Unite クライアントのインストール

- 1 Web サイトまたはエンタープライズ・サーバーのダウンロード・ページから、クライアント・アプリケーションのインストーラー（例：Intel\_Unite\_Client\_v4.0.1649.6\_x86.mui.msi）をダウンロードし、実行します。

- エンタープライズ・サーバーのダウンロード・ページは次のとおりです。

<https://<サーバー名>/intelunite/download>

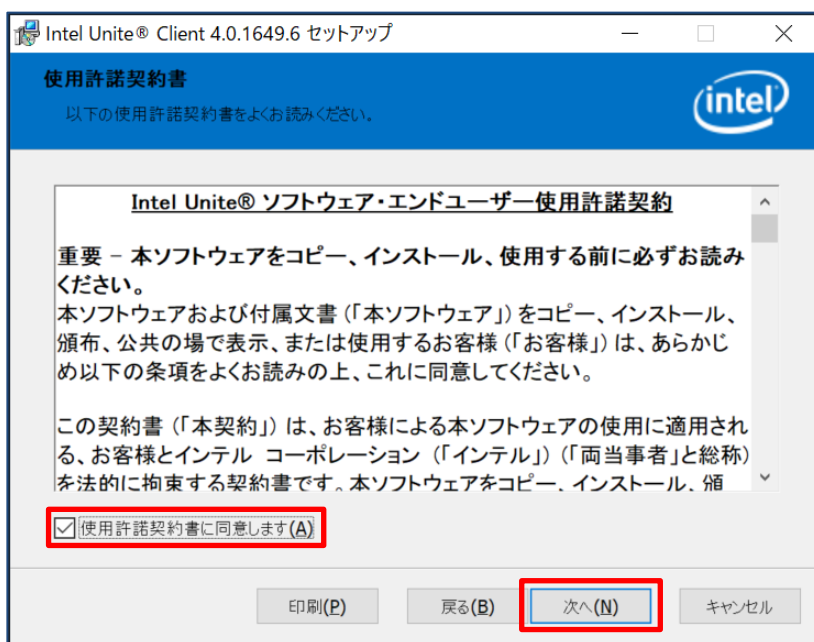
（例： <https://uniteserver.fjunity.local/intelunite/download>）



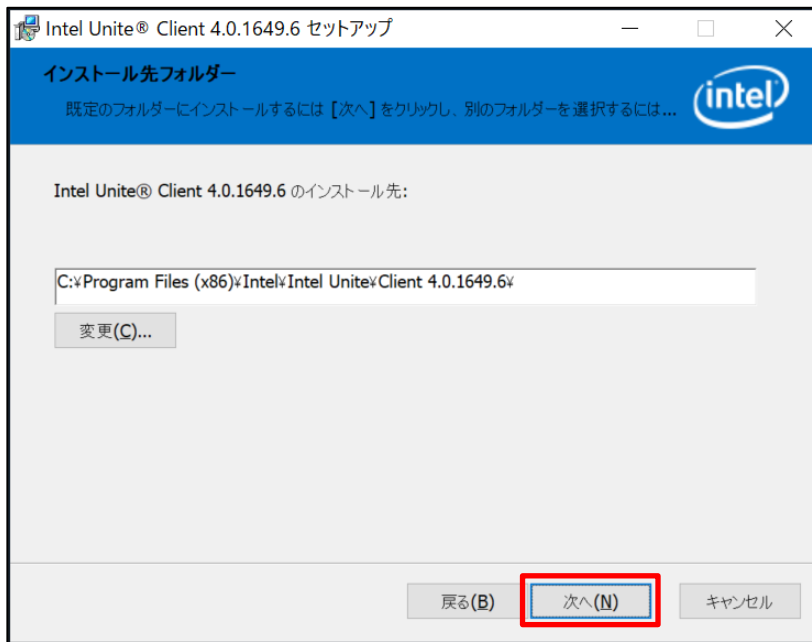
## 2 「次へ」をクリックします。



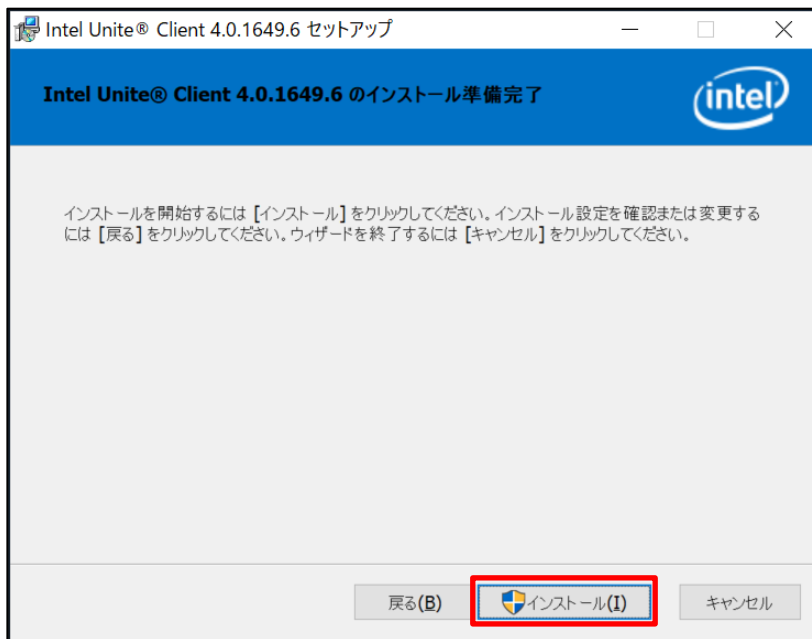
## 3 使用許諾契約書を確認し、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。



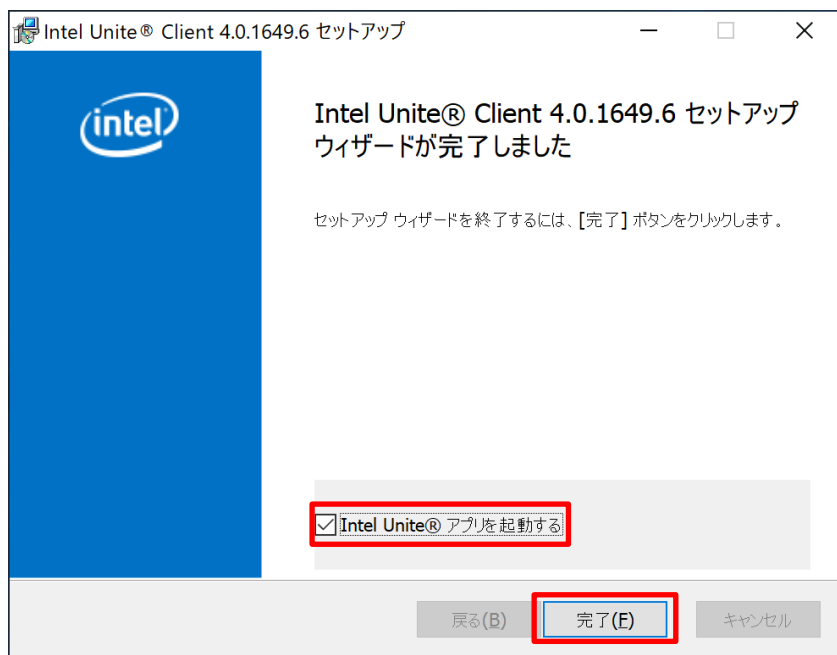
#### 4 「次へ」をクリックします。



#### 5 「インストール」をクリックします。

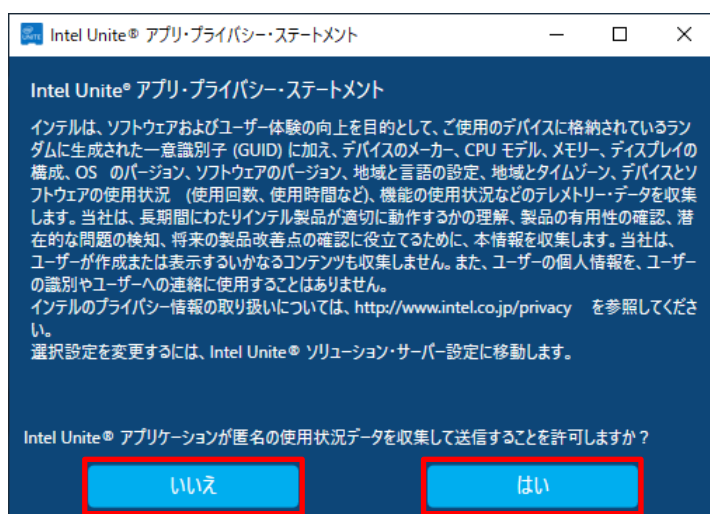


6 「Intel Unite アプリケーションを起動する」のチェックを付け「完了」をクリックし、インストールを終了します。

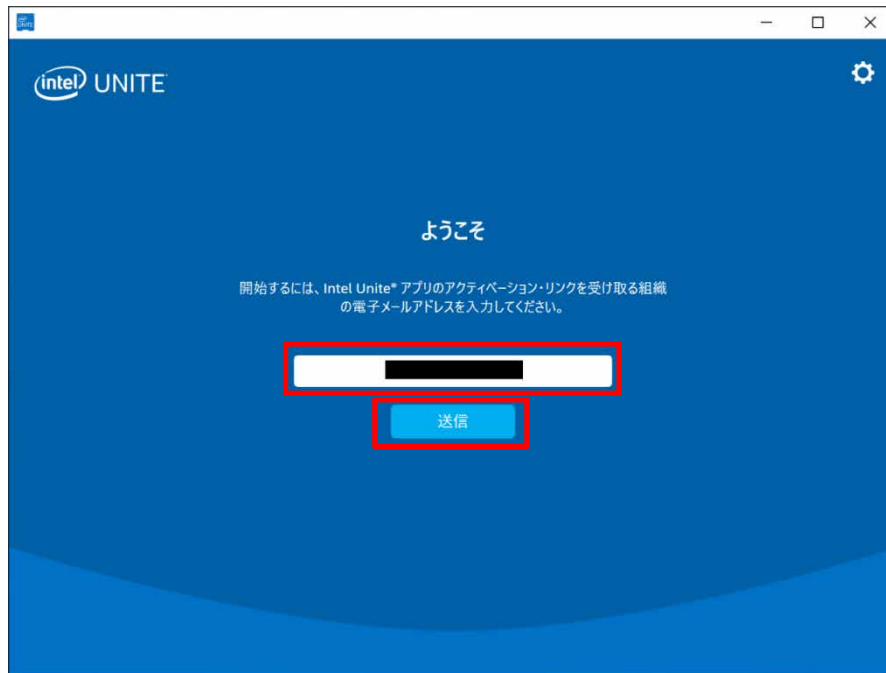


Intel Unite アプリケーション（クライアント）が起動し、「Intel Unite アプリケーション・プライバシー・ステートメント」画面が表示される場合があります。

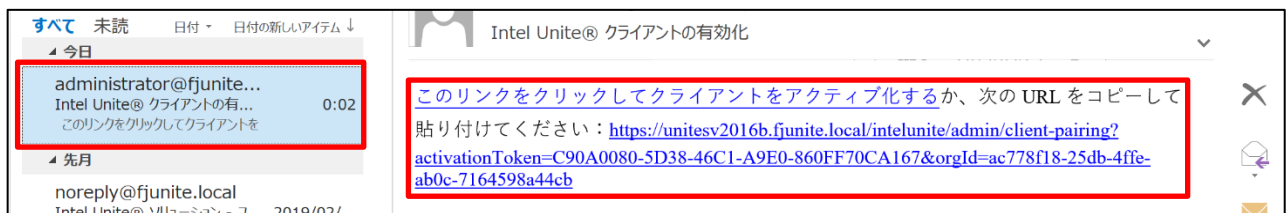
7 内容を確認し、「はい」または「いいえ」をクリックします。



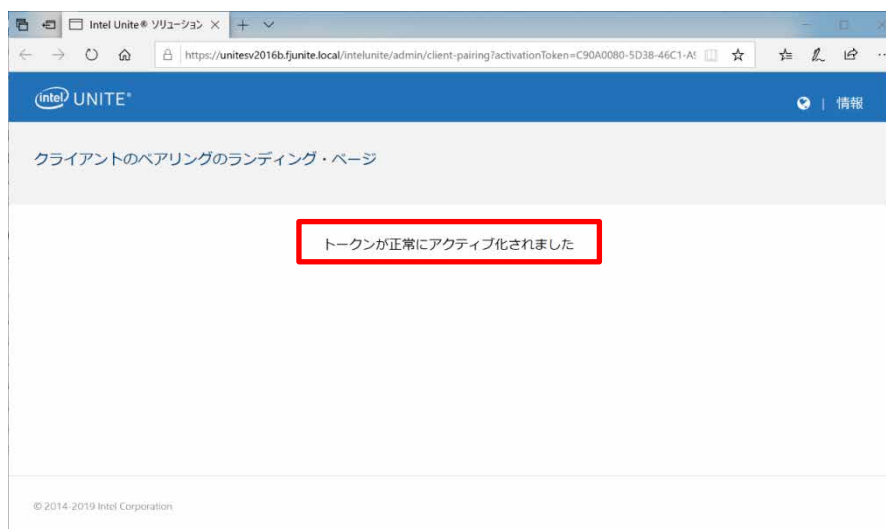
- 8 クライアント・ソフトウェアが起動後、クライアントのメールアドレスを入力し、「送信」をクリックします。



- 9 電子メールが届いたことを確認し、メール内のリンクをクリックします。



- 10 Web ブラウザが起動し、トークンが正常にアクティブ化されてことを確認します。

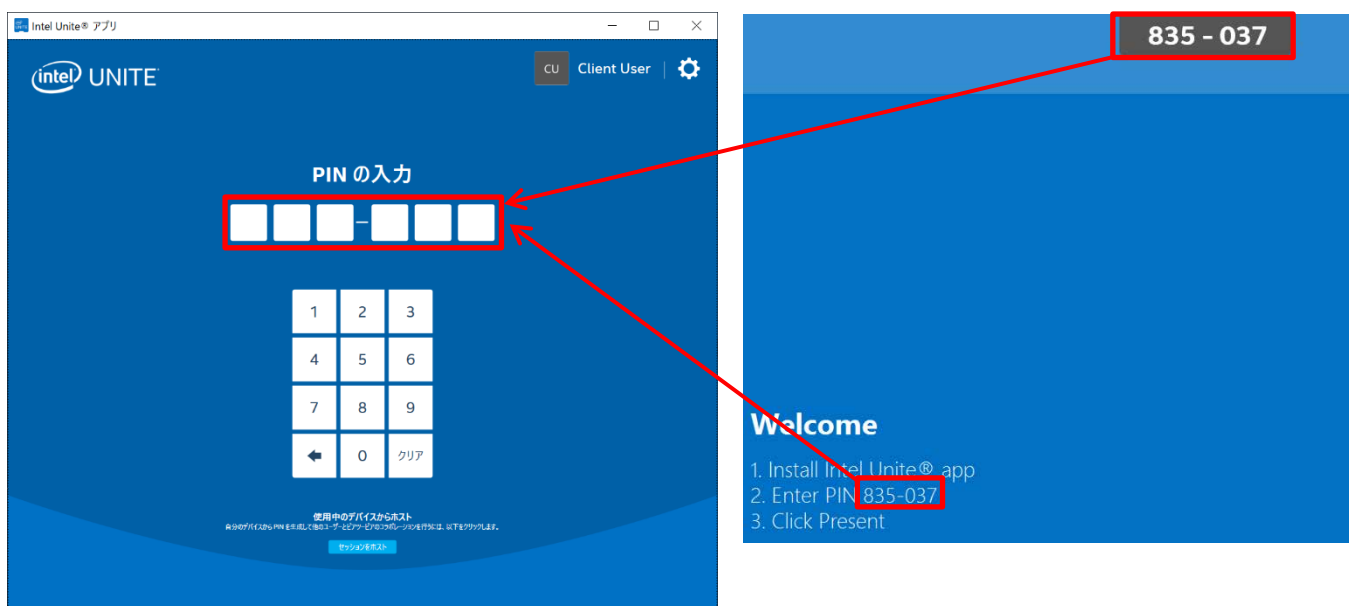


**11**「設定」画面が表示されます。右上の「×」マークをクリックします。

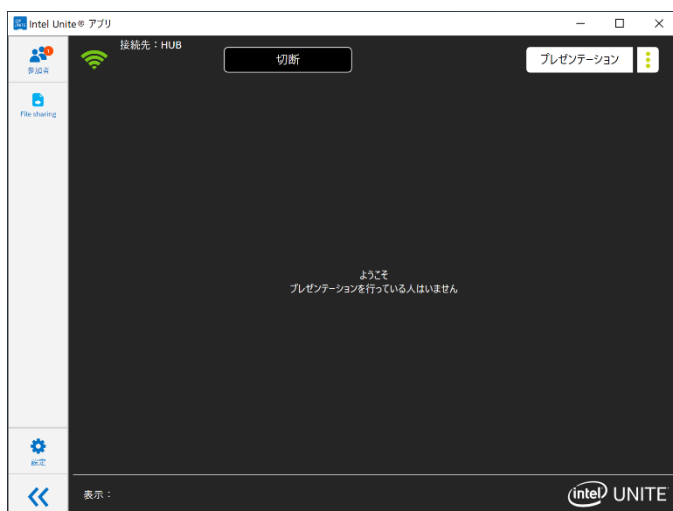


**12**ハブ PC の画面上に表示された PIN（6 ケタの数字）を入力します。

PIN は一定時間ごとに更新されますので注意が必要です。



ハブ PC との通信が確立されると、プレゼンテーション準備完了の画面が表示され、使用準備が完了します。



Unite アプリケーションの使用方法については、「Intel Unite ソリューション V4.0 ユーザーガイド.pdf」をご覧ください。

---

Intel Unite® V4.0 ソリューション構築ガイド

B6FK-2711-01 Z0-00

発行日 2019年7月

発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。